

2021年度事業報告

2021年度社会福祉法人多摩福社会事業報告

1. 50周年事業・中期計画・災害対策

・法人綱領策定、法人理念整理

50周年事業に向けての法人綱領策定、法人理念の整理は21年度には着手できなかった。経営会議に策定委員会が設置され22年度中に策定見込みとなっている。

・法人50年誌発行

法人50年誌発行は、原稿が集まって50年誌編集委員会で最終の編集作業に入っている。22年度に発行見込み。法人50周年記念祝賀会は22年11月に行う予定で準備が進められている。

・中期計画

法人全体の中期計画を改定したが十分な中期財政計画を立てることはできなかった。こぐま保育園の財政検討に着手し数年先に想定される大規模修繕、実態に合わせた定員変更などの検討を進めることができた。

・災害対策

大災害に対応できる拠点毎の危機管理について検討を開始することができなかった。

・新型コロナウイルス対策

迅速な感染情報の共有ができたものの、何度かの休園、休所と登園登所自粛要請を出さなければならなかった。感染対策マニュアルの改正を行った。

2. 評議員会理事会の開催、日常経営体制

・評議員会の開催

定時評議員会及び臨時評議員会を2回開催し、決算書類承認等を決定し法人運営について積極的な意見交換をすることができた。いずれもweb会議で行った。

理事、監事の改選にあたり、理事6名、監事2名を選任した。うち新任理事が1名、新監事が1名であった。評議員1名が3月末をもって辞任した。

・理事会の開催

理事会を7回行い、事業報告事業計画、予算決算、補正予算の審議決定、諸規程の改廃を行った。選任・解任委員会に諮るため、21年6月をもって任期満了となるため評議員の次期候補者名簿を承認した。理事長、常務理事、事務局長の再任を決定した。何れもweb会議で行った。法人全体の日常運営経営と保育内容に関して定期監査を実施したが、コロナ禍のため各拠点監査は書面監査で行った。

- ・経営会議の開催

理事長、常務理事、理事長指名の理事、各拠点代表により構成される経営会議を21回行った。保育情勢、人事採用・人事異動、処遇改善、研修事業等について審議執行し日常的な法人運営を行うとともに、予算及び決算、事業計画及び報告案を審議し理事会提案議題を決定した。また、経営管理者研修としての位置づけで、月に一度のペースで1時間ほどの実践、情勢、ハラスメント問題などの研修を行った。経営会議メンバーの学びの場となっている。事務局会議による事前の議題整理、フォーマットによる提案・報告様式を定め経営会議の時間を短縮することができた。

- ・施設長会議、課題別会議

施設長会議は、各自治体の保育情勢の交換、各施設運営の問題共有と意見交換し、施設運営の改善に反映することができた。特にコロナ禍対応について重点的に意見交換した。

施設長会議の他、人事委員会、就業規則等改定委員会、賃金・処遇改善委員会、研修委員会、広報委員会、リクルート委員会等の課題別の各種委員会および、職種別会議として事務長会議を行った。給食部会は行うことができなかった。それぞれ必要に応じて経営会議に提案を行うことができた。

- ・法人本部

法人本部は、職務を明確にした常勤3名体制で安定的に運営することができた。

3. 対外任務

- ・社会福祉経営全国会議、全国民間保育園経営研究懇話会、全国保育団体連絡会、東京民間保育園経営研究懇話会、日本学童保育学会、全国幼年教育研究協議会ではそれぞれ役員として任務を果たしたほか、関係自治体施設長会議では任務を果たした。また、各種団体等において報告記事論文等の投稿、研修業務講師などを担った。

4. 人事管理・研修

- ・労働時間の統一

労働組合と合意を得て懸案だった全拠点の労働時間の統一が図られた。すでに賃金制度については統一が図られているので、これで原則として法人内労働者処遇格差は解消した。

- ・職員処遇改善

均衡待遇確保に向けて有期契約職員の社会保険適用について処遇改善が図られた。長期的な職員処遇改革問題については十分に検討をすすめることはできなかった。

- ・職員人事データの法人本部集約

入職退職データ、法人内職位データ、辞令等のデータの蓄積整備ができた。引き続き改善を図っている。

- ・職員採用、人事異動

リクルートは各拠点希望の職種に応じた人数を確保することができた。全国からオンライン就職説明会への参加があり、これまでのリクルート活動が結実しつつある。リクルート活動と連動した人材定着策の検討が求められている。また、十分な規模ではないが拠点間の定期人事異動を行った。

- ・職員研修

研修委員会が核となって、新人研修、中堅研修、法人合研などの部会をおき、活発に進めることができた。いずれもオンラインで行った。特に多数の職員参加のもとで初めてオンラインで行われた法人合研は大変スムーズで好評であった。なお、研修については、経営会議より諸研修の体系化が必要との意見があり検討を開始している。

- ・他法人との交流研修

進めることができなかった。

5. 広報・ICT化

- ・法人ニュース

3回定期発行することができた。

- ・法人ホームページ

各拠点情報、リクルート発信、ウクライナ問題への発信など法人ホームページの充実を図ることができた。

- ・ICT化

各拠点のICT化の検討を開始しているが、法人全体のICT化に至っていない。

2021 年度 こぐま保育園事業報告

1. 事業実施状況

(1) 認可定員及び入所状況

1) 新規入所

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
認可定員	21	35	38	39	39	39	211
運用定員	21	35	38	39	39	39	211
新規入園	15	14	4	4	0	0	37
管外			1	1		1	

※管外2歳児・5歳児は8月のみ

2) 途中退園児

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
途中退園	2	3	4	2	2	1	13

3) 途中入園児

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	児童数
6月	2						2
8月	2						2
9月	1		1		1		3
10月	2				1		1
11月					1		1
2月		1					1
3月	1	1	2				4
合計	8	2	3		3		14

(2) 保育年齢 産休明け～就学前

(3) 保育時間 7：00～19：00

(4) 延長保育 1時間延長（18：00～19：00）

利用登録数 69名（うち0歳児4名）

(5) 1～5歳児の異年齢保育

(6) 障がい児保育 多摩市増配置加算申請 9名

発達要観察 20名（関係機関連携 19名）

- (7) アレルギー食対応数 配慮児童 12 名
- (8) 地域活動事業
- 体験保育 24 名
 - 産前産後育児体験 3 組
 - 小中高生育児体験 6 校 19 人
 - 実習生受け入れ 16 人
- (9) 多摩市特別保育事業
- 一時・定期利用保育事業
- ① 利用定員 定期利用保育定員 5 名。年間で 8 名利用。
一時保育 1 日 3 名程度 登録 29 家庭 延べ利用人数 276 名
 - ② 保育職員体制 常勤 1 名、非常勤職員 1 名
- (10) 自主地域活動事業（あそぼうかい…週 2 回、）
- あそぼうかい 延べ利用人数 1.2 歳児 15 家庭 28 名
0 歳児 6 家庭 12 名
 - 世代間交流 コロナ対策のため中止

2. 児童状況

① きょうだい関係

にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり
3 世帯	8 世帯	6 世帯	8 世帯	7 世帯	6 世帯

- ② 育児困難・配慮家庭 14 家庭 20 人（関係機関連携）
- ③ 発達観察要配慮児童 23 名（診断ならびに専門機関と連携あり）
- ④ アレルギー食対応 11 名

3. 職員状況

- (1) 正職員(在籍) 47 名
- 内訳 常勤職員 46 名、育休 1 名

① 正職員配置状況（2021 年 4 月 1 日現在）

園長	副園長	主任	保育士	事務長	看護師	栄養士	調理員	丸早専任	育休	合計
1	2	2	33	1	1	4	1		1	46

※保育士 にじ主任 1 名

※栄養士 給食主任 1 名

- ② 新規採用者 2 名（保育士 2 名）
- ③ 産休・育休取得者 5 名

- ④ 病休取得 6名
- ⑤ 休職者 1名 (7月中旬～12月)
- ⑥ 育休復帰者 1名
- ⑦ 育児時間短縮勤務 2名 (1名は11月より下記短時間席職員に転換)
- ⑧ 短時間席職員制度利用 1名
- ⑨ 異動職員 無
- ⑩ 退職者 6名 (2021年12月末日付2名、2022年3月末日付4名)

(2) 有期契約職員

① 有期契約職員配置状況 2021年4月現在

	にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり	給食	ちいくま	環境衛生	事務室	合計
必要人員	4	5	6	4	6	4		1	3		33
週5		4	3	2	6	3					18
週4	2	1					2	1			6
週3			3	1			4				8
週2		1		1							2
土曜									1		1

4月入職 4名 年度途中入職 17名

退職 15名 (うち 4名 2022年3月末退職)

(3) 嘱託医 3名

- ① 小児科医 1名 (高瀬 真人 日本医科大学永山病院小児科医局長)
- ② 産業医 1名 (八巻 こずえ 桜ヶ丘記念病院)
- ③ 歯科医 1名 (三上 直一郎 三上歯科医院医師)

(4) 講師

- ① わらべうた 勝俣希子 (コロナ対策により 6月より職員研修実施)

4. 協力関係機関との連携

- (1) 島田療育センター巡回指導 →コロナ対策で実施見合わせ
- (2) 発達支援室巡回・教育センター →巡回4件、就学相談4件
- (3) 市・子育て世代包括センター連携 6件
子ども家庭支援センターへの相談 14家庭 20件
- (4) 都保健所保健指導、児童相談所発達相談等の援助・協力
- (5) 産業医との連携 3か月ごとの安全衛生委員会開催と報告・相談、ストレスチェック実施

5. 新型コロナウイルス感染症対策についての報告

休園対象	休園期間	児童陽性	職員陽性	父母・児童家族	多摩市による 周辺 PCR 検査実施状況など
全園	8月27日 ～28日	2クラス2名 同時期感染			最初の感染が偽陽性であることが 判明したため実施中止
異年齢1 のおうち	2月24日 ～27日	1名			市による検査6名実施
異年齢2 のおうち	3月17日 ～21日	1名		家庭内感染 2人	市による検査6名実施
異年齢3 のおうち	3月18日 ～21日	3名		家庭内感染 2件5名	市による検査5名実施
異年齢4 のおうち	3月28日 ～31日	5名	1名	家庭内感染 2件5名	1人目の陽性者発症から7日以上 経過していたため市の検査は無。

- 1) 第5波の時期は保健所とやり取りし、指示を受けました。8月休園時は、全園で病欠者が57名と大変心配な状況を説明。濃厚接触者を丁寧に洗い出して検査に結びつけました。当時は保健所の検査対象にならないと医療機関では受けられない状況の時期でした。病欠児童が増加し、園が危機感を持っていること及び検査を受けられない児童の保護者の不安が大きいくことを市に訴えたところ、この件に対応する検査機能を持った特別診療が医師会によって行われることとなりました。その結果、新型コロナの拡大ではなく、RSウイルス感染症の拡大であったと予測されました。
多摩市による周辺検査は症状のない場合が対象のため、この時期の行政の検査体制や対策の欠陥が露呈した結果でした。
- 2) 2022年1月からの第6波では市の子育て支援課が園から聞き取りを行い、濃厚接触者疑いの児童を園と共に割り出していく行政対応となりました。児童の陽性者が発生したときに「休園の必要性」について市と迅速に検討するための準備を園が行いました。内容としては①児童が検査となった時点で、濃厚接触者や疑いの児童を特定するために市の基準にそって接触者名簿を作成し、陽性と確定した時点ですぐに当該おうちの休園決定について多摩市が判断できるようにして拡大防止を可能としました。②当該おうちの児童と職員の健康状況の把握を行い、かぜ症状などがあった児童がいる場合は接触者名簿に記入し参考にするなど、総合的な判断を行い取り組みました。
- 3) 日常の感染予防対策は感染数が下がっても緩めることはせず、保護者の送迎時の立ち入りは食堂までとしました。この点については2022年度のはじめに異年齢のひとつのおうちが変更しました。保育上の必要から保育室内への保護者の

立ち入りと協力を求めました。緊急事態宣言やまん延防止措置などが出され、多摩市でも患者数が上昇しているときは、複数のおうちを渡る職員が出席する会議についてはオンラインで行いました。職員会議は半分に分け短時間でおこなうように工夫するなど、大人同士が感染を起こさない様最大限対策を行いました。

6. 重点課題に対する取り組みについての報告

新型コロナウイルス感染症に対応し、あらゆる工夫や検討を行いながら保育する1年となりました。0歳児の定員割れの状況を受け、今後の長期計画策定にとりかかり、法人内にごぐま財政検討委員会を立ち上げ、定員変更、大規模修繕財政計画などを練り始める年度となりました。

2021年度の当初、1790万円の赤字予算でスタートしましたが、10月に0歳児の定員割れが解消し、さらに創造的計画的な財政支出の取り組みなどにより赤字を解消し1250万の積み立てをおこなうことができました。

多摩市による今後10年の入所申請予測がだされ、さらに当園の2年連続の0歳児の大幅な定員割れの状況を受け、今後の長期計画策定が急務となりました。法人内のごぐま財政検討委員会の立ち上げを提案、定員変更の検討、また大規模修繕計画案が出来上がったことを受け、必要積立金の割り出しと財政計画などを練り始める年度となりました。健全な財政計画は人件費見直し、職員体制の再構築が必要となっており、定員変更を含む中長期の取り組みへと継続していきます。

(1) 子どもの主体性、自主性が発揮できる保育を発展させます。

- ① 2020年度はじめは分析不可能なウイルスとの闘いで、特に年長独自の取り組みが制限され、大きな行事や父母が中心に運営するクラスの交流会などを中止せざるをえませんでした。保育の中で子どもたちのやりたい気持ちを大切に引き出しながら、クラスで相談してプチイベントを実現させたり、保育の中の工夫で子どもの育ちを支え、子どもの主体性を引き出してきました。昨年度の実践を生かし状況を見定めて保育を創造していくことを重点とします。

→2020年度同様、あそびの中では特に制限を設けず取り組むことができました。マスクの着用は4.5歳児の希望する家庭の児童についてのみとし、使ってみて児童が扱えるようなら継続するようにしました。マスク着用の不快さを子どもたちの日常の中に持ち込むことは避けるよう考えました。日常の遊びの中でじゃれあったり、友達と触れ合って交流したり、保育士とスキンシップをとることは乳幼児の発達の根幹にかかわることとして大切にしてきました。職員がマスクをしていても子どもたちの話す力の発達の遅れや心配される姿は今のところ見られず、今後もさらに観察し分析していきます。

年長児特有の行事である合宿や卒園遠足での取り組みは、コロナ以前のおりにはいきませんでした。園内合宿を行い、プチクッキングや宝探しなどをしました。卒園遠足では遊ぶ遊具やコースなどについても、子ども同士で相談や話し合いをしながら取り組むなど年長としての主体性を発揮することができました。ふれあい運動会は小学校を借りて参観人数を1家庭2人までに制限しておこなう計画でしたが、直前に緊急事態宣言が発令されたことで中止を余儀なくされ、大変残念でした。その後、園庭を使用して子どもたちと職員でおこなう運動会に変更し、保護者にはビデオ上映という形で共有するなど工夫しました。

当番活動はマスクを着用しエプロンは個人持ちを使用して、少人数で継続して取り組みました。クッキングは最後に火を通すものというルールで行い、行事の時に工夫しておこなうこととなりました。日常の中でおこなう味噌汁クッキングや包丁や道具を使うものなどの取り組みは少なくなりました。

生活面では感染予防対策の一つとして、保護者が保育室に入らず、衣類をエコバックごと各自のタンスへ入れるような方法をとったことにより、着替えなどの面で職員が援助する場面が多くなる傾向があり、生活面でのこどもたちの主体的な意欲の育ちという面では課題となっています。

② 歴史の上に立って保育内容を検討することにより保育内容を発展させます。

「現状の保育は試行錯誤の中で姿を変えてきた。子ども、父母の生活実態をつかみ、子どもと父母の主体性を最大限発揮して子どもの育ちを支えることを目標に歴史的に創造されてきたもの」という点を職員がつかんでいけるよう、様々な場で45年史を活用していきます。職員が「歴史を振り返って検討する視点」を持ち、そのことが保育士の主体性と保育内容の発展につながるようめざしていきます。

→四半期毎の保育総括の折に異年齢保育以外の面についても、その時々課題に対し、歴史的にはどう検討されてきたかについて45年史を使って園長が話す機会を持ちました。1期は「地域要求に沿って定員増に取り組んだこぐま保育園の0歳児保育の歴史」、2期は「行政と共におこなうコロナ対応の実際」、3期は「異年齢保育を検討し始めたときの社会状況、子どもの実態」、4期は「地域の親子があそぶ場所もなかった時代から、当園が作ってきた実践と制度を求め実現へ」というテーマで伝えました。「今ある保育内容は父母や子どもの実態に応じて変遷してきたもの」であり、歴史の上に立って内容検討をしていく必要性を職員に伝えるよう取り組みました。

責任者会議では保育内容の検討をおこなう折には、当園の歴史の中では同じような質のことがどう検討され、それがどう生かされているかという視点（どうして今の到達点で取り組んでいるのか）で検討することに取り組みました。引き続きの課題となっています。

(2) 職員の主体性が発揮できる運営を目指します。

① 幹部体制、事務室体制の構築

幹部の世代交代及び法人事業計画にある多摩市内外の施設拡大を念頭に置き副園長、主任などの幹部養成をおこなっていきます。副園長3人体制を目指しつつ、2021年度は副園長2人体制を実現させ、運営の安定を図るとともに、園運営の視点を引き継いでいくことに重点を置きます。中期計画のなかで計画的に複数人が主任を経験することをめざしていきます。

② 職員集団づくり

職員が自分の可能性を見出し、生き活きと働きがいのある職場づくりをめざします。夫々の個性を認め合い、自信をもって仕事に向かえるよう職員集団作りを重点とします。副園長、主任などがおうち運営について援助していくことを大切にします。

③ 職員体制、構成の検討再構築をおこないます。

2021年度4月に0歳児の定員割れが発生しました。多摩市の乳幼児人口の減少とコロナによる入所時期の延期などの影響も考えられますが、地域要望などをつかみ、情勢分析を行い適正な定員について多摩市とともに検討していきます。

0歳児の定員減少運営費の大きな減収につながっており、中期的な見通しを立て職員体制全体の検討を行います。

④ 働く環境をととのえ、働きやすい職場づくりを行います。

2017年度より3ヵ年計画で検討してきた結果をふまえ、法人内各事業所との労働時間の統一化を図ってきました。2020年度、一時的な統一化を実施することはできませんでしたが、変形労働制の実用、土曜日出勤体制、会議時間保障など、引き続き様々な課題があります。

また、結婚、出産と重なる時期をむかえる職員層が増え、産休・育休取得希望者の増加や復帰してからも働き続けられる環境の整備など、多様なニーズが求められています。保育士確保が難しく人材が財産である保育現場にとって保育の質の維持・向上のためにも、短時間正規職員制度や所定労働時間の短縮措置等の制度など、既存の制度を活かしつつ創意工夫しながら働きやすい職場づくりを総合的な観点から目指していきます。

→労働時間については法人内各事業所との統一が3年越しの取り組みで実現しました。土曜月1回出勤になったことにより、保育室の環境づくりが課題となりましたが、残業時間として計画的に設定するなど対応の具体化にとり組みました。

育児のための1時間短縮勤務を昨年度同様の2名が取得、その後1名が短時間正規職員制度を利用しました。

半面、育児と仕事の両立が課題となり、ここ数年では中堅やベテラン職員が退職に至っている例があります。両立しづらい時期をどう乗り切るか、また有資格の有期雇用職員が8時

間に近い就労希望があるなど、ワークライフバランスが喫緊の課題となっています。

秋から年度末にかけては人員体制が不安定となり、事務室の人員を現場に投入する結果となりました。2021年度途中、中堅職員の4名が産休育休に入り、8月より11月にかけて病休6名、12月に家庭都合退職などがありました。クラス責任者がグループ担任として位置づくことは計画してありましたが、年度途中での有資格者補充人員は全く確保できず、派遣会社の利用及び有期雇用職員の協力を求めました。また、副園長が担任としてクラスに入る対応、また、副園長、主任2人が病休・休職のクラス・職域入り、法人各施設からも様々な形での応援で乗り切ることができました。事務室体制の不安定さは年度末まで続く状況がありました。

(3) 父母と共に子育てを考え、互いに力を出し合う運営を発展させます。

- ① 昨年度は交流することを制限せざるをえませんでした。日常のふれあいの大切さ、思いを共有することの大切さを痛いほど感じてきた2020年度でした。「集まること」が許される状況になったら、歴史的に積み上げてきた取り組みを徐々に取り戻していくことはもちろんですが、工夫して交流し、2020年度入園児の父母や新入園児の父母が子育ての思いを共有でき、年々培われてきた子育ての輪が発展するよう努力をします。
- ② こうなってほしい、こういう力をつけて欲しいという父母の願いを共有しながら、異年齢保育で育ち合う姿、ついていく力をわかりやすく伝えていきます。職員も父母との伝え合いを通して成長できるようにします。
- ③ 昨年度同様、新型コロナウイルス感染症については、感染拡大防止の観点から、保護者への情報開示は個人情報保護に最大限配慮しつつ迅速におこなうことと取り組めます。また、父母会とも学習などを行い、連携して立ち向かっていけるよう目指していきます。

→送迎時に父母と担任がゆっくり話すことができない状況は続き、それを補う方策に取り組みました。保護者と職員の運営委員会で相談し、リモート懇談会やリアルとリモートのハイブリット懇談会、映像鑑賞懇談会など要望や知恵を出し合い、実施することができました。子どもの姿を共有しできたことが大きな成果でした。

夏まつりのクラス別お神輿、トトロ神輿では保護者が参観することができ、「集まらないで楽しむ冬まつり」では保護者の実行委員が大活躍しました。昨年度入園した保護者や新入園の保護者が子育ての思いを共有できることの快さを少しずつ体験できました。

要望の高かった保育参加については、おうちごとに運営委員会で要望をまとめて父母同士が合意する方法を検討し取り組むことができました。

コロナ対策における保護者の協力は多大なものがありました。玄関での手洗いをはじめ、職員も児童もその家族も検査になった時点で、個人情報に配慮した記載方法で情報を出す

ことは保護者の了解で継続しました。そのことにより、それぞれの家庭が仕事に必要な対策として、子どもの出席考慮や自分自身の検査などにつなげることができました。また休園となった折には不安や仕事の調整など大変な中、保護者からはたくさんの励ましをいただき、日々の保育の積み重ねのなかで信頼関係が作られていることを実感しました。

(4) 地域の人々にとっての福祉環境の発展にさらに貢献します。

- ① 昨年度は人数制限をおこなって「あそぼうかい」などに取り組んできました。世代間交流は制限せざるをえず、大変残念でした。これらの事業は 2013 年度までは都と市の公的事業として取り組んでいましたが、市の事業再編により各園とも自主事業となっています。保育園が地域住民のためにより力を発揮することは求められています。公的事業として取り組めることを目指していきます。一時保育事業、永山学童クラブや児童館との連携を密にして永山地域一帯を子どもたちから高齢者まで生活しやすい地域にすることをめざします。
- ② 一時保育・定期利用保育事業を発展させます。
昨年同様、交流する異年齢のおうちに遊びに行き、共に過ごす実践をさらに充実・発展させます。
- ③ 学童 4 施設との交流、保育内容の充実、連携を深めていきます。
- ④ 協力・共同関係にある父母会、五者協議会、同窓会、労働組合などとともに子育てと福祉の輪を広げ発展させていきます。

→地域事業は、コロナ渦のなかでも緊急事態宣言が出ていない時期に、予約制・少人数で行いでしたが、感染状況に加え、予約制のため利用が減少する結果となりました。再検討し、保育園玄関から入室し、一時保育室と完全に別室にする方法でおこなうことし、予約制をなくして再出発しましたが、その矢先に児童の感染の多い第 6 波に入り、再度開催見合わせとなり大変残念でした。定期利用保育、一時保育は感染拡大の時期には利用が少なく、例年の 2 割から 3 割の利用と減少しました。

学童との交流はコロナ対策により見合わせました。

7. 職員研修計画に対する取り組み

昨年度は「大人数集まること」「外部で学ぶこと」は感染防止の観点から自粛せざるを得ず、十分に実施することができませんでした。2021 年度は感染状況や社会動向を見ながら例年おこなっていたものに取り組んでいきます。法人研修とともに体系化しつつ、1.2 年目の職員にはバディ制度をより明確にしつつ取り組んでいきます。

また、国が進めているキャリアアップ研修についても計画的な実施を進めていかなければなりません。日々の保育充実と共に両立させていくために、人材の補充と体制の確保、個別や集団での振り返りを副園長・主任を中心に組織しながら、職員全体の共有性

を高めます。

→2021年度より導入したバディ制度については、新入職員ならびに受け入れをおこなった
おうち職員ともに、有効的であったとの感想が寄せられました。継続的な振り返りの機
会を持つことで職員同士の連携も密になり、同時にグループ担当制と同じように安心感
をもって一年間の職務に取り組めたことが報告され大変充実したシステム構築への第一
歩を踏み出せたと考えられます。

「外で学ぶ」については、時代的背景も相まって「オンライン」や「オンデマンド」で
の研修が充実したことが功を奏し、積極的な受講が目立つ一年となりました。同時に園
としても東社協や保育プラザなどの研修を申し込み、職員が参加しやすい環境づくりに
取り組んできました。一方で、計画の「共有性を高める」という点においては不十分で
あったことが反省点となります。園全体として職員が集まる会議や研修などを実施す
ることがコロナ禍によりままならず、学びを持ち寄り話し合ったり、振り返りあったりな
どの作業ができず、次年度の課題としていきたいと考えます。

キャリアアップ研修については、R5年度より特例経過措置の運用実施の通知もあり、具
体的な計画表も作成しながら積極的な研修受講を目指しました。その結果14名17項目
の研修終了をすることができました。しかし、こぐま保育園は規模が大きいいため、終了
要件を満たす職員確保は容易ではないため、引き続き計画に基づき取り組んでいきま
す。

こうした外部の力を借りた研修の充実を図ると同時に、園内研修の充実を図ることもで
きた一年でもありました。新人研修・不審者対応・リスクマネジメントなど多岐に渡る
内容の研修を計画、実施できました。職員の入れ替わりも多い中で、基本的事項につい
て学ぶことができたのは大きな成果になりました。

<実施研修>

(1) 園内研修

- ① 全員研修（荒馬、ドル平、他）
- ② 講師による研修（わらべうた、不審者対応、他）
- ③ 新人研修（保健関係、乳児保育研修、離乳食研修、他）
- ④ 研究会（体育、わらべうた、美術）

(2) 出張研修

(3) 法人研修

(4) 自主研修

上記3項目については一覧表を作成し参照とします。

8. 修繕計画に対する取り組み

2020年度実施した中・長期修繕計画見直しを活かし、見通しを持った修繕の実施と本年度の計画をおこなっていきます。一方、福祉医療機構施設整備借入金の返還が終わり、予算との関係性も見ながら建て替えを見据えた計画が必要となってきます。

ただし、2021年度は収入の減収や見通しの持ちづらさがあり、必要最低限にとどめます。

外壁補修工事・ゴミサー入れ替え・厨房冷蔵庫入れ替え、その他を行います。

→2021年度の修繕については、当初の計画通り必要最低限の修繕にとどめることとしました。主な実施内容については以下のようにまとめています。

生ごみ処理機・超音波哺乳瓶洗浄機・コンセント等修繕工事・その他軽微修繕工事

この上に立ち、2021年度中に改めて修繕計画の方針検討を行いました。事務局長、設計会社、保育園の三者で検討会を持ち、建物の骨組みとなる躯体の部分についての修繕を中心に中規模修繕を行い、内装等については劣化の状況と児童定員や今後の事業展開に合わせて適宜実施をしていくこととなりました。

2021年度 こぐま保育園 参加研修一覧（出張）

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
1	にじ	運動発達と口の機能発達から	町村 純子	リモート	2月3日	最近の子どもたちの育ちにくさを考える		○	○
2	もり	子どもの発達と集団作りのすじみち	全幼協		4月18日	発達心理学		○	
3	にじ	子どもの発達と集団作りのすじみち	服部 敬子	リモート	4月18日			○	
4	やま	ファンリテーション研修	東京都社会福祉協議会 鈴木健史	リモート	6月21日	ファンリテーション研修～会議の進行やチームをまとめるための～			
5	給食室	乳幼児の食べる機能と行動の発達	井上 美津子	リモート	6月23日			○	○
6	そら	幼児保育研究会	経営懇幼児研究会	リモート	6月23日	かかわって育とう～支え合い、今日を生き、未来を拓く力を	○		○
7	うみ	2021年度幼児保育研究会Bかかわって育とう	東京経営懇	こぐま保育園	6月23日	乳児保育の現状と課題、意義と役割	○		○
8	やま	人と人をつなぐわらべうた	白梅学園大学・白梅学園短期大学	リモート	6月26日	「人間と音楽、コミュニケーションとしてのわらべうた」「わらべうた実践と解説」			
9	もり	人と人をつなぐわらべうた	白梅学園大学 山本由紀子	リモート	6月26日	「人間と音楽、コミュニケーションとしてのわらべうた」「わらべうた実践と解説」		○	
10	そら	子どもの発達のために大人ができること～「あそびと子どもの発達」の関係について～	井上 聡子	リモート	6月27日				
11	そら	発達障害基礎講座	田口研究会	リモート	6月27日	子どもの発達のために大人ができること			
12	もり	中堅層研修	中堅層研修	こぐま保育園	7月3日	いま求められている保育・育成が何かを考えよう～子供の声に寄り添った、保育・育成を、めざして～			
13	そら	中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	7月3日	いま求められている保育・育成が何かを考えよう～子供の声に寄り添った、保育・育成を、めざして～			
14	にじ	中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	7月3日	いま求められている保育・育成が何かを考えよう～子供の声に寄り添った、保育・育成を、めざして～			
15	もり	中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	7月3日	いま求められている保育・育成が何かを考えよう～子供の声に寄り添った、保育・育成を、めざして～			
16	うみ	中堅層研修	中堅層研修	こぐま保育園	7月3日	いま求められている保育・育成が何かを考えよう～子供の声に寄り添った、保育・育成を、めざして～			
	やま	中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	7月3日	いま求められている保育・育成が何かを考えよう～子供の声に寄り添った、保育・育成を、めざして～			
	ちいくま	中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	7月3日	いま求められている保育・育成が何かを考えよう～子供の声に寄り添った、保育・育成を、めざして～			
	給食	中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	7月3日	いま求められている保育・育成が何かを考えよう～子供の声に寄り添った、保育・育成を、めざして～			
20	かぜ	中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	7月3日	いま求められている保育・育成が何かを考えよう～子供の声に寄り添った、保育・育成を、めざして～			
21	事務所	中堅層研修	中堅層研修	こぐま保育園	7月3日	いま求められている保育・育成が何かを考えよう～子供の声に寄り添った、保育・育成を、めざして～			
22	そら	言語聴覚士が教える自閉症児のこぼれを引き出すコツとすぐに役立つ実践のヒント	発達Labo,言語聴覚士 西村千織	リモート	7月18日				
23	もり	全国幼年教育研究協議会～つながりあおう支えあおう一人ひとりを尊重して～	両角純子 尾絹久美子	リモート	7月22日	乳児保育をどうすすめるかわらべうた・音楽		○	
24	そら	コロナ禍の子どもの育ちを保障するために～脳科学的視点から見た乳幼児期における育ちの危険と支援～	東社協保育部会会員施設	リモート	7月27日				
25	うみ	コロナ禍の子どもの育ちを保障するために	東社協保育部会 総務委員会		7月27日	コロナ禍の子どもの育ちを保障するために		○	
26	かぜ	コロナ禍の子どもの育ちを保障するために～脳科学的視点から見た乳幼児期における育ちの危険と支援～	東社協	リモート	7月27日			○	
27	もり	東社協保育部会 総務委員会主催研究部	東社協 朝和政子		7月27日	コロナ禍の子どもの育ちを保障するために～脳科学的視点から見た乳幼児期における育ちの危険と支援～		○	
28	そら	多様な子どもとその家族を支える保育	チャイルドフットラボ 藤原里美	リモート	7月30日				
29	やま	合研	合研	リモート	7月31日				
30	かぜ	第53回全国保育団体合同研究集会	第53回全国保育団体合同研究集会 実行委員会	広島県立総合体育館	7月31日			○	

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
31	やま	合研			8月1日	子どもの「声」を聞き取り、子どもとつくる保育/夢中になってあそび込む保育を 保育講座			
32	そら	全国保育団体合同研究集会	川田学・木下孝司	リモート	8月10日	オンライン分科会			
33	うみ	全国保育団体合同研究集会	実行委員会	広島+オンライン	8月10日	子どもの命と育ちと平和のためにみんなでチャレンジ		○	
34	そら	第53回全国保育団体合同研究集会 in広島	木下 孝司	リモート	8月13日	気になる子が変わるとき～困難をかかえる子どもの発達と保育～			
35	そら	合研	木下 孝司	リモート	8月13日	「気になる子」が変わるとき		○	○
36	そら	田研 2021 幼児心理講習会	田中教育研究所	エッサム神田ホール2号館	8月16日	子どもと親の育ちを支える保育者コース			
37	かぜ	幼児心理講習会	田中教育研究所	リモート	8月16日	子どもと親の育ちを支える保育者、幼児期の遊びと学び		○	
38	そら	田研セミナー			8月17日	幼児心理講習会 幼児の遊びと学び			
39	給食室	全国保育団体合同研究集会	合同研究集会実行委員会	リモート	8月27日	子どものいのちと育ちと平和のためにみんなでチャレンジ!		○	
40	事務室	社会福祉経営全国会議		リモート	9月22日	「つながろう! 思いや悩みを語り合おう! その思いを国に伝えよう!」まずは法人経営の悩みなどを交流すること		○	○
41	そら	令和3年度 東社協保育部会「保育講座②」	秋山邦久		10月9日	「子どもに寄り添うためのコミュニケーションスキル」			
42	やま	子どもに寄り添うためのコミュニケーションスキル	東社協	リモート	10月18日	子どもに寄り添うためのコミュニケーションスキル			
43	もり	子どもに寄り添うためのコミュニケーションスキル	秋山邦久		10月19日			○	
44	うみ	子どもに寄り添うためのコミュニケーションスキル	東社協保育部会		10月20日	子どもに寄り添うためのコミュニケーションスキル		○	
45	そら	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく		×	園内研修
46	そら	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修
47	そら	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修
48	そら	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修
49	そら	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修
50	給食	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修
51	給食	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修
52	給食	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修
53	にじ	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修
54	にじ	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修
55	にじ	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修
56	にじ	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修
57	にじ	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修
58	にじ	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修
59	かぜ	法人合同研修	多摩福祉会	こぐま保育園	11月6日	実践提案①子どもたちと作る保育②コロナ禍での保護者とのやりとりから③コロナ禍でもおいしくたのしく	×	×	園内研修

2021年度 こぐま保育園 参加研修一覧（出張）

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
89	給食	食育・アレルギー	多摩市保育協議会	リモート	10月14、18、21	食育アレルギー	○	×	
90	ちいくま	東京都保育士等キャリアアップ研修	多摩市保育協議会	リモート	12月2日・12月3日	幼児教育リーダー研修	○	×	○
91	かぜ	東京都保育士等キャリアアップ研修	多摩市保育協議会	リモート	12月2日・12月3日	幼児教育リーダー研修	○	×	
92	事務室	第41回民間保育園経営研究セミナー	全国経営懇	リモート	1月10日・1月11日		×	○	○
93	もり	幼児教育	一般社団法人保育プラザ	リモート	6日、2月2、9、	幼児教育	○	×	
94	そら	東京都保育士等キャリアアップ研修	多摩市保育協議会	リモート	2/10/22、11/26、1	保育リーダーのためのマネジメント力向上研修	○	×	○
95	やま	東京都保育士等キャリアアップ研修	多摩市保育協議会	リモート	2/10/22、11/26、1	保育リーダーのためのマネジメント力向上研修	○	×	○
96	事務室	東京都保育士等キャリアアップ研修	多摩市保育協議会	リモート	2/10/22、11/26、1	保育リーダーのためのマネジメント力向上研修	○	×	
97	事務室	ファシリテーション研修	東京都社会福祉協議会	リモート	5月21日～8月6日		×	○	○
98	やま	「乳児保育研究会」	東京経営懇	保育プラザ 牛込神楽坂駅	6/16、7/14、9/8、10/13、		○	×	○
99	にじ	「乳児保育研究会」	東京経営懇	保育プラザ 牛込神楽坂駅	7/14、9/8、10/13、	「保育の指導計画・記録及び評価」	○	×	○
100	にじ	ココロ力を育む気持ちコミュニケーション ～コロナ禍を生き抜くためにも身に付けようアン	野村 恵理	リモート	7月14日～8月4日			○	○
101	事務室	合研	合研実行委員会	リモート	7月31日～8月1日			○	○
102	そら	全国保育団体研修会	全国保育団体連絡会	リモート	8月	気になる子が変わるとき		○	
103	事務室	合研	全国保育団体合同研究集会実行委員会	リモート	8月10日～8月31日			○	○
104	事務室	全国保育団体合同研究集会	全国保育団体合同研究集会	リモート	8月10日～8月31日			○	○
105	事務室	全国保育団体合同研究集会	全国合研実行委員会	リモート	8月10日～8月31日	個人を尊重し、つながりをはぐくむ保育		○	○
106	事務室	第53回全国保育団体合同研修		リモート	8月1日～8月31日			○	○
107	事務室	東京都保育士等キャリアアップ研修	東京都民間保育園協会	リモート	25日・9月8日・9月	マネジメント	○	×	○
108	にじ	三幸保育ガレッジオンライン研修 (9/25) 組織内コミュニケーション研修	三幸保育ガレッジ	リモート	9月25日・11月13日			○	
109	事務室	東京都保育士等キャリアアップ研修	一般社団法人日本ウェルフェアサービス	リモート	オンデマンド	保護者・子育て支援コース	○	×	
110	事務室	東京都保育士等キャリアアップ研修	一般社団法人日本ウェルフェアサービス	リモート	オンデマンド	保護者・子育て支援コース	○	×	
111	事務室	東京都保育士等キャリアアップ研修	一般社団法人日本ウェルフェアサービス	リモート	オンデマンド	幼児教育	○	×	
112	事務室	東京都保育士等キャリアアップ研修	一般社団法人日本ウェルフェアサービス	リモート	オンデマンド	保護者・子育て支援コース	○	×	
113	やま	はう運動遊びで育つ子どもたち/生活遊びで育つあそび がまんする力を育てる保育	今井寿美枝、丸山美和子	書籍				○	
	そら	背景から考える 気になる子の保育サポートブック	木村一優・岩瀬寿美子・西村和久 新星出版社					○	書籍
115	うみ	保育的発達論のはじまり 個人を尊重しつつ「つながり」を育むいとなみへ	川田学			保育的発達論のはじまり 個人を尊重しつつ「つながり」を育むいとなみへ		○	書籍
116	にじ	第53回全国保育団体合同研究集会	小田 学	リモート	8月10日	個人を尊重し、つながりをはぐくむ保育とは		○	
117	事務室	第41回民間保育園経営研究セミナー	全国経営懇	リモート	2022/1/10～1/11	職員育成		○	

2021年度 こぐま保育園 参加研修一覧（出張）

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
118	かぜ	令和3年度神奈川県子育て支援員研修	神奈川県子育て支援員研修事務局	川崎市役所第4庁舎	11月2日～11月23日 (Eラーニング) 11月24日集合研修	地域子育て支援コース			
119	かぜ	多摩市子育て支援員研修	リモート、市内保育園、多摩市役所	リモート、市内保育園、多摩市役所	2021年10月12日～2022年2月1日	地域子育て支援コース			
120	ちいくま	多摩市子育て支援員研修	リモート、市内保育園、多摩市役所	リモート、市内保育園、多摩市役所	2021年10月12日～2022年2月1日	地域子育て支援コース			
121	うみ	多摩市子育て支援員研修	リモート、市内保育園、多摩市役所	リモート、市内保育園、多摩市役所	2021年10月12日～2022年2月1日	地域子育て支援コース			
122	全	不審者訓練	こぐま保育園	こぐま保育園ホール	10月20日	不審者訓練			
123	全	救急応急救護	こぐま保育園	こぐま保育園ホール	6月18日	応急救護学習			
124	全	消火器訓練	こぐま保育園	こぐま保育園園庭	11月24日	消火器訓練（消防署と連携）			
125	全	セルフケアワークブック	こぐま保育園	こぐま保育園	4月17日	セルフケアメンタルヘルスケア			
126	全	ドル平研修	こぐま保育園	こぐま保育園	7月2日	ドル平研修			
127	にじ	離乳食研修	こぐま保育園	こぐま保育園	4月1日	離乳食研修			

有期職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
163	かぜ	令和3年度神奈川県子育て支援員研修	神奈川県子育て支援員研修事務局	川崎市役所第4庁舎	11月2日～11月23日 (Eラーニング) 11月24日集合研修	地域子育て支援コース		○	
164	かぜ	多摩市子育て支援員研修	リモート、市内保育園、多摩市役所	リモート、市内保育園、多摩市役所	2021年10月12日～2022年2月1日	地域子育て支援コース			
165	ちいくま	多摩市子育て支援員研修	リモート、市内保育園、多摩市役所	リモート、市内保育園、多摩市役所	2021年10月12日～2022年2月1日	地域子育て支援コース			
166	うみ	多摩市子育て支援員研修	リモート、市内保育園、多摩市役所	リモート、市内保育園、多摩市役所	2021年10月12日～2022年2月1日	地域子育て支援コース			

2021年度 練馬区立向山保育園事業報告

1. 児童状況

(1) 認可定員 120名 運用定員 124名

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	9	18	21	23	24	25	120
運用定員	9	19	22	24	25	25	124

(2) 保育年齢 8か月～就学前

(3) 児童状況

- ①アレルギー児 1歳：3名（卵・卵・卵、乳製品）、2歳：2名（卵・ﾊﾞｯﾀ）
3歳：1名（卵）、4歳：1名（卵）
- ②障がい児 3名
- ③外国人家庭 5家庭

2. 保育時間

開園時間 7時00分～20時30分

延長保育 7時00分～ 7時30分・18時30分～20時30分

3. 職員状況

(1) 正職員

職種	園長	副園長	主任	事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	環境衛生	合計
人数	1名	2名	1名	1名	1名	24名	4名	1名	1名	36名

※主任4名（乳児・保健・給食・環境衛生）

(2) 正職員状況

- *新規採用者 栄養士 1名
- *育休復帰者 保育士 2名、環境衛生 1名
- *産育休者 保育士 1名、栄養士 1名
- *退職者 保育士 2名、栄養士 1名
- *異動者 栄養士 1名

(3) 有期契約職員

職種	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	給食	環境	日祝専	土曜専	合計
人数	2名	4名	2名	2名	1名	1名	3名	2名	1名	1名	19名

*日祝：調理補助 1名

*土曜専任：1名

(4) 嘱託職員

① 嘱託医

和田ファミリークリニック 和田万里子先生（小児科医）

安藤歯科医院 安藤浩徳先生（歯科医）

② 産業医

田中医院 田中美緒先生（内科・神経内科医）

③ 講師

鈴木典子先生（わらべうた）

4. 研修について：資料

- ・ 自主研修は書籍を通しての研修が中心となる。
- ・ 研修は主にオンラインによる研修が中心になる。

5. 特別保育事業

①延長保育（継続利用児童数）

	朝 (7:00~7:30)	夕① (18:30~19:30)	夕② (19:30~20:30)
定期利用数	3名	7名	1名
年間利用日数	513	825	211
スポット利用日数	23	359	20

②休日保育（継続児童数）

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
人数	1名	3名	3名	3名	5名	4名	19名

年間利用日数：538日

6. 新型コロナ感染について

* 昨年度に引き続き継続しておこなっていること

- ・ 登、降園：0～2歳は玄関から、3～5歳は園庭。
- ・ 保護者は検温をお願いし、体温記入表に記載してもらう。
- ・ 各種会議はオンラインを基本におこなう。

* 昨年度から感染防止対策を変えながら変更してきたこと

- ・ 食事：幼児（3歳、4歳がホールで食事。3歳が終了後5歳が食事。パターションの設置）
- ・ 4・5歳児にはマスクの着用をお願いした。
- ・ 行事：親子で遊ぼう（各年齢グループ単位で実施する）
お泊り保育（買い物・クッキング・お風呂は中止。1回延期しておこなう）
- ・ 保護者関係：懇談会（各年齢オンラインで2回実施）
個人面談（希望者及び園として面談したい保護者はオンラインか対面で実施する）
保育参加（戸外活動を基本に実施する）
- ・ 運営委員会（練馬区・父母会・園）：昨年度は書面開催としましたが、今年度は対面とオンラインで実施しました。
- ・ 地域活動：おひさま広場（園庭のみ人数を制限して実施）
園見学（1回3組にし、外から見学）

* 休園について：8日間休園対応

7月28日（水）・2月13日（日） 2月19日（土）・20日（日）・21日（月）・
3月1日（火） 3月7日（月） 3月15日（火）

7. 重点課題について

はじめに

2021年度も新型コロナウイルス感染症は収束する気配もみせず、第6波のオミクロン株はこれまでのコロナウイルス感染症と異なり10歳以下の児童への感染が広がったため、恒常的に園児、保護者、職員とその家族などがPCR検査を受ける状態であった。

コロナウイルス感染の中でも、昨年度は実施出来なかった親子で遊ぼう（運動会）、お泊り保育は規模を縮小し短時間で実施してきた。懇談会、個人面談（希望者及び面談が必要な家庭）はオンラインを基本に実施し、保育参加は戸外を基本に実施した。施設見学も人数を制限し園内には入らず実施した。

(1) 運営、保育の見直しをもっていきます。

- ・ 園長、副園長2名、事務長の運営体制から乳児保育の内容を深めていくために新たに乳児主任を配置した。年間をとおしてコロナの感染拡大が広がり、職員やその家族が感染したり、体調不良等で事務所から保育へ応援に入ることもあり、保育を深めるという視点で現場に入ることがなかなかできなかった。
- ・ コロナウイルス感染が収まらない中、休園には至らないまでも、行政への対応、保護者への対応と日々追われる状態がつづいた。休園も日曜日をふくめ8日間となり、有給休暇数が少ない職員が欠勤にならないようにするなど苦慮した。また、保護者も休園への理解を示してくれた。
- ・ コロナだからできないという視点ではなく、これまでの保育の積み重ねをとおして子どもたちにとって大事なことは何かと問いあい、感染防止の視点も加味しながら、昨年度行わなかった行事についても職員間での協議を経て保護者にも提案してすすめてきた。
- ・ 早番専任、日祝専任職員を配置して職員の労働軽減をはかってきた。短時間職員の増加に伴い交代勤務などの条件が限られる中、職員同士がお互いの置かれている状況を分かりあいながら職場を支えていく関係を築いていく必要がある。
- ・ 少子化が進行し、乳児の定員割れが全国的な課題になっている。法人内でも乳児の定員割れが経営を直撃している。向山保育園は委託契約であり、子どもの減によって委託料が減額されることがないなど、社会状況や保育制度の課題、財政状況等を理事会後に職員間で共有してきた。
- ・ 年齢、職域での有期契約職員との会議は運営からの提起も弱く開催されないでしまった。園全体の会議も契約等のことが主になり有期契約職員の意見も意識的に反映できなかった。有期契約職員の定年等の対応が必要になる。

(2) ひとり一人の子どもがその子らしく生活できる保育をめざして

- ・ コロナ感染拡大のなかで意識的な年齢を超えての交流がなかなかできなかったが、表、裏庭などでは年齢を超えての子どもたち同士のかかわりが見られた。他施設への見学、実習も実現できなかった。
- ・ 異年齢保育については、2020年度の実践を踏まえて職員間で施設上の課題等はあるが、向山保育園で3歳～5歳の異年齢保育をおこなうことを確認し、文章にまとめて練馬区に申し入れた。しかし、委託契約との関係で異年齢保育に取り組むことはかなわなかった。コロナの関係で例年実施してきた幼児の異年齢散歩も実施できなかった。
- ・ 子どもたちが心地よく自分のリズムで生活できるように、保育経験の長い職員の力を借りながら各年齢とも狭く、使いづらい保育室の環境改善設定を意識的におこなってきた。その中で自分で遊びをみつけて遊べるようになってきた。また、年齢にふさわし

- ・ い遊具についての学習会もおこない、遊具も購入してきた。
- ・ 1歳クラスを1単位にしたことで食事コーナー、午睡コーナーを確保することができ、落ち着いて生活にむかえるようになった。また、職員も5人で19人の子どもの保育をしていくようになり、連携を取りながら保育にむかえるようになった。
- ・ 5歳児2名の障がい児は、2名とも個別配慮がかなり必要な子どもであった。就学に向けては園での様子等も丁寧に保護者に伝え、定期的に面談もおこない、その子にあった就学を迎えるようにできた。
- ・ 昨年度コロナウイルス感染にともなうリスクがある中で中止等してきた行事は、形態を変更したり短時間で実施したりと、職員との意見交換をふまえて実施してきた。その中で子どもにとっての行事の在り方についても考えあうことができた。

(3) 職員、保護者、地域等の関係づくりを意識的におこないます。

- * 食事は黙食が基本となり、これまで当たり前のようできていたことができなくなる中ではあるが、換気やマスクをしての会話等必要なことをおこないながら、職員が子どものことや保育のこと、仕事上の悩みなどを話せるような環境をつくる努力をしてきた。また、会議だけでなく日常的な会話を意識的におこなうようにしてきた。園長、事務長での個人面談を実施し、職員の思いを共有しながら運営をおこなってきた。
- * 保護者とはオンラインを通して懇談会、個人面談を実施してきた。また、必要に応じて対面での面談も実施した。登、降園の際には短時間で子どもたちの様子を伝えてきた。また、個別に伝えなければいけないこと等はコドモンを利用してきた。
- * おひさま広場は開催はしたが、コロナの関係でほとんど参加はなかった。施設見学は1回3組までとし、施設内には入らず戸外からの見学とした。

(4) 杉並区井草5丁目保育園計画の対応

- * 職員間でも新園に法人として応募することの意義を論議してきたが、残念ながら願いはかなわなかった。
- * 杉並区だけでなく、公立保育園の委託が今後もあり、積極的に応募していくことを職員とは共有している。

(5) ICT化の導入をおこないます

当初、年配の職員はコドモン導入を不安がっていたが、多少戸惑いながらも使いこなせている。現在は登降園・出退勤打刻、ノート、各種お便りお知らせ配信などをおこなっているが、来年度は保育計画等もコドモンで実施できるよう検討していく。

(6) 練馬区との協議をすすめていきます

- * 委託契約を結ぶ際に、このまま委託を続けるのか、民間としていくのかという論議を行った。結果的には区の意向で、このまま委託継続をおこなうこととした。施設の老朽化、異年齢保育への転換もふくめ、今後の向山保育園の在り方については職員間でも協議を重ね、法人の力も借りながら進めていきたい。
- * 休日保育は休日保育実施園の施設長の意見を聞き、区に要望書を提出し協議を行ってきたが、壁は厚く要望通りにはいかなかった。その中で、1日の利用定員は20名までとすること、無断で休むことが続く場合は利用できないことがあること、離乳食完了については面談時に確認し完了してからの利用を口頭で伝えてもよいことなどが確認できた。今後も休日保育実施園で課題を出し合い区との協議を行っていきたい。

2021年度 向山保育園 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
1	0歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	オンライン	5月12日(水)	調乳と離乳食の基礎と実際	×	×	
2	0歳児クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	6月16日(水)	乳児保育の意義	○	×	
3	0歳児クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	7月14日(水)	乳児の発達に応じた保育内容	○	×	
4	0歳児クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	9月8日(水)	乳児への適切な関わり	○	×	
5	0歳児クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	10月13日(水)	乳児保育の環境	○	×	
6	0歳児クラス	乳児保育研究会	東京経営懇	オンライン	11月10日(水)	指導計画、記録、評価	○	×	
7	5歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	6月23日(水)	幼児教育の意義	○	×	
8	5歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	7月21日(水)	幼児教育の環境	○	×	
9	5歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	9月15日(水)	幼児の発達に応じた保育内容	○	×	
10	5歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	10月20日(水)	幼児教育の指導計画、記録及び評価	○	×	
11	5歳児クラス	幼児保育研究会	東京経営懇	オンライン	11月17日(水)	小学校との接続	○	×	
12	園長	法人中堅層研修	2021年度法人研修委員会		7月3日(土)		×	×	
13	副園長	法人中堅層研修	2021年度法人研修委員会		7月3日(土)		×	×	
14	1歳児クラス	法人中堅層研修	2021年度法人研修委員会		7月3日(土)		×	×	
15	2歳児クラス	法人中堅層研修	2021年度法人研修委員会		7月3日(土)		×	×	
16	4歳児クラス	法人中堅層研修	2021年度法人研修委員会		7月3日(土)		×	×	
17	5歳児クラス	法人中堅層研修	2021年度法人研修委員会		7月3日(土)		×	×	
18	給食	法人中堅層研修	2021年度法人研修委員会		7月3日(土)		×	×	
19	4歳児クラス	実践交流会	練馬区	練馬区立区民・産業プラザ	7月9日(金)		×	×	
20	4歳児クラス	7色のこどもたち	星山研究スタジオ	オンライン	7月20日(火)		×	○	
21	0歳児クラス	夏の芸術教育学校	認定NPO法人芸術と遊び創造協会	中野サンプラザ	8月10日(火)	見直そう!0,1,2歳児の保育環境と援助	×	○	
22	3歳児クラス	田研セミナー2021	田中教育研究所	オンライン	8月17日(火)	幼児期の遊びと学び	×	○	
23	4歳児クラス	田研セミナー2021	田中教育研究所	オンライン	8月19日(木)	東京ビギナー講座	×	○	
24	園長	第53回全国保育団体合同研究会in広島	全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン	7月31日(土) 8月1日(日)		×	○	
25	副園長	第53回全国保育団体合同研究会in広島	全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン	7月31日(土) 8月2日(日)		×	○	
26	保育主任	第53回全国保育団体合同研究会in広島	全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン	7月31日(土) 8月3日(日)		×	○	
27	0歳児クラス	第53回全国保育団体合同研究会in広島	全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン	7月31日(土) 8月4日(日)		×	○	
28	2歳児クラス	第53回全国保育団体合同研究会in広島	全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン	7月31日(土) 8月5日(日)		×	○	
29	4歳児クラス	第53回全国保育団体合同研究会in広島	全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン	7月31日(土) 8月6日(日)		×	○	
30	保育主任	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	練馬区立区民・産業プラザココネリホール	8月26日(木)	子どもの人権 ～子どもの心に寄り添う～	×	×	
31	園長	経営懇夏季セミナー	全国経営懇	新横浜国際ホテル	9月12日(日)		×	○	
32	2歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	練馬区立区民・産業プラザココネリホール	11月2日(火)	保育所における家庭支援	×	×	
33	園長	全国保育経営懇主任セミナー	全国保育経営懇	多摩永山情報教育センター	11月12日(金)		×	×	
34	保育主任	全国保育経営懇主任セミナー	全国保育経営懇	多摩永山情報教育センター	11月12日(金)		×	×	
35	園長	私たちの「保育の公定価格の抜本的改善提案」	保育研究所	保育プラザ 東京	11月14日(日)		×	○	
36	1歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	練馬区立区民・産業プラザココネリホール	11月25日(木)	保育所への苦情の現状と保護者対応	×	×	
37	4歳児クラス	練馬区保育所等職員研修計画	練馬区	練馬区立区民・産業プラザココネリホール	12月20日(月)	保育所での「健康な心と体」を育む運動あそび	×	×	
		書籍研修				24名 計78冊			

2021年度 向山保育園 参加研修一覧

有期職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	自主研修 対象	備考
1	4歳児クラス	子ども主体の保育とは ～幼児期のこどもとわたしたちのあり方	まちのアカデミー	オンライン	10月19日（火）			
2	4歳児クラス	子ども主体の保育とは ～幼児期のこどもとわたしたちのあり方	まちのアカデミー	オンライン	11月16日（火）			
3	4歳児クラス	子ども主体の保育とは ～幼児期のこどもとわたしたちのあり方	まちのアカデミー	オンライン	12月14日（火）			

2021 年度 砒保育園事業報告

1. 児童状況

- (1) 認可定員：76 名
- (2) 利用定員：85 名
- (3) 保育年齢：産休明け～就学前
- (4) 保育時間：7：15～22：15

(5) 年齢別定員状況（4月1日現在）

年齢	0才	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	6	12	12	14	16	16	76
利用定員	6	13	15	16	17	18	85
新入児童	6	7	2	1	0	0	16
定員割れ	0	0	0	0	2	3	5

(6) 新入園児状況 17名 16世帯（2021年4月1日現在）

- ①認定 全員 標準時間認定
- ②入園経過育児休業 12名、認可保育所3名、認証保育所2名
- ③きょうだい関係 0歳児2名、1歳児3名
- ④延長対象児 1時間延長 2名
2時間延長 0名
- ⑤困難・配慮家庭 0家庭
- ⑥障がい児 0名
- ⑦アレルギー食対応児 2名（1歳児2名）
- ⑧健康面配慮児 1名

(7) 在園児状況

- ①世帯数 67世帯
- ②保育時間認定 全員 標準時間認定
- ③きょうだい関係 13組
- ④アレルギー配慮児 7名
- ⑤発達要観察配慮児 1名
- ⑥配慮家庭・関係機関対応 1家庭

⑦延長対象児 1時間延長 8人 2時間延長 12人

(8) 休日保育状況

- ①登録人数 10人
- ②利用児数 1日平均5名程度
- ③利用時間 7:15~18:15
- ④保育体制 正職員2~3名(保育士1~2名、調理1名) 有期契約職員2名

2. 職員状況

(1) 正職員 (2021年4月1日現在)

職種	園長	副園長	事務長	主任	看護師	保育士	栄養士 調理師	合計
人数	1	1	1	4	1	20	4	32

(2) 正職員状況

- ① 新規採用者 : 0名
- ② 法人内異動者 : 0名
(7月1日上北沢こぐま保育園へ1名、
3月31日向山保育園へ1名、こぐま保育園へ1名)
- ③ 産休・育休者 : 2名(6月11日以降3名)
- ④ 育児のための時間短縮勤務者 : 1名
- ⑤ 育児時間取得者 : 0名
- ⑥ その他時間短縮勤務者 : 0名
- ⑦ 退職者 : 1名(3月31日1名)

(3) 有期契約職員 (2021年4月1日現在)

	にじ	乳児	幼児	給食	環境 衛生	土日祝	全体	合計
人員	0	2	1	1	1	5	0	10
週5			1		1			2
週4								0
週3		2		1				3
不定期								0
土日祝						5		5

- ① 新規採用者 : 5名(4月1日1名、年度途中4名)
- ② 退職者 : 3名(3月31日2名、年度途中1名)

(4) 嘱託医、講師

- ① 嘱託医：橋本 倫太郎小児科医、三上 直一郎歯科医
- ② 講師：ウラベイク（造形） 西山 裕子（わらべうた）
pilchard astrid(異文化交流) 永田 裕美子（言語聴覚士）
守屋 明德（公認心理師・臨床心理士）

3. 新型コロナウイルス感染症対策報告

- ・全面休園なし
- ・クラス休園期間 2月1日～7日、2月9日～15日、2月22日～28日、
3月5日～9日、3月24日～30日

4. 2021年度 重点課題に対する取り組み

(1) 子どもの自発性、主体性が発揮される保育を目指しました。

- ① 個々の子どもの特性を理解し、子どもの気持ちに寄り添った保育を行うことを目標としました。

各講師の助言を随時伺いながら、個々の子どもの特性を理解し、その子自身が本当に求めている保育について検討し続けてきました。その中で、「だからあのような言動となっているのか」と気づき、それに対して具体的に「このように対応する必要があるのか」と新たな視点を得ながら、日々子どもに学んだ1年となりました。

また、子どもの人権について意識できるよう、「世田谷区保育の質ガイドライン」のチェック項目を各おうち毎にチェックするようにしました。それにより、自分達ができていることとできていなかったことに気づき、今後意識していく必要があることが明確になったことはとても有意義でした。

- ② 異年齢保育を深め発展させることを目標としました。

2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、基本的にセクションを越えた異年齢交流を行わないようにしてきました。その中でも、気持ちの交流はしていけるといいという意見が出され、幼児クラスに乳児クラスの子どもの顔写真を飾ったり、作ったものをプレゼントしたりしました。秋頃には感染者数が著しく減少したため、機会を逃さず異年齢交流を進めようと散歩に一緒に行くようにしました。例年ではお互いの保育室に行き来したり、きょうだい関係を中心に食事や午睡を共にしたりもしていましたが、年明けには再度感染拡大が起これ、残念ながら異年齢交流をそこまで進めることはできませんでした。感染力の強いオミクロン株が主流となったことで、異年齢交

流どころかおうち毎の単独体制を取らざるを得ないという状況となってしまいました。

また、この間異年齢の関わり大切さを再確認できたことで、常に「いつ異年齢交流が可能になるのか」という声が現場から聞こえてくる状況でした。職員が保育に対してより主体的に向かっていることが感じられ、嬉しくもなかなか叶えられず複雑な思いを抱えた1年となりました。

③ 保育内容を深め合うために、会議内容の精査を行うことを目標としました。

2021年度は幹部職員が数名抜けることや、正職員数が減少する中でスタートする状況もあり、より保育内容を押さえ合う会議の必要性が高まっていました。そのため、計画としては運営会議でも保育内容に重点を置いた会議内容に精査し、職員と確認し合いたい保育実践を検討しながら進めたいと考えていました。しかしながら、運営課題を論議するだけでかなりの時間を要し、保育内容を深めるところまでなかなか行きつけないもどかしさを感じていました。そのような状況の中で、保育内容に絞って論議する場として主任会議を行いたいという意見が出され、後半期から実施しました。それにより、より踏み込んだ保育内容の検討がなされ、今学習し合うべき内容の精査もできたことで、運営責任者会議での論議もより気付きの多い場となりました。

④ 担当制実践の押さえ直しを目標としました。

担当制については、担当がどの範囲に責任を持って関わるのか、他の職員との連携についてどのように考えるのかということ等について、園によって考え方が異なる状況があります。砧保育園内でもそれぞれの考え方の擦り合わせが必要な状況が生じていました。押さえ直しという目標は達成しきれませんが、それぞれに自分達が理想とする担当制を意識した1年となりました。

⑤ 2024年度に向け幼児の各年齢16名ずつの定員を目指すことを目標としました。

砧地域は幼児については待機児童がほぼいない状況が続いており、砧保育園でも2021年度は定員割れを解消しきれませんでした。また、3～5歳児の定員を各16名とする目標としていましたが、世田谷区より「今後弾力定員を認可定員化していく」という方針が示されたことを受け、財政検討の中で公定価格区分との関係や子どもの環境としても各15名とした方が好ましいという判断となりました。それに向けて2022年度は3歳児15名、4歳児16名、5歳児17名としました。

⑥ 延長保育専任職員を配置することを目標としました。

2021年度は専任職員を配置することができたことにより、2020年度と比較してより

利用児童に寄り添った保育の提供を行うことができました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大を受けて延長保育についてもセクション分けたことで、専任職員が継続的に関われない時期も多くなってしまうという課題が生じました。感染拡大防止と安定した保育保障という点でかなり葛藤がありました。状況的に濃厚接触者の特定範囲を狭め、基本的な園生活の保障を優先することが必要と判断しました。今後も状況に応じて最善と思われる判断をし続けていきたいと考えています。

⑦ 世田谷区休日祝日保育事業の安定的な運営を目標としました。

新型コロナウイルスの影響を受けて 2020 年度より利用人数が減少し、2021 年度もその状況が続きました。少しでも利用人数が増加するよう、ホームページや掲示板に休日保育の様子や利用家庭の声を掲載しました。今後もこのような取り組みを継続していきつつ、安定的な運営となるよう努めたいと考えています。

また、毎週末に利用家庭に電話連絡して家族を含めた体調確認を行うことと、他園にも情報提供依頼をすることにより、新型コロナウイルスが園内に持ち込まれるのを未然に防ぎ安定的に運営できるよう努めてきました。その甲斐もあり、2021 年度中には休日保育内で感染拡大が生じることはありませんでした。

(2)職員一人ひとりが自分は必要とされていると感じられて安心できることを土台に、職員集団が意欲的に高まり合える職場作りを目指しました。

新型コロナウイルス対策を含んだ現状に求められる新たな保育実践を模索する中で、特に特徴的だったことはおうち別保育と行事の関係でした。大きなものとしては卒園式が挙げられます。通常はおうちを越えた大きな範囲で行うものも、日常をおうち別にしている状況では練習も一斉には行えないということで、当日も3つのおうちに分けて3回行いました。できれば5歳児全員で式ができればという思いがありつつも、運動会でおうち別に行ってきた経験から、それはそれで成立するだろうという見通しが持っていたことも大きかったです。荒馬踊りをおうち別で踊るかどうかということについては論議となり、子どもにとってや、保護者にとっての思いを擦り合わせ、最終的には当日行わないこととなりました。荒馬踊りは5歳児全体で行うことの意義が大きいということで、後日行なう荒馬引継ぎ会の様子を後日配信することで保護者にも見ていただく形としました。

式当日は実際に行ってみると、とてもアットホームな雰囲気、保護者と子どもの気持ちもより通い合っていたような印象を受け、おうち別で行ってよかったという振り返りも多くいただきました。職員の思いをそれぞれ率直に出し合い、納得して決定する過程を踏み、結果的に「よかった」と感じられた学びのある体験となりました。今後も職員一人ひとりが自分の思いを率直に出し合い、自分の意見が大切にされているという体験を積み上げながら、

意欲に繋がるようにできればと考えています。

- ① 財源的な課題解決のため、2020年度よりも正職員数を減少させることを目標としました。

この間、砧保育園は人件費率の高さが財源的な課題となっており、税理士の方や法人職員の協力も得ながら解決策を検討してきました。その中の一つとして、正規職員と有期契約職員の置き換えを進める必要性が指摘されたこともあり、具体化してきました。現場職員へ財源についての学習や周知を随時行って理解を進めつつ、2020年度と比較して、正規職員は事務室1名、保育2名、給食1名減でスタートしました。続けて7月には保育士1名が上北沢こぐま保育園へ異動、2022年度に向けて育休復帰職員が3名という見通しの中で、そのうち1名が向山保育園へ異動ということも職員の希望を募った上で行ってきました。職員一人ひとりが課題を自分のこととして受け止め、真摯に向き合って検討してくれたことに心から感謝しています。年度途中で有期契約職員の方を補充し、無資格者への補助金である保育補助者雇上加算も活用しつつ、保育体制も財源も安定できる方法を模索しつつ現在に至っています。

- ② 保育園運営を推進する幹部の担い手の経験積み上げに長期的な視野で取り組むことを目標としました。

ここ近年継続的な状況として、砧保育園の幹部を担う世代が結婚・出産の可能性が高い世代となっています。2021年度では、産休育休により主任が2名抜ける状況となりました。また、ここ数年は0歳児主任と1、2歳児主任を独立させて運営してきていましたが、財源的な課題解消のために0～2歳児対象の乳児主任とし、主任の数も減らしてきました。次世代の管理職、主任の担い手の経験の積み上げという課題が残りますが、現場責任者の経験も確かなものとして主任へという展望も大切にし、主任にとって最も大切となる現場で子どもから学ぶ経験を豊かに積んでもらいたいと考えています。今後は現場にいながらも運営的な視点を学べるよう、運営責任者会議にて運営課題を論議する経験を積みながら、主任となる職員の裾の尾を広げていきたいと考えています。

- ③ 砧保育園の特徴として、異動職員等の他施設経験者が多く在籍している利点を活かし、砧保育園が積み上げてきた保育を土台にしつつも多角的な視野で保育を捉え直しながら、子どもを中心とした豊かな保育実践をさらに積み上げることを目標としました。

運営会議では砧保育園の「今までこうしてきた」を土台に、こぐま保育園や向山保育園での経験を出し合ったり、施設長会議や経営会議での他施設の情報を共有しながら、随時

客観的な視点で捉え直して判断することを意識してきました。職員が納得できるよう、判断理由が伝わりやすいよう努めてきました。ただ、会議で共有という時間が取り切れず、書面での周知となることが多くなることで意図が伝わりきっていない状況も生まれやすかったように感じています。今後はできるだけ現場の職員と直接やり取りしながら、風通しの良い情報共有に努めたいと考えています。

- ④ ここで働きつづけたいと感じられる労働環境作りを皆で検討し実践していくことを目標としました。

変形労働制を活用することにより、休日保育の出勤回数を軽減し、振休を減らすことで平日の保育を充実できるようにしました。また、子育て中の職員が家族との時間をしっかりと確保できるよう、土休日を主に担当する有期契約職員の雇用を計画し、保育1名、給食1名の増となりました。

また、ここでも新型コロナウイルスの影響が大きく、本人が体調不良でなくても家族内で体調不良者がいれば出勤を控えざるを得ない状況となり、「出勤したくてもできない」という葛藤を抱えている職員の姿もありました。支える側の葛藤もあれば支えられる側の葛藤もあり、お互いに理解し合いながら働き合うことが重要な1年となりました。

(3) 保護者と共に歩いていくことを目標としました。

- ① 各おうちの懇談会や保育参加、日常的な会話等を通して保護者の思いや、悩みを理解し共有し合う関係を意識的に形成していくことを目標としました。

2021年度は引き続き新型コロナウイルスの影響により、保護者同士を繋ぐ取組みが思うようにできないというもどかしさがありました。その中で、コロナ禍以降は日々の写真付きおたよりの発信頻度がかなり多くなり、子ども同士が育ち合っている様子がよりリアルに伝わるようになってきました。

懇談会では動画が好評で、「保育参加できないので日々の様子が気になっていました。動画で見られてよかったです」という感想も寄せられ、おたよりだけでは伝わりきらないものがあることを実感しました。懇談会の中で、コロナ禍においても子どもたちの主体性を大切にする保育や異年齢保育への信頼と感謝が語られる場面もありました。これまで例年通りにはできない葛藤で悩みながらも作り上げてきた保育を認めてもらえた喜びを職員と共有でき、職員としても保護者への信頼を強くする機会となりました。

- ② 父母会と園の協議会を継続し、保育内容や保育情勢について意見交換を行い、共に育ち合う関係を作っていくことを目標としました。

2021 年度も父母協議会において保育の状況共有や保護者からの意見を聞く機会を持ってきました。特に運動会については、zoom で臨時役員会を開いていただき、園で検討した形や内容について父母会と協議して決定する過程を踏みました。それにより、職員側の視点のみで作るのではなく、保護者の思いを踏まえて決定していくことの大切さが感じられたと共に、保護者にとっても自分達が園と共に保育を作るという思いを持てる機会となったのではないかと感じています。

- ③ 環境整備や行事等、保護者が子ども達のために力を発揮できる場を位置付けることで、子どもへの思いをさらに膨らませたり職員との信頼関係をより確かなものとすることを目標としました。

秋頃のコロナが落ち着いた時期には、芋掘り遠足や冬祭り（餅つき）の希望者に参加していただき、久しぶりに保護者と保育を共有でき有意義な時間となりました。

- ④ お迎えの際に事務室職員が子どもの見守りも兼ねて外門に立ち、保護者に声をかけることで園全体への信頼関係の形成に努めることを目標としました。

新型コロナウイルス感染拡大が乳幼児でも深刻化したことを受け、園庭受け渡しを1年間の多くの時期に実施していたことにより、実質的に園内で行っていた状況となりました。

また、地域住民への苦情対策の位置付けとしていましたが、その側面としては機能していない状況でしたが、2021 年度中は直接苦情に繋がることはありませんでした。しかしながら、地域住民の方が気にされている様子は保護者の方からもお知らせいただく状況は引き続きあり、今後も意識していく必要があります。

- ⑤ 新型コロナウイルス感染対策について丁寧に且つ迅速に説明を行うことで信頼関係の形成に繋げていくことを目標としました。

2021 年度実施した第三者評価結果において、新型コロナウイルス感染対策を含む園への評価として大変高評価をいただくことができました。保護者の方から直接「いつも配信していただきありがとうございます。ちゃんと見ています！」と声をかけていただくこともあり、随時情報共有をすることで信頼関係が形成されていることを度々実感することができました。

(4) 地域に必要とされ、異年齢保育という特色ある保育園として地域に根付くよう努力することを目標としました。

① 地域担当チームを中心に地域要求に応える活動を行うことを目標としました。

2021年度はコロナ禍であっても地域要求に応えることを大切に、感染拡大が生じている状況でも zoom で施設見学や赤ちゃん広場、モグモグ離乳食等に積極的に取り組みました。zoom であっても、沢山質問が出されたり、参加者同士で交流できて安心感に繋がったりと有意義な時間となりました。

また、小中高生の育児体験では、卒園児を中心に声をかけて参加を促しました。いつも一緒に生活していた卒園児が来てくれると在園児も本当に嬉しそうにしており、異年齢の積み重ねを感じる機会となりました。ある卒園児は何度も参加し、回を重ねる毎に打ち解けていく様子が見られました。保育園が地域の中の大切な居場所となっていると感じられて嬉しかったです。

二つの新たな取り組みも行いました。一つは、わらべうた講座です。園児や職員にわらべうた指導に来ていただいている西山先生にお願いし、親子で楽しめる年齢に合ったわらべうた遊びを体験できる機会となりました。家庭でも歌えるようにと後日楽譜を郵送しました。もう一つは芋掘り遠足への参加です。園行事に参加していただくことで、園児の様子を見てもらえることや、職員にとっても地域活動を知る機会ともなり有意義な取り組みとなりました。

ホームページや掲示板、児童館等への広報活動にも力を入れてきました。それにより、入園希望者や実習希望者の増加に繋がったのではないかと感じています。行っている保育内容は今までと大きく変わりませんが、発信の仕方で大きく影響があるのだと実感しました。今後もより多くの方に砧保育園の良さが伝わるよう、広報活動をより充実していきたいです。

地域活動の参加後にはアンケートにご協力いただき、どの媒体で地域活動を知ったのかや、参加してみたの感想やニーズ等を把握し、今後の活動計画に活かすよう努力してきました。

② 近隣の保育園や児童館、自治会、住民とも交流しつつ協力関係を作っていくことで、災害時に互助の関係性が発揮される土台作りを進めることを目標としました。

この点につきましてはコロナ禍で進められておらず、今後の課題となります。

(5) 施設整備を計画的に行なうことを目標としました。

建築士の力も借りて中・長期の修繕計画を作成し、今後の施設の建替え費用も含めた財政の見直しを持ちました。その過程の中で2021年度の修繕計画を見直し、ダムウェーターの

取替や蛍光灯のLED化については延期としました。

2021年度に行った主な修繕工事は、木育補助金を活用した砂場のパーゴラ全面改修や、厨房用排風機の取替です。財政的な懸念もあり、子どもにとっても職員にとっても安全に過ごすために必要なものに精査して実施しました。

また、砧保育園は躯体が世田谷区の所有物であるため、区として行うべき整備に関しては積極的に要望していくことについても目標としていました。その中で、中門前の窪みの修繕が決定し、2022年度中に工事が行われることとなりました。登降園の際の動線上にできる大きな水たまりが長年の課題となっていたので安堵しました。しかしながら、休日利用児が落下し怪我をした駐輪場横の塀撤去や外壁のクラック補修等、重要課題が山積しており、今後も引き続き修繕要望を上げ続けていく必要があります。

(6)新型コロナウイルス感染防止対策と、人間同士の関わり合いに必要なことのバランスを常に意識していくことを目標としました。

- ① 新型コロナウイルス感染防止対策は世田谷区のガイドラインを遵守しつつ、子どもにとって必要な体験については可能な限り工夫を凝らして行っていくことを目標としました。

この点につきましては、上記でも触れたようにおうち別で行事を行ったり、目的を明確にして内容を精査して実施したりと、その都度検討しながら予定していた取組みは基本的に実施してきました。

- ② 可能な範囲でリモート会議を計画しつつ、状況として可能であれば対策をしっかりと行った上でリアル会議も大切に位置付けることを目標としました。

感染状況を常に把握し、可能と思われる時期にはホールでリアル会議を行いました。zoom会議では発信しづらいという傾向もあるので、次年度に向けた職員体制を検討する重要な職員会議をリアルで行い、思いを直接共有できたことには大きな意義があったと感じています。

4. 職員研修実施内容

2021年度は専門家の力を借りたり、法人内の施設に見学に出かけたりする中で砧保育園らしい異年齢保育を目指して深め合い、保育内容の進歩のために研修を行っていくことを目標としました。

コロナ禍でもリモート研修や自主研修として書籍購入での研修も積極的に取り組みました。また、リアルでの研修が必要な内容について十分に感染対策を講じた上で実施するよう努めました。

(1) 園内研修

① 全員研修－応急救護、防災、保育総括、荒馬、ドル平

② 講師による研修－わらべうた、陶芸、歯科医の講座

③ 新人研修－申請事務、保健研修、乳児研修、離乳食、他

2021 年度は新入職員がいませんでしたが、必要なセッションを中心に実施しました。

④ ケース検討－配慮児を含む保育について、おうちを中心に心理士とともに具体的な対応方法について検討しました。

⑤ 必要に応じて運営会議で検討を行い、講師による講座で研修を行うことを目標としました。その中で、地域の子育て世帯への理解を深めることを目的として NPO 法人せたがや子育てネット代表の方に講師を依頼し、zoom にて研修を行いました。

(2) 専門機関の巡回指導など

世田谷区発達支援センター（げんき）の巡回訪問を受け、支援が必要な児童の保育への理解を深め、具体的な対応方法について学びました。

(3) 出張研修

世田谷区、経営懇、東社協が主宰する研修や、キャリアアップ研修に対応する世田谷区の研修、保育団体連絡会の研修などに積極的に参加しました。

処遇改善Ⅱの支給対象者については、必須項目を網羅できるよう積極的に位置付けました。

(4) 見学研修

異年齢保育実践をより深めるために、法人内施設の保育を見学し、研修を行いました。感染状況が落ち着いていた時期のみとし、実施人数は数名となりました。

(5) 法人研修

法人合研、新人研修、中堅層研修、保健部会、給食部会等に取り組みました。

(6) 自主研修

① 職員一人ひとりに支給される研修費を積極的に活かし、個人目標に沿って個人計画をたて、目標をもって研修に取り組みました。

② 自主的に学ぶことによって、実践が深まっていくことを大切にしました。

勤務後に自主学習会を企画し、学び合いたいテーマを設定し行いました。具体的には近隣小学校教諭を講師に招き、卒園後の園児の姿を共有しつつ、小学校以降の生活に向けて園生活で意識すべきことを確認しました。また、LGBTQ+についての理解を深めつつ、日々の保育で意識すべきことを考え合う機会を持ちました。

2021年度 砧保育園 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア アパス	自主研 修対象	備考
1	責任者・りす	コダーイ芸術研究所 乳児保育	コダーイ芸術研究所	コダーイ芸術研 究所	5月6日～10月7 日	乳児保育A		○	
2	早番専任・乳児 フリー	夏季保育セミナー	子ども総合研究所	飯田橋レイ ン ポーホール	8月3日、 8月26日	・ちょっとだけ変わったという保育者になるために ・子どもの権利条約時代の保育実践		○	
3	主任	保育プラザ研修 2021年度WEB講座	一般社団法人 保育プラザJAPAN	オンライン	5月29日	・なぜ起きる？保育園での乳児死亡事故 ・保育施設における衛生管理のポイントと感染症対 策		○	
4	保健	保育所等における感染症対策セミナーの効 果検証に関するセミナー	日本保育協会	オンライン	5月31日				
5	ひよこ	保育プラザ研修 2021年WEB講座	保育プラザJAPAN	オンライン	6月28日	1歳児の保育と発達		○	
6	ひよこ	保育プラザ研修 2021年度WEB講座	保育プラザJAPAN	オンライン	6月11日 6月26日	・1歳児の発達と保育 ・「気になる子」の保育と保護者支援		○	
7	副園長	障がい児保育	チャイルドフットラ ボ	オンライン	5月17、24、31 日	障がい児保育	○		
8	にじ	令和3年度 乳児保育研修(東京 都保育士等キャリアアップ研修)	世田谷区	オンライン	5月26日、6月9、30 日、7月13日、8月3日	乳児保育	○		
9	りす	保育の基本シリーズ 2歳児発達と保育	保育プラザJAPAN	オンライン	6月19日	2歳児の発達と保育		○	
10	主任	全国保育団体合同研究会	全国保育団体合同研 究集会実行委員会	オンライン	7月31日～ 8月1日	・子どもの「声」を聞き取り子どもとつくる保育 ・今、保育を振り返り組み立てる視点とは		○	
11	副園長	全国保育団体合同研究会	全国保育団体合同研 究集会実行委員会	オンライン	7月31日～ 8月1日			○	
12	つき	保育ナチュラルフォローアッ プ講座	NPO法人生態教育 センター	東京おもちゃ美 術館	7月17日	子ども主体の生きものとの 関わり「飼育」		○	
13	たいよう	保育ナチュラルフォローアッ プ講座	NPO法人生態教育 センター	東京おもちゃ美 術館	7月17日	子ども主体の生きものとの 関わり「飼育」		○	
14	園長	第53回全国保育団体合 同研究会	全国保育団体合同研 究集会実行委員会	オンライン	7月31日～ 8月1日	コロナ禍で考える保育と私 たちの未来		○	
15	主任	巡回訪問げんき	げんき	オンライン	4月15日				
16	主任	人材育成研修	世田谷区保育課	オンライン	6月7日	これからの時代の保育者育 成・実習を考える			
17	給食主任	東社協 保育部会 給食担当者講習会	東社協	オンライン	7月2日	食べる機能の発達と好き嫌 いの背景について			
18	つき	幼児期の言語発達と発 達障害	げんき	生活工房 三軒茶屋	8月4日				
19	園長	コロナ禍の子ども達の育ちを保 証するために	東社協	オンライン	7月27日				
20	主任	コロナ禍の子ども達の育ちを保 証するために	東社協	オンライン	8月14日				
21	りす	保育白書で学ぶ会	NPO保育子育て フォーラム	オンライン	10月3日	2021年度第1回保育白書読書 会			
22	給食	東社協保育部会「給食 担当者講習会」第2回	一般社団法人日本食 食恐怖症克服支 援協会 山口健太	オンライン	9月21日	「食べない子が食べられる ようになる方法」			
23	にじ	東社協保育部会「保育 講座②」	東社協保育部会	オンライン	10月11日	「子どもに寄り添うためのコ ミュニケーションスキル」		○	
24	保健	事故予防セミナー	日本保育協会	オンライン	10月22日	①事例から学ぶ事故予防と安全管理 ②チームで取り組む傷害予防		○	
25	保健	感染症対策セミナー 応用編	日本保育協会	オンライン	9月10日	保育施設での日常的な管理の見直 し方法		○	
26	給食	全国保育団体合同研究会	全国保育団体合同研 究集会実行委員会	オンライン	8月1日	子どものいのちと育ちと平和のた めにみんなでチャレンジ		○	
27	つき	令和3年度保育課題対応研修 「子育て支援から、子育て支援へ」	世田谷区保育部保育課 保育育成担当	オンライン	11月18日(休)	「子育て支援から、子育て 支援へ」			
28	ひよこ	子供のアレルギー疾患に 関する相談実務研修	東京都健康安全研究 センター	オンライン	10月5日(火)	アトピー性皮膚炎の基礎知 識と対応について			
29	ひよこ	子供のアレルギー疾患に 関する相談実務研修	東京都健康安全研究 センター	オンライン	10月27日(水)	子供の鼻アレルギー・花粉症の 基礎知識と対応のポイント			

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア アパス	自主研 修対象	備考
30	ひよこ	子供のアレルギー疾患に関する相談実務研修	東京都健康安全研究センター	オンライン	11月24日(水)	食物アレルギーの基礎知識と保育場面での対応ポイント			
31	にじ	保育プラザキャリアアップ研修	一般社団法人保育プラザJAPAN	オンライン	1月22日(土)、2月12日				
32	ほし	保育プラザキャリアアップ研修	一般社団法人保育プラザJAPAN	オンライン	11月30日(水)、12月7日(火)、12月14日(水)、12月20日(月)	障害児保育	○		
33	ひよこ	保育プラザキャリアアップ研修	一般社団法人保育プラザJAPAN	オンライン	2022年1月18日(水)、1月24日(月)、2月1日(水)、2月7日(月)	乳児保育	○		
34	乳児主任	保育プラザキャリアアップ研修	一般社団法人保育プラザJAPAN	オンライン	2022年1月27日、2月3日、2月10日、2月18日	マネジメント	○		
35	副園長	キャリアアップ研修	特定非営利活動法人全国小規模保育協議会	配信 オンライン	11月18日～12月18日、19日	マネジメント			
36	保健	キャリアアップ研修 保健衛生・安全対策	公益財団法人社会福祉協議会	日野市 Tree HALL	10月28日(木)、29日(金)	①ファーストエイド救急法(保健衛生)②子どもの体験活動リスクマネジメント基礎講座(安全対策)	○		
37	つき	保育士会主催 秋の研修会	東社協保育士会	オンライン	11月14日(日)	保護者対応と連携		○	
38	にじ	2021保育プラザ研修講座	一般社団法人保育プラザJAPAN	オンライン	11月20日	個人を尊重し、つながりを育む保育とは		○	
39	幼児主任	キャリアアップ研修	チャイルドフットラボ	オンライン	2021年12月6日、13日、20日	障害児保育	○		
40	園長	第1回全国福祉経営研究交流会	第1回全国福祉経営研究交流会実行委員会	オンライン	12月9日～10日	憲法をよりどころに誰一人をも取り残さない社会福祉制度を築こう!			
41	つき	保育所児童保育要録研修	世田谷区保育部	オンライン	12月9日				
42	乳児主任	令和3年度東社協保育部会「保育セミナー」	令和3年度東社協保育部会	オンライン	12月8日	保育・教育は何を期待して営まれているのか			
43	保健	小児救急	日総研出版	日総研研修室 廣瀬お茶の水ビル	12月19日	初期対応と外傷のポイント		○	
44	給食	特定給食施設講習会	明海大学歯学部	オンライン	12月7日	年齢や発達に応じた食事を提供する上でのポイント			
45	りす	1～3歳児の発達とその魅力、免疫系の基礎と健康作り	全国幼年教育研究協議会	オンライン	2月20日	子どもたちの発達と健康		○	
46	幼児主任	発達障がい基礎講座	田口教育研究所	オンライン	3月21日	よく混同される愛着障害と発達障害		○	
47	副園長	発達障がい基礎講座	田口教育研究所	オンライン	3月21日	よく混同される愛着障害と発達障害		○	
48	副園長	発達障がい基礎講座	田口教育研究所	オンライン	3月27日	子どもの心が育つ10歳までの時間		○	
49	園長	発達障がい基礎講座	田口教育研究所	オンライン	3月27日	よく混同される愛着障害と発達障害		○	
50	園長	発達障がい基礎講座	田口教育研究所	オンライン	3月27日	子どもが育つ10歳までの時間		○	
集計	50								

2021年度 実習生受入れ表

実習期間	日数・時間	学年	大学	配属 クラス	名前
5/10～ 5/22	12日間 1日8時間	3	白梅大学	星のおうち	
8/10～ 8/21	11日間 1日9時間	2	東京保育専門学校	太陽のおうち	
8/23～ 9/4	12日間 1日9時間	3	和光大学	月のおうち	
8/23～ 9/4	12日間 1日9時間	3	和光大学	乳児	
11/4～ 11/17	12日間 1日8時間	3	白梅大学	星のおうち	
2/14～ 2/28	12日間 1日7.75時間	2	こども教育宝仙大学	乳児	
2/28～ 3/11	10日間 1日9時間	1	東京工学院専門学校	ひよこ	

2021年度 上北沢こぐま保育園事業報告

1. 事業内容報告

(1) 認可定員 90名

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	9	16	16	16	16	17	90

(2) 保育年齢 産休明け～就学前

(3) 開園時間 7時15分～20時15分

(4) 延長保育 18時15分～20時15分（児童状況報告参照）

(5) 1歳児～5歳児の異年齢保育

(6) 障害児保育（児童状況報告参照）

(7) アレルギー食対応（児童状況報告参照）

(8) 地域活動事業（体験保育、産前産後体験、ボランティア、実習生の受入れ等）

	実施状況
体験保育	1家庭3名・獅子舞10家庭24名参加・鏡餅作り中止
産前産後体験	6日間実施11人の保護者が参加
職場体験	10日間実施1回保育参加・オンライン実施9回/園の紹介動画視聴・園職員へのインタビュー
実習生	8名(帝京短期大学1名・白梅学園大学2名・明星大学3名・駒沢女子大学1名・東京福祉保育専門学校1名)
インターン	0名

2. 児童状況報告

月	在籍児童数	新入園児	退園児	配慮児	アレルギー児	外国人家庭	育児困難家庭	延長保育1H延べ	延長保育2H延べ
4	90	19	1	3	5	2	2	74	0
5	90	1		3	5	2	2	72	0
6	90			3	6	2	2	99	0
7	90			3	7	2	3	101	0
8	90		1	3	7	2	5	64	1
9	90	1		3	7	2	4	65	0
月	在籍児	新入	退園児	配慮児	アレルギー	外国人	育児困難	延長保育	延長保育

	童数	園児			ギー児	家庭	家庭	1H延べ	2H延べ
10	90			3	6	2	4	68	0
11	90			3	6	2	6	69	0
12	90			3	5	2	6	66	1
1	90		2	3	4	2	6	62	0
2	88		2	3	4	2	4	41	0
3	86			3	4	2	4	67	0

3. 職員状況

(1) 正職員 (2021年4月1日現在)

職種	園長	副園長	事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	合計
人数	1	2	1	1	19	3	2	29

*主任 2名 (保育士・調理師)

(2) 正職員状況

- *新規採用者 保育士5名 栄養士1名
- *法人間異動者 保育士1名 (7月) 欠員補充の為、砧保育より年度途中異動
- *産休育休取得者 保育士1名 (7月) 栄養士1名 (7月)
- *短時間正職員 0名
- *退職者 保育士2名
- *病気休暇取得職員 看護師1名 (4月～6月) 保育士1名 (6月～9月)
- *派遣職員 保育士1名

(3) 有期契約職員

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	13	13	14	15	14	13	12	11	10	10	10	14

- *看護師病気休暇取得の為、看護師1名契約更新しました。(4月1日～6月28日)
- *7月より正職員で産休取得、病休取得職員がいたため有期契約職員を増員しました。
- *3月増加は4月からの新入職員増加に伴うものです。

4. 特別保育事業

(1) 一時預かり事業 定員一6名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実人数	23	17	17	22	19	16	19	21	22	15	13	18	222
延べ	93	75	122	110	91	97	100	107	104	101	59	120	1179

* 年間を通して登録数の3分の1程度の方が利用しました。

* 緊急事態宣言や新型コロナウイルス感染症対策まん延防止措置発出に伴う世田谷区の保育レベル引き上げ時、園内での陽性者発生時には利用を自粛する家庭もあり、特に5月、2月の利用が減少しました。

* 家庭状況が不安定な家庭があり、子ども家庭支援センターと連携して支援を行い、継続的な保育を提供してきました。又、個々に支援が必要な家庭が複数あり、それぞれ緊急一時保育の実施や支援をしてきました。

* 保育システムを導入し保護者連絡への早急対応や、保育料、事務管理の簡略化を行うことができました。

(2) 定期利用保育

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1歳児	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	5	44
2歳児	3	3	3	3	3	2	2	2	2	1	2	2	28

* 9月に2歳児1名が在籍児童に繰り上がり、1歳児のキャンセル待ちを受ける為、9月から定員変更を行いました。又、要望に応じて定員を変更し受け入れてきました。

* 困難さを抱えている家庭もみられ、各家庭丁寧な対応を行ってきました。園への直接入所の為、行政への働きかけや関係機関との連携も必要となってきています。

(3) おでかけひろば事業 週3日(火・水・金) 5時間(10時~15時)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ	12	12	22	51	20	15	37	55	21	23	9	26	303

* 午前、午後予約制にし、密にならないように実施しました。又、在園児と重ならないように実施工夫してきました。

* 人数を制限することにより、予約した方の希望する内容に沿った活動を提供してきました。(身体測定、離乳食相談、工作など)

(4) 緊急保育 定員1~2名 利用者0名

* 0歳児の受け皿として始めた事業でしたが、利用者は0名でした。このような保育を利用するご家庭は情報量が少ない、頼り方がわからない方が多いように感じます。園のHP上に掲載できなかったのも大きな理由でもあるため、HP上に保育の種類を設け、園へ連絡してもらおう事でなんらかの保育で支援できるよう努力していきたいです。

5. 研修報告(別紙)

* 発達に合わせて考えることを主軸に子ども理解を深める研修を園内で重ねてきました。職員会議、総括会議の中で全職員を対象に、またケース会議等各会議参加者の中で深め

- ることができました。
- * 保護者へ「より良く伝え合う」ことも重点に、ノートの記載の仕方等学びがありました。が発達面の重点と比べると課題は残るため次年度に継続していくべきと考えます。
 - * 世田谷区の発達支援機関「げんき」の巡回指導を利用し、子ども理解や適切な支援に向けて学習をしました。また対象のクラスだけでなくケース会議の職員が参加して全体で共通認識が持てるようにしてきました。夏には「げんき」の学習会を行い全職員で子ども理解について学ぶことができました。
 - * キャリアアップ研修への参加は特定の対象職員の受講を重点的に進めることができました。
 - * 法人内の交流はコロナの流行により計画通りにはいきませんでした。他施設を知ることの意義は大きいと既卒経験者の姿から感じています。

6. 新型コロナウイルス感染症対策報告

* 感染対策

- ・ 登園降園場所の分散実施（園庭・玄関・外階段）
- ・ 合同保育の中止（朝夕は完全クラス別保育・土曜日は食事、午睡は離れて保育）
- ・ 保護者参加行事等は戸外実施（おめでとうの会・卒園式）、オンライン実施（親子で遊ぼう・みんなで食べよう・懇談会）で行い、中止せずにできることを行ってきました。
- ・ 職員の会議等は感染状況に合わせてオンライン実施も行ってきました。通常実施ができた3期の総括会議では顔を合わせて話す時間が本当に大事だと、職員一同一致できる機会となりました。
- ・ 空気清浄機の設置（全保育室・園児職員共同場所）
- ・ 家族の体調不良時の登園、出勤の見合わせ徹底周知

* 休園状況

- 2月1日～2月3日 1歳児7名、2歳児5名
濃厚接触者にて健康観察期間一部休園
- 2月16日～2月22日 1歳児6名、2歳児5名
濃厚接触者にて健康観察期間一部休園

* 登園自粛要請

- 4月26日～6月30日 世田谷区保育レベル2に伴う自粛の協力をお願い
- 8月2日～9月30日 世田谷区保育レベル2に伴う自粛の協力をお願い
- 2月1日～2月28日 世田谷区保育レベル2に伴う自粛の協力をお願い
- 3月29日 感染拡大を懸念し園独自登園自粛の協力をお願い 一部のみ

2021年度 新型コロナウイルス感染症罹患患者一覧表				
月	園児	園児家族	職員	職員家族
4	0名	0家庭	0名	0家庭
5	1名	1家庭	0名	0家庭
6	0名	0家庭	0名	0家庭
7	1名	1家庭	0名	0家庭
8	0名	1家庭	0名	0家庭

9	0 名	1 家庭	0 名	0 家庭
10	0 名	1 家庭	0 名	0 家庭
11	0 名	0 家庭	0 名	0 家庭
12	0 名	0 家庭	0 名	0 家庭
1	1 名	4 家庭	1 名	1 家庭
2	3 名	6 家庭	2 名	3 家庭
3	1 名	2 家庭	3 名	1 家庭
合計	7 名	17 家庭	6 名	5 家庭

7. 重点課題

(1) 課題を解決できるまで寄り添った運営を目指し、点から線へつながる運営へ。

- ・運営側も積極的に保育へ入る環境を作り、主活動の時間の大変さや、夕方の人手が減った時間帯に現場の保護者対応に寄り添う事ができ、おうち会議等で現場と一緒に悩み考え合う事ができました。運営側が現場に入る機会が多かった為、運営会議でも保育への具体的な寄り添い方や、職員の悩み等にいち早く対応できたことは運営側の体制が大変ではありましたが頑張ってきてよかったと感じる点です。今後も積極的に運営が現場へ入る体制を作っていきたいと思います。
- ・月2回程度実施している責任者会議では保育内容を重点に置き、会議を実施してきました。会議で確認したことや時間をかけてきた議題については、意識して取り組んでいく力がついてきています。今後も現場から意見を集約し議題にのせていく経験を園全体で取り組んでいく必要があると感じています。
- ・保育を考えていく際に主眼を置く位置がずれてしまう場合があり、子どもを真ん中に考え、現場に伝えていく事、返していく事を今後も意識した運営を行っていきたいと思っています。

(2) 職員が違いを認め合いながら、他の職員とともに保育を作り合い、自分らしく働き続けられる関係を目指します。

- ・職員それぞれが経験してきた保育を職員全体で受け入れ、自分たちの保育をつくりあう事ができました。感染症対策の為、今まで実施してきた行事や保育の変更を求められたことで、職員同士が意見を出し合い自分たちで作りあっていく保育へとつながってきました。
- ・お互いに助け合っていく関係性がコロナ禍で難しくなった事、職員の入れ替わりもあり助け合う関係について認識の一致が難しい時もありました。園の柱でもあるつながり合う関係とはどういうことなのか日々の会議で具体的に伝えていく必要があると感じています。
- ・子どもへの関わり方や環境設定、保護者対応などクラスで統一して運営していけるよう

に対話を増やしていく努力を行ってきました。わからない事をそのままにせず、聞く学ぶ等行動に移せるようになってきたことは大きな進歩です。しかし、自ら伝える、聞くという関係性が難しい場面がみられたため、お互いに働き合っている事を共通理解とし、気軽に話し合える関係を作っていく必要があると感じています。

- ・有期契約職員会議をクラスごとに定期的に行うことができたことで、職員の思いや悩みを共通理解とし働き合うことを目標に過ごすことができました。

(3) 乳児から異年齢での生活を通して、子どもたち一人ひとりが生き生きと育ちあう保育を目指します。

- ・子どもたちの中で年間の見通しがつくようになり、年1回の行事を楽しみにする姿が見られるようになりました。その姿から、異年齢保育で傳承されてきていることを実感することができました。
- ・異年齢クラスの生活グループの友達については、得意な事、苦手な事等子どもたち同士で理解し合う姿がみられ、相手を知ろうとする姿が育ってきています。9人~10人の少人数単位から子どもたちが安心できる場へと広がっていると感じています。
- ・遊びの中でのルール等のやり取りの中で、譲り合う姿、折り合いをつけようとする姿がみられ、集団を意識できるようになったと感じます。又、他クラスの年長同士が関わる機会が増え、クラスを越えて相互理解ができるようになってきている関係を、今後は大きい子たちの育ちからクラスの中にも浸透していけるよう働きかけていきたいと思えます。
- ・子ども自らやってみたい事、もっと〇〇したい！等の発信ができるようになり、遊びこむ力がついてきました。生活体験をあそびにつなげていく力や、コロナ禍ならではの遊びの広がりもみられます。特に外遊びへの意欲が高く、家庭の中で自由に遊びこめる時間が少なくなっていることも影響していると感じています。
- ・戸外活動の時間が増加し、自損の怪我が減少してきましたが、友だちとの関わりの中での怪我が増えてきました。保育士が間に入り関わり方を伝えてきていますが、急な噛みつき、ひっかきをどう防ぐのが課題となっています。日課の見直し、子どもの興味関心がどこにあるのか等、園全体で子どもが気持ちよく過ごせるよう話し合いを設けてきています。
- ・配慮が必要な児童や支援が必要な家庭へ、子どもの姿を真ん中に保護者と園で共通理解とし、関係機関と連携を取ることができた為、子どもの安全を守ることや発達への支援を丁寧に行う事へとつながってきました。
- ・園児の喫食量が園全体で増えました。0歳児から5歳児まで食育活動を積極的に行った点、遊びこむ力がついてきたことが食への意欲につながったと感じています。

(4) 子どもの豊かな育ちを真ん中にし、保護者と連携しあっていく関係を目指します。

- ・保護者有志によって保護者代表者の会が発足することができました。オンライン会議を行い、園と保護者で思いを共有する機会があることは園運営に大きな力となってきて

います。

- ・園の流れを理解してくださる保護者が増え、自ら声をかけてくれる機会が増えました。何か協力できることを探してくださる姿や、励ましの言葉と一緒に作り合っている実感が得られています。5年の歴史もありますが、コロナ対応の際に細やかな感染情報の発信、各家庭への支援や連絡等を園一丸となって取り組んできたからではないかと感じます。
- ・保護者の選択肢が広がり幼稚園への入園、急な転勤が多くみられました。当園に通えたことはとても感謝される方が多いですが、その子の育ちを真ん中に園側も努力できる機会が得られように保護者の変化を掴んでいく必要があると感じています。
- ・連絡帳やお便りを通し伝える中身を改善し、子どもの育ちや園への理解を得られるように努力してきました。主にクラス集団の様子や子どもの言葉を伝えていく機会を増やし、家庭と園で子どもの育ちを共有してきました。

(5) 地域との関わりを大事にし、地域に必要とされる保育園を目指します。

- ・コロナ禍で地域ニーズがつかみにくい1年間でしたが、園見学、ひろば事業、近隣施設との物を介した交流、近隣園とは感染状況が落ち着いたときに行事に誘い合う等、コロナ禍でも切らさない関係作りを行うことができました。
- ・ひろば事業では予約制になったことで利用者減につながる不安もありましたが、感染症対策を丁寧に行っていることで利用者が安心して遊びに来られるという声も頂きました。いつでも遊びに来られたひろばから、予約制になったことで個々に合わせた対応ができること、個別な相談がしやすい点などもあり、じっくり聞いて理解してもらえる関係性や居場所を地域の子育て世代が求めていると感じています。

2021年度 上北沢こぐま保育園 参加研修一覧

正職員

NO.	キャリアパス 該当	自主研修対象	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所
1	×	○	4月18日(日)	全幼協オンライン研修講座	「子どもの発達と集団づくりのみちずじ」	全幼協	オンライン
2	×	×	4月30日(金)	ミドル研修1年次第1回	「ミドルリーダーに求められるもの」「フアンリテーションの技能について」「写真を使ってワーク」	世田谷区保育課	オンライン
3	×	×	6月2日(火)	ミドル研修1年次第2回		世田谷区保育課	
4	×	×	7月16日(金)	ミドル研修1年次第3回		世田谷区保育課	
5	×	×	8月31日(火)	ミドル研修1年次第4回		世田谷区保育課	
6	×	×		ミドル研修1年次第5回	公開保育	世田谷区保育課	
7	×	×	12月22日(火)	ミドル研修1年次第6回		世田谷区保育課	
8	×	×		ミドル研修1年次第7回		世田谷区保育課	
9	×	×	5月15日(土)	法人新入職員研修		2020年度法人研修委員会	
10	×	×	5月15日(土)	法人新入職員研修		2021年度法人研修委員会	
11	×	×	5月15日(土)	法人新入職員研修		2021年度法人研修委員会	
12	×	×	5月15日(土)	法人新入職員研修		2021年度法人研修委員会	
13	×	×	5月15日(土)	法人新入職員研修		2021年度法人研修委員会	
14		×	7月2日(土)	法人中堅層研修		2021年度法人研修委員会	
15		×	7月2日(土)	法人中堅層研修		2021年度法人研修委員会	
16		×	7月2日(土)	法人中堅層研修		2021年度法人研修委員会	
17		×	7月2日(土)	法人中堅層研修		2021年度法人研修委員会	
18		×	7月2日(土)	法人中堅層研修		2021年度法人研修委員会	
19		×	7月2日(土)	法人中堅層研修		2021年度法人研修委員会	
20	×	○	8月24日(火)	獅子舞		荒馬座	荒馬座民族芸能センター
21	×	○	6月9日(水)	2021年度保育プラザ研修	「食を営む力」を育む保育の考え方と実践づくり		オンライン

正職員

NO.	キャリアパス 該当	自主研修対象	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所
22	×	×	6月8日(火)	令和3年度第1回特定給食施設講習会	日本食品衛生法2020年版の概要とその活用について	世田谷区保健所推進課	オンライン
23	○	×	5月11日(火)	令和3年度 幼児教育研修(キャリアアップ研修)		世田谷区保育課	オンライン
24	○	×	6月29日(火)	令和3年度 幼児教育研修(キャリアアップ研修)		世田谷区保育課	オンライン
25	○	×	7月27日(水)	令和3年度 幼児教育研修(キャリアアップ研修)		世田谷区保育課	オンライン
26	○	×	9月9日(木)	令和3年度 幼児教育研修(キャリアアップ研修)		世田谷区保育課	オンライン
27	○	×	10月21日(木)	令和3年度 幼児教育研修(キャリアアップ研修)		世田谷区保育課	オンライン
28	○	×	5月26日(水)	令和3年度 乳児教育研修(キャリアアップ研修)		世田谷区保育課	オンライン
29	○	×	6月9日(水)	令和3年度 乳児教育研修(キャリアアップ研修)		世田谷区保育課	オンライン
30	○	×	6月30日(水)	令和3年度 乳児教育研修(キャリアアップ研修)		世田谷区保育課	オンライン
31	○	×	7月13日(火)	令和3年度 乳児教育研修(キャリアアップ研修)		世田谷区保育課	オンライン
32	○	×	8月3日(火)	令和3年度 乳児教育研修(キャリアアップ研修)		世田谷区保育課	オンライン
33	×	○	6月22日(火)	2021年度保育プラザ研修	接触機能の発達と食事介助のポイント	一般社団法人保育プラザ	オンライン
34	×	○	6月13日(日)	全国保育問題研究集会	乳児保育	全国保育問題研究協議会	オンライン
35	×	○	6月13日(日)	全国保育問題研究集会	乳児保育	全国保育問題研究協議会	オンライン
36	×	○	6月13日(日)	全国保育問題研究集会	乳児保育	全国保育問題研究協議会	オンライン
37	×	○	6月13日(日)	全国保育問題研究集会	乳児保育	全国保育問題研究協議会	オンライン
38	×	○	6月13日(日)	全国保育問題研究集会	乳児保育	全国保育問題研究協議会	オンライン
39	×	○	6月13日(日)	全国保育問題研究集会	乳児保育	全国保育問題研究協議会	オンライン
40	○	×	6月15日(火)	障がい児保育研究会		東京経営懇	オンライン
41	○	×	7月27日(火)	障がい児保育研究会		東京経営懇	オンライン
42	○	×	9月14日(火)	障がい児保育研究会		東京経営懇	オンライン
43	○	×	11月16日(火)	障がい児保育研究会		東京経営懇	オンライン
44	○	×	1月18日(火)	障がい児保育研究会		東京経営懇	オンライン

正職員

NO.	キャリアパス 該当	自主研修対象	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所
45	○	×	6月16日(水)	乳児保育研究会		東京経営懇	オンライン
46	○	×	7月14日(水)	乳児保育研究会		東京経営懇	オンライン
47	○	×	9月8日(水)	乳児保育研究会		東京経営懇	オンライン
48	○	×	10月13日(水)	乳児保育研究会		東京経営懇	オンライン
49	○	×	11月10日(水)	乳児保育研究会		東京経営懇	オンライン
50	○	×	6月23日(水)	幼児保育研究会		東京経営懇	オンライン
51	○	×	7月21日(水)	幼児保育研究会		東京経営懇	オンライン
52	○	×	9月15日(水)	幼児保育研究会		東京経営懇	オンライン
53	○	×	10月20日(水)	幼児保育研究会		東京経営懇	オンライン
54	○	×	11月17日(水)	幼児保育研究会		東京経営懇	オンライン
55	○	×	6月	令和3年度 障害児研修(キャリアアップ研修)		世田谷区保育課	オンライン
56	○	×	8月24日(火)	令和4年度 障害児研修(キャリアアップ研修)		世田谷区保育課	オンライン
57	○	×	9月2日(木)	令和5年度 障害児研修(キャリアアップ研修)		世田谷区保育課	オンライン
58	×	○	6月4日(金)・6月20日(日)	荒馬座 篠笛講座		荒馬座	荒馬座民族芸能センター
59	×	○	7月31日(土)・8月1日(日)	第53回 全国保育団体合同研究会in広島		全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン
60	×	○	7月31日(土)・8月1日(日)	第53回 全国保育団体合同研究会in広島		全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン
61	×	○	7月31日(土)・8月1日(日)	第53回 全国保育団体合同研究会in広島		全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン
62	×	○	7月31日(土)・8月1日(日)	第53回 全国保育団体合同研究会in広島		全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン
63	×	○	7月31日(土)・8月1日(日)	第53回 全国保育団体合同研究会in広島		全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン
64	×	○	7月31日(土)・8月1日(日)	第53回 全国保育団体合同研究会in広島		全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン
65	×	○	7月31日(土)・8月1日(日)	第53回 全国保育団体合同研究会in広島		全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン
66	×	○	7月31日(土)・8月1日(日)	第53回 全国保育団体合同研究会in広島		全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン

正職員

NO.	キャリアパス 該当	自主研修対象	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所
67	×	○	7月31日(土)・8月1日(日)	第53回 全国保育団体合同研究会in広島 保育に悩んだ時に読む本～発達のドラマと実践の手立て～		全国保育団体合同研究会実行委員会	オンライン
68	×	○	書籍			神田 英雄	
69	×	○	6月4日(金)・11日(金)・20日(日)	荒馬座 篠笛 初級教室		荒馬座	荒馬座民族芸能センター
70	×	○	8月5日(木)	荒馬座 夏の太鼓民舞講座		荒馬座	オンライン
71	×	×	7月15日(木)	全国経営会議			オンライン
72	×	×	7月15日(木)	全国経営会議			オンライン
73	○	×	12月16日(木)・17日(金)	東京都キャリアアップ研修	「食育・アレルギー対応」	日本educe食育総合研究所	国立オリンピック記念青少年総合センター
74	○	×	1月27日(木)・28日(金)・29日(土)	東京都キャリアアップ研修	「マネジメント」	一般社団法人 鞠の糸 保育チーム	第2 弥助ビル
75	×	×	12月9日(木) 10日(金)	第1回全国福祉経営研究交流会in兵庫	職員の確保と定着・育成	第1回全国福祉経営研究交流会実行委員会	
76	×	×	12月9日(木) 10日(金)	第1回全国福祉経営研究交流会in兵庫		第1回全国福祉経営研究交流会実行委員会	
77	×	×	12月9日(木) 10日(金)	第1回全国福祉経営研究交流会in兵庫	職員の確保と定着・育成	第1回全国福祉経営研究交流会実行委員会	
78	×	×	1月10日(月) 11日(火)	第41回経営研究セミナー	地域の現状と社会福祉の役割	全国民間保育園経営研究懇話会	豊橋
79	×	×	1月10日(月) 11日(火)	第41回経営研究セミナー	職員集団作り・職員育成の取り組み	全国民間保育園経営研究懇話会	オンライン
80	×	×	1月10日(月) 11日(火)	第41回経営研究セミナー	保育士確保と処遇改善	全国民間保育園経営研究懇話会	豊橋
81	×	×	12月17日(金)	砧保育園見学交流			
82	×	×	12月20日(月)	砧保育園見学交流			
83	○	×	12月21日(火) 22日(水)	東京都キャリアアップ研修	「保健衛生・安全対策」	社会教育協会	国立オリンピック記念青少年総合センター
84	×	×	2月25日(金)	子どもの貧困対策推進フォーラム世田谷2022		世田谷区	オンライン
85	○	○	3月2日(水) 3月6日(日)	東京都キャリアアップ研修	「保健衛生・安全対策」	鞠の糸	オンライン
集計							85

2021年度 上北沢こぐま保育園 参加研修一覧

園全体の研修他									
NO.	役職・クラス	氏名	キャリアパス 該当	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所	対象者
1				5月20日(木)	新人研修		園	園	新人
2				8月28日(土)	げんき研修				全員
3				8月2日(月)	げんき研修巡回研修				みかん職員 ケース会議担当者
4				12月3日(金)	げんき研修巡回研修				みかん職員 ケース会議担当者
5				11月6日(土)	法人研修		法人研修委員会	園	全員
6				12月2日(木)	職員会議内研修	個々の対応について ごっこ遊びの中の発達	園	園	全員
7				12月18日(土)	職員会議内研修	嘔吐処理	園	園	全員
8				3月26日(土)	職員会議内研修	世田谷区保育の質のガイドライン等	園	園	全員
9				3月29日(火)	新人研修	園新人研修「規定関係」	園	園	2022年度新入職員
10				2月26日(土)	2022年度新入職員研修		法人研修委員会(新入職員研修担当)	オンライン	2022年度新入職員
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
集計									10

2021 年度 永山小学童クラブ事業報告

1. 児童状況

- (1) 定員：70 名
- (2) 育成年齢：6 歳～12 歳（小学校 1 年生～6 年生）
- (3) 育成時間：学校下校時～19：00、学校休業時 8：00～19：00
- (4) 学年別状況：(2021 年 4 月 1 日現在)

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	合計
人数	23 名	23 名	21 名	1 名	1 名	1 名	70 名

※待機児童 14 名（第 2 希望の永山学童クラブに入所）

2. 職員状況

- (1) 正職員（2021 年 4 月 1 日現在）

職種	施設長	放課後児童支援員	合計
人数	1 名	4 名	5 名

- (2) 正職員状況

* 育休復帰者 1 名（4 月 19 日から復帰）

- (3) 有期契約職員

勤務時間	4 h × 週 4 日	6 h × 週 5 日	5 h × 週 5 日	不定期 (学生・おやつ 担当)	合計
人数	4 名 (1 名 9 月から)	1 名	2 名	4 名	11 名

- (4) 有期契約職員状況

* 無期転換職員 4 名

* 産休・育休 1 名（9 月 21 日から復帰）

- (5) * 事務職員（4 h × 週 2 日） 3 学童クラブ分の事務処理担当（賃金は案分）

- (6) 資格取得状況

保有資格	放課後児童支援員	保育士	教員免許
人数	10 名	5 名	9 名 (中・高 6、養護 1、 幼 3)

3. 2021年度に取り組んだこと

(1) 「子ども会議」の拡充

もともと「子ども会議」と銘打たずとも、日常の遊びやちょっとしたトラブル、行事の計画など子どもたちと話し合いながら作っていくことは学童クラブでは当たり前のことだが、殊更計画に掲げたのは、大人発信で話し合いが始まるのではなく、こどもたちからの発信で行事や日常のことについて大人を巻き込んでいけるような話し合いができることを念頭に置いていた。

その意味での一歩先を実現するべくわざわざ「〇〇会議」などともいわずに、グループ内の席替えや、遊びのルール、集団降所時の問題など日常的に話し合うことが多かった。特に勝ち負けのある遊びでのトラブル（サッカーなど）がいつも以上に多発し、その都度話し合いがもたれた。大人からのルールの押し付け、決めつけにはならないようみんなが納得でき、気持ちよくできるようにするにはどうするかというスタンスで何度も話あった。一度の話し合いで全て解決には至らず、この前の話し合いはなんだったのかと大人のほうで落ち込むことも多々あった。子ども発信でできるようにするには、自然発生的に出てくる意見をくみ取ることは必須だが、低学年の子どもたちがより発信しやすい環境を大人のほうで整えること（行事などでの事前予告周知など）が、追いついていなかったことは、大人発信にならざるを得なかった原因の一つといえる。コロナ感染拡大を理由にするのは言い訳かもしれないが、第6波は今までになく子どもの感染が増え、主体の子どもたちが揃わず、行事そのものも実施できるのかという綱渡り的な状況の中、何とか子どもたちと作り上げようとなかなか成果が見えず落ち込むこともありながらも、少しでも子どもたちとやり取りしつつ作ってきた。子どもたちもコロナ対応で学童クラブ以外での我慢も多く学童クラブでは、話し合いに時間を費やすより遊びの実質時間を少しでも確保したいと思っていたのも痛いほどわかっていて話し合いを提案する大人も悩んだ。事業計画で掲げたような子ども発信の一歩先を目指した「子ども会議」には、程遠い結果ではあるが、そこを目指し頑張ったことは、すべての今後に繋がると思いたい。大人発信ではあっても話し合うことで、子ども自身が自分気持ちを言語化し他児の気持ちも再確認することを何度もやることで、やりとりを重ねて折り合いをつけることを経験できたケースもある。1年で成し遂げられないことを掲げてしまった感はあるが、目指したことの実現には、大人のほうも、事前準備と研究と経験がまだまだ足りないということが見えてきた。〇〇をすればできるということではなく、日々の地味な研究と実践の繰り返しかもしれないが、この1年の努力を無駄にしないためにも研鑽、研究を積み重ねていきたい。

(2) 自発的な制作活動への支援

コロナ感染防止のための制約が多い中、制約なく自由な制作活動を応援するための空間と素材の保証は、かなり実現できたと思われる。段ボールや空き箱などの利用はリサイクルにはなっているが、ガムテープなども制限しないで使ってはいるが、かなり無駄になってい

ることも事実で、SDGsの視点からすると、もう少し子どもたちにも適切な使い方を学んでもらいたいところだが、それは次なる課題とした。作りたいたけまは作るということでは、子どもたちも少しは制約の多い日常を忘れることができたのではないかと思う。とはいえ共用のペンやボンドなどをこどもが自由に使用できる環境がまだ実現できていない。もっと自由度を高めつつ子どもたちにも後のことを考えて使用できるような（それも言われなくても）提供の仕方が今後の課題である。

(3) おやつやクッキングを通した食育

日常のおやつで食育を意識してやりたかったが、おやつ時のコロナ対応で精一杯になってしまったのが実情で日々の活動にまで落とし込めなかった。

防災対応のパッククッキングは、2020年に実施して2回目となる。1度経験している2年生以上はやりかたを覚えていて前回よりもスムーズにできた。21年度はごはんのパッククッキングだけでなく、バリエーションを増やしたかったが、コロナ感染拡大により、実施のチャンスが作れなかった。実現はできていないが、研究と構想はあためて今後の実施に繋いでいきたい。

食に関する研修については、別紙に記載してあるが、学童保育向けの食の衛生管理の研修を自主研修で受けた職員もいて職員の意識も高まってきている。コロナ後も見据え継続していきたい。

4. 行事

コロナ感染対応のため、父母会との共催のCAPワークショップは実施できなかったが、それ以外は、日程変更しながらも予定していたものは実施できた。詳細は別紙参照

5. グループ担当制

コロナ感染防止対応でおやつなどの飲食が、ディスタンスを取る必要から基本グループではあっても、全員グループ内に座れないのでグループでの活動は、宿題や帰りの会など飲食をしない集合時になっているが、担当職員とは日々宿題タイムや帰りの会や降所時のかかわりで、グループ担当職員との関係性は構築できている。あそびの時間はグループや学年関係なく職員もすべての児童と関わり何かあったときは、グループにかかわらず対応している。学級担任のような固定した担当ではなく緩やかでありつつ押さえるところは、押さえていくという担当の仕方も職員間での共有が、かなりできるようになってきた。グループ内の職員同士のミーティングが月2回は実施したいが、1回できるかできないかというのが、当年度の実績である。シフトのやりくりをしているが短い時間でも共通認識がもてるようにしていくことが課題である。

6. 保護者との関係

父母会との共催行事で親子交流会がコロナ感染防止対応のため実施できなかったが、前年度は、秋に延期して実施できた。ハロウィンと合わせて秋晴れの晴天の下、開催できた。参加した保護者からも自分の子どもから仲の良い子の話はよく聞けるが、親子で交流したことで、顔と名前が一致し話もできて良かったなどの好評が寄せられた。父母会の役員の方々もこの行事をきっかけにお互いが分かり合えたのもあり、コロナ禍で如何に人と人との生の交流がなくなっていて、そのことで大人も関係が構築し難くなっていることが改めてわかった。

7. 障がいのある児童の継続育成について

前年同様年度当初は、第一希望の永小学童クラブに残れず第二希望の永山学童クラブに入所となった児童も7月以降順次戻ってきた。結果的に10月には全員戻ってきた。今までの育成の積み重ねは、そう簡単には崩れず、戻ってきて児童の顔ぶれに変化はあってもなじみの職員がいることでスムーズに以前のように過ごすことができた。今後、ニーズの高い児童については、これまでのように年度途中で行ったり来たりになることはないと思われるが、学校内学童クラブへのニーズの高さ等からも、引き続き市のほうへ増設の要求は継続していく必要があると思われる。

8. 環境整備、施設整備

前年度実施できなかったテラスの整備は、テラス系の発足で久しぶりに年間通じてプランター活用ができた。前述の「子ども会議」ともリンクするが、係のこどもたちと話し合いをしながら、植え付けや日常管理、テラス利用の約束事などを決めて実施できた。観賞用の花だけでなく、トマトやイチゴ、ブロッコリー、ダイコン、ハウレンソウなどを栽培した。おやつに使えるほどの収穫はゴーヤ以外は難しいが、いつも食卓にのぼる野菜の成長は、観察できた。また、プランターで発生した青虫を蝶になるまで観察もできた。校舎の北側なので、日当たりが悪く無機質な外観だったのが、緑と花があることで、有機的な明るさや温かみを添えてくれている。

委託当初からあったカーテンが何年も前から損傷が激しく、ただでさえコロナ対応などストレスなどが多い状況なので、市のほうにも以前から言っていたが、創設13年目にしてこちらの方で新調することにした。遮光カーテンは黒の暗幕からライトグリーンにし、レースも引っ掛けりの少ない素材に変えて明るさと温かみのある室内になった。

9. 学校、地域、関係機関との連携

学校とは、コロナ感染防止対応のため学校施設をなにかと利用させていただいている。また、児童の育成で子ども同士のトラブル等それぞれが必要なものは共有し、良好な協力関係を継続している。関係機関とも情報共有や相談を適宜行い育成に反映できている。

10. コロナ感染対応関係

デルタ株までは、職員の家族や児童の家族の感染があっても、児童が感染する事例はなかったが、オミクロン株の流行になってから児童や家族の感染が、増えてきた。これに伴い、学童クラブでの感染防止対応も徐々にグレードが上がり、おやつの際の対応を何度も見直した。最終的に第6波に入ってから、シールドは使っていたが対面をやめ、シールドを扱いやすいものに変え、1テーブル3人までで同一方向を向くことや、時差式など様々なやり方を模索した。3月の春休みには、4月からのアレルギー対応とコロナ対応に備え、時差式に切り替えた。

学校が学級閉鎖などに至らなかったため、学童クラブも自粛要請などを行うことなく通常育成を続けたが、体調不良の児童が増えていた2月、3月は多くの行事もありいつも綱渡り的な状況だった。

11. 民主的で働きやすい職場環境

月1回の月案会議には、学生以外は加配の職員も含め午前中から、児童理解や育成面での共有及び検討をしているが、加配の職員も積極的に発言してくれることが増え、常勤職員との忌憚ない意見交換ができるようになった。コロナ対応や育成面では時間が足りず、もっと会議を持ちたいが、シフトの関係で難しい。せめてグループ会議については、小規模なのでもっと回数を増やしていくことが課題である。

12. 研修関係

別紙参照。

2021年度 永山小学童クラブ 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
1	正職員	島田療育センターティーチャートレーニング	島田療育センター	島田療育センター 厚生棟	8/2～3	発達障害の特性理解から行動分析やアセスメント、構造化などについて	×	○	
2	正職員	島田療育センターティーチャートレーニング	島田療育センター	島田療育センター 厚生棟	8/2～3	発達障害の特性理解から行動分析やアセスメント、構造化などについて	×	○	
3	正職員	救命救急講習	(児童青少年課) 消防署	愛宕児童館	7月2日	心肺蘇生、AEDの使用法	×	×	
4	正職員	救命救急講習	(児童青少年課) 消防署	愛宕児童館	7月2日	心肺蘇生、AEDの使用法	×	×	
5	正職員	放課後児童支援員 資質向上研修	東京都福祉局	zoom	9月21日	放課後支援員5年以上経験者対象 子どもの人権、職場倫理、発達障害、保護者、学校との関係についてグループ討議を中心に学びを深める	×	×	
6	正職員	放課後児童支援員 資質向上研修	東京都福祉局	zoom	12月7日	放課後支援員6年以上経験者対象 子どもの人権、職場倫理、発達障害、保護者、学校との関係についてグループ討議を中心に学びを深める	×	×	
7	施設長	放課後児童支援員 資質向上研修	東京都福祉局	zoom	11月26日	放課後支援員7年以上経験者対象 子どもの人権、職場倫理、発達障害、保護者、学校との関係についてグループ討議を中心に学びを深める	×	×	
8	正職員	R3年度アレルギー講演会	南多摩保健所	zoom	7月	食物アレルギーとエビペンの使い方	×	×	
9	正職員	R4年度アレルギー講演会	南多摩保健所	zoom	7月	食物アレルギーとエビペンの使い方	×	×	
10	正職員	島田1. 2年目研修	島田療育センター	zoom	9月	ABC分析、構造化	×	×	
11	正職員	島田1. 2年目研修	島田療育センター	zoom	9月	ABC分析、構造化	×	×	
12	正職員	中堅層研修	多摩福祉会	貝取小	7月6日	中堅職員の育成	×	×	
13	正職員	法人合研	多摩福祉会	zoom	6日	保育、学童各拠点の実践の共有と意見交換	×	×	
14	施設長	第46回 全国学童保育指導員学校	全国学童保育連絡協議会	zoom	5月7日	全体会：子どもの権利と学童保育（増山均） 分科会：指導員をめぐる情勢と課題	×	○	
15	施設長	第56回 全国学童保育研究会	全国学童保育連絡協議会	zoom	10月23日 10月24日	全体会：学童保育の歴史から学び未来を拓く 分科会：学童保育の民営化を考える	×	○	
16	施設長	第1回全国福祉経営研究会in 神戸	全国福祉経営研究会	zoom	12月9日 12月10日	コロナ禍での現状と課題について 分科会：コロナ災害や自然災害の経験から見えてきた福祉施設の課題	×	×	
17	施設長	第19回島田療育センター公開シンポジウム	島田療育センター	zoom	2月11日	神経難病における生活支援の現状と課題 医療的ケア児関連	×	○	
18	施設長	第28回全国学童保育研究会	全日本建設交通一般労働組合全国学童保育部会	zoom	2月13日		×	○	
19	正職員	たま研	多摩福祉会学童クラブ	zoom	3月15日	2021年度総括	×	×	
20	正職員	学童担当者会議	多摩市児童青少年課	zoom	12月16日	子ども家庭支援センターについて	×	×	
21	正職員	「おやつ・食事」衛生管理が輝度ブック フォローアップ研修	仙台市学童保育連絡協議会	zoom	2022/2/10	手作りの時や食に関する衛生について	×	○	
22	正職員	情報セキュリティ研修	多摩市児童青少年課	zoom	2022/2/16	情報のセキュリティ全般	×	×	

2021年度 永山小学童クラブ 参加研修一覧

有期職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	自主研修対象	備考
1	有期契約職員	放課後児童支援員認定研修	東京都	ベルサール飯田橋駅前ホール	9/13～9/16	放課後支援員資格認定	×	
2	有期契約職員	放課後児童支援員認定研修	東京都	クロスウェーブ府中ホール	9/27～9/30	放課後支援員資格認定（27日のみ受講）	×	
3	有期契約職員	法人合同研修会	多摩福祉会	ZOOM	2022/11/6	いまこそ子ども主体の保育を	×	

園全体の研修他							
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	対象者
35		法人合研	多摩福祉会	ZOOM	11月6日	いまこそ子ども主体の保育を	常勤全員 有期職員希望者
36		島田巡回相談	多摩市・島田療育園	永山小学童クラブ	2022/12/21	①OTについて、体幹について ②感覚過敏・鈍麻について ③学童クラブで体幹を鍛えたり感覚を刺激する遊びや活動について	常勤・ 有期職員全員

2021年度

	子どもたち・遊びの様子	行事	特記事項
4月	生活班は、以前からのグループ制で、帰宅班をベースにした3グループ体制でスタートした。新しい1年生がほぼ3分の1だが、グループによって比率が違い半数近く1年生が占めるグループもできたが、それぞれ2年生以上がしっかりリードしてくれて大きな問題なくスタートできた。 コロナ対応でおやつ時は、密を避けるため各テーブル4人にするため、図書室とプレースペースに出した座卓に各グループから何人か移動し、4グループになる。移動する子は日替わりになるので、2,3年生を中心に移動してもらおうが、自由席のような雰囲気でおしゃべりなどつい大声してしまう傾向があり、メンバーが固定しないように働きかけようとしている。 緊急事態宣言が25日から発令されたが、昨年度のようにそのことで登所を控える家庭はほとんどなく、出席率が高い状況が続いている。	避難訓練・6日(火)2年生以上 避難訓練9日(金)1年生のみ 13日(火)全員で避難訓練。 新入所歓迎会:14日(水) 保護者懇談会:15日(木)19時15分開始 15人参加。16日(金)19時15分開始 40人参加	2名退所(3年生:1名/6年生:1名)
5月	新学期が始まり1か月経ち、新入生も学校、学童クラブという生活にもすっかり慣れてきたようだ。2年生以上も友達関係が今までとは違う広がりを見せている。そのことでいまままでよく揉めていた友達関係が解消したように思われたが、根本的なところがいかげつされたわけではなく、新しい関係で同じようなことで揉めているので、大人が入って何度も話し合いをした。3年生女子だけでなく2年生でもそれぞれもう一言言葉でしっかりと気持ちを伝えていけば良かったのというケースが多い。言葉足らずで勝手に思い込みみさらに好き・嫌いの次元の話になっている。このことで一人の子を複数のメンバーで疎外するという事態になりかねず、早い段階で大人が介入し話を聞き取ってもらう原因を掘り起こしどのように言えばよかったか、さらに言わなかったから誤解が生じていたことを認識しどのように着地すればお互い気持ちよく接することができるか、すぐには解決しないが一緒に考える作業を継続中である。 男子もサッカーでトラブルがあり、サッカー会議をひらいてルールの再確認をした。小さな揉め事を小さなうちに大人が仕切って解決するのではなく子どもたちと一緒に時間がかかるが丁寧に向き合って解決していきたい。	引き渡し訓練12日(水)48名の参加だった。 テラス・プランター係活動 10日～ 親子交流会(父母会共催行事)22日(土)→緊急事態宣言の延長で10月に延期。 個人面談 25日～1年生は全員、2年以上は希望者	2名入所(3年生:2名)
6月	子どもたちの関係性で先月から引き続き話し合いを重ねるケースがいくつかあった。2人なら遊べるが、3人以上になると遊べないとか、特定の子が休みの時にはそのグループで遊ぶがその子がいる時は別の子と遊ぶなど対人面でギクシャクするケースが複数ある。低学年ばかりの学童クラブでは毎年似たようなケースがあり、その都度大人が介入し、一緒に解決法を見つける作業をしている。狭い関係性のパターンしか経験しておらず、自他ともに成長している中で、興味関心の広がりや自我の芽生えなどで関係性も変化する。そこで他の者に対する共感や折り合いをつけることで解決の糸口が見つかるが、子どもたちだけでは自力では難しい。コロナ対策で、マスクをしていて表情がわかりづらいものもあるが、昨年の学校休校や自粛などでリアルな関係づくりの経験が少なくなってしまうものもあるのではないかと推測する。個人面談で保護者とのやりとりでも、親同士の繋がりが薄くなってしまい、同じ学年で同じ地域、同じマンションでも探り合いのような状況もおこっていて、学童クラブから帰宅してから、あるいは休みの日に子ども同士で遊ぶ中でのトラブルなども親同士のやりとりができず、学童クラブに相談するケースも複数ある。子どもを中心に大人同士が忌憚なく話ができるベースが脆弱になった感じがする。学童クラブとしては、大人が解決するのではなく子どもたちがいずれ自分たちで解決できるように一緒に着地点を探す援助をすること、保護者にも地域で繋がりができるよう支えていきたい。1月に発生したアタマジラミが終息していなかったようで、複数の児童に確認できた。メールとお便りで注意喚起した。光化学スモッグで外遊びができない日が3日あった。	歯磨き教室(6月2日) 工作週間①(6月3日～)プランパン工作 ②(6月14日～)小物入れ(カップにマスキングテープやペンで色塗り) 映画会(6月4日) 個人面談:5月下旬から新規入所者と2年生以上の希望者全員完了した。 お留守番教室(6月30日)	2名退所(3年生:1名/2年生:1名)
7月	出席率がほぼ8割で早帰りが少ない日はおやつ時の座席に苦労している。子どもたちはコロナに慣れてきているようで、昨年の夏のような緊張感はない。人間関係の構築など昨年度やりそなえたことを今年になってどの学年もやり直しているのではないかとと思うくらい遊びの約束等のトラブルが多い。マスクで表情が読み取りづらいのや休みの日などの日常的な地域での関わり方が減っていることも大きいと思われる。保護者同士も探り合いの感がある。	七夕(1日～7日) 夏の保護者会(8日、9日)両日合わせて30数名の参加だった。	2名入所(5年生:1名/6年生:1名)
8月	8月に入っても登所数は、5から6割の登所数だった。1日育成ではおやつだけでなくお弁当の感染対策も同じで、机を図書室や空きスペースに出しシールドを設置・撤収消毒と作業も倍になる。昨年の夏より期間が長いので、職員の夏休みなど体制も難しかった。 感染拡大がおさまらず、CAPや水遊び防災クッキングも中止とした。熱中症指数が高い日や光化学スモッグも数回発令され外で遊べない日も多く室内での遊びも煮詰まることから、夏休みになって新しいカードゲームや盤ゲームを更新するなど目先を変えたり、簡単な作業も時期に応じて提供した。水遊びはできなかったが、昨年好評だった水鉄砲で吊るしたお菓子を撃ち落とし、その日のおやつにした。 全国的に感染拡大が続いたが、お盆明けから登所人数が増えたと、子どもたちも緊張が持続できず食事の時のおしゃべりが増え熱食が徹底できない。	6日(金)大掃除。 工作関係 ・ストロープレスレット・段ボール工作・うちわづくり・アイロンビーズ 24日(火)お店屋さん準備会議→本番は11月に変更	1名退所(3年生:1名)
9月	夏休みの延長が終わり2学期が始まったが、緊急事態宣言の延長による多摩市からの自粛要請を受け、9月の登所数は夏休みと同じくらいか少ないくらいの日が多かった。おやつ時間のシールドをプラダン素材で横も仕切ることし、ついおしゃべりしてしまうのはあるが熱食の声かけて、子どもたちも実行できている。 自粛期間であることと運動会など学校行事が延期され子どもたちの負担等も考慮し、9月以降の学童クラブの行事の日程も見直しをしたが、子ども会議については行事だけでなく日々の遊びのルールや降所時の確認など折に触れ日常的に継続しておこなった。 子どもたちが全員揃わない中で人間関係のギクシャクの対応が難しい。成長したが故に感じ方やそれまでの関係性に変化が生まれそれをどう受け止め折り合いをつけるか、それぞれの成長に合わせてつづつお互いがかどまで自分と相手を理解し関わるか、これが正解というゴールはないが、お互いが気持ちよく対等に関われるよう大人はファシリテーターとして寄り添いながら見ていきたい。	子ども会議・安全教室(27日～30日)	1名入所(3年生:1名) 1名退所(3年生:1名)

	子どもたち・遊びの様子	行事	特記事項
10月	自粛期間が終わり、毎日50人越えの登所でいっきに賑やかになる。今年の特徴で習い事の関係で水曜日の登所数が少ない傾向がある。自粛が明けて人数が増えたからか、学校の運動会が23日にあるからか、日に日に子どもたちのテンションが高くなり、些細なことでもトラブルになっている。サッカーの勝ち負けや鬼ごっこでタッチされたことで喧嘩になるなど、ルール以前の次元になっている。今までもこのようなことがなかったわけではないが、頻度が増えていることや学年関係なく起きていることから、そもそも子どもたちの集団での遊びの経験値の低さや幼さを全体的に感じる。	交通安全教室 1日(金) 地域安全マップ(降所路のマップ) 3日～15日 秋の保護者会 YouTube配信 防犯安全教室 20日(水) ハロウィン製作25日(月)～29日(金) 親子交流会 30日(土) 父母会共催で2年越しで開催した。	1名入所(5年生:1名) 2名退所(3年生:2名)
11月	11月は秋らしく晴天の日が多く気持ちよく外遊びができた。上旬に中学生2名が職場体験に3日間来所した。外遊びでは、子どもたちに誘われ水鬼をしていた。職員も一緒にフォローしかなりの人数の子どもたちが参加した。最近の傾向として鬼ごっこはやりたいが、鬼にはなりたくないし、たっちされるのは絶対いやという子が多い。 お店屋さん準備が11月に入ってすぐ3年生を中心に始まったが、当初のやる気が順延になったことで少し落ちてきたことに加え、遊びたいというきもちの葛藤が少なからずの子にもあった。最悪お店屋さんをやらないということも覚悟したが、職員とやりとりしながら結果的にみんな準備と遊びをなんとか両立させることができた。これも3年生の成長を感じる。一方2年生がこのところ遊びや対人面でルールを無視したりトラブルや怪我につながるが続いている。	・個人面談(10/27～12/13) 全世帯対象 ・お店屋さん(11/17・18)《17日 おぼけやしき》《18日 射的・スライム・フォトフレーム》 ・避難訓練(11/19)	1名退所(3年生:1名)
12月	初冬らしい天候の日が多く、外遊びがよくできた。学期末の常なのか、コロナ対応で子どもたちもそれなりに我慢しているからなのか、いつも騒がしくふざけたり他児の不適切な行動は目ざとく見つけて注意するなど、全体的に落ち着かず誰がやったかわからない落書きや壁紙はがしなどが多かった。外でサッカーや鬼ごっこもよくやったが、何度話し合いをしても勝ち負けにこだわり点を入れられたのは、〇〇のせいだと怒り、全体の空気がギスギスすることになり職員間で何度も話し合いながら子どもたちともやりとりをした。また、特別支援学級を名指して「ばか」と発言され、特別支援学級在籍児童が痛く傷つくことがあった。学童クラブでも指導とフォローをしつつ学校とも連携をとった。	手洗いチェック(11/29～12/8) 避難訓練(12/10) クリスマス工作(12/15～) 3年生保護者会(12/17)17家庭中11家庭の参加。 大掃除(12/22)	
1月	年始は保護者の仕事か休みの関係での欠席に加え、体調不良者や保護者が在宅勤務になった影響で、登所人数が40名台の日も続いた。新型コロナウイルスの感染拡大が続き、育成の流れの変更や屋外でもマスクを着用してもらうなど、子どもたちの生活を制限して対策をせざるを得ない状況となった。 おやつは、感染リスク低減のため、学年ごとに時差をつけて分散して行った。他学年がおやつを食べている間は、原則全員外遊びとした。 外遊びでは、はじめ第一公園を活用した。普段外遊びをあまりしない子も交えて、ポコペンなどの集団遊びが盛り上がった。以前は毎日サッカーにこだわっていた子が、新しい遊びを思い付くなど、相応に遊びを見つけて楽しんでいた。始めは長い外遊びの時間、第一公園を使うということで新鮮味があったが、だんだんと煮詰まってきた。その後、学校終業後は校庭を使い、リレーやフリスビーなど、第一公園とはまた違った形で子どもたちは体を動かして遊んでいる。 上記のような育成の流れの変更によって、新たに楽しみを見つける子もいれば、登所後宿題ができないことや、室内遊びをしたいときにできない、サッカーができないなどということも、ストレスに感じている子もいる。	12日(水)避難訓練 17日(月)～ お留守番ノート作成	
2月	1月の下旬から時差式学年別のおやつをしているが、そのことのデメリットもでてきている。感染対策としては有効で、感染拡大の状況からしてもとてもシールドを置いてでも対面にはまだ戻せない。 お天気続きなので寒くても、おやつ以外の学年の子は第一公園で過ごしているが、室内遊びをおやつと並行できないのと、職員体制もいつも万全ではないなかで子ども同士のトラブルも細かく見切れないこともある。春休みも目前になり、お弁当は時差式にできず学校のコスモスホールを借りることにしたが、消毒の場所が各段に増え職員の負担も増す。児童や保護者関係者の感染も出ている中で、何とかクラスターをギリギリの状況で防いでいきわどきを感じる。感染対策に軸足を置かざるを得ない状況で、どれだけ子どもたちに豊かで楽しい放課後の支援をしていくか、現場も難しい対応を迫られている。完全黙食ができるのであれば、シールドをはさみ対面でも可能と思うが、学校できても学童クラブで完全に黙食は難しい。	3日(木)節分 19日(土)遠足 3月に延期した。	
3月	前半は進級を祝う会の準備や3年生遠足など大きな行事の準備や実施に追われる日々だった。中旬以降は、コロナウイルスの感染判明が複数あり、その対応をしながらの新年度準備の期間となった。 次年度のおやつやお弁当の時の感染防止対応とアレルギー対応の両立に向け職員間で何度も会議をし春休みに入ってから、実際に4月からの対応の試行をした。お弁当は、時差ではできないので一斉になるが、室内で前後の距離をとって横にはシールドを置いて机を目いっぱい使っても、30人しか入れない。天気の良い日はテラス周辺を利用し、距離をとってピクニックシートを敷いて昼食をとることにした。雨の日は学校のコスモスホールを借りた。	進級・卒クラブを祝う会(9日水) 3年生お別れ遠足(12日土)大谷戸公園	

2021 年度 貝取学童クラブ事業報告

1. 児童状況

(1) 定員：70 名

(2) 育成年齢：6 歳～10 歳（小学 1 年生～ 4 年生）

〈8 月一時入所は 6 年生まで可

また特別支援学校、特別支援学級に通う児童は 6 年生まで通年入所可〉

(3) 育成時間：学校下校時～19:00、学校休業時 8:00～19:00

(4) 学年別状況（4 月 1 日在籍児数）

学年	人数
1 年生	22
2 年生	16
3 年生	12
4 年生	8
計	58

(5) 在籍児童状況

* 要配慮児：16 名

* アレルギー児：2 名

* モアサービス利用者：8 名(2021 年度 4 月)

(6) 入退所状況

・ 入所

7 月：1 年生 1 名 8 月：1 年生 1 名 夏入所：8 名

・ 退所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	計
1 年						1	1					2
2 年						1			1			2
3 年				1			1		1			3
4 年	1						2			1	1	5
計	1			1		2	4		2	1	1	12

2. 職員状況

(1) 正職員 4 名：施設長 1 名、主任支援員 1 名、支援員 2 名

〈1 名育休を取得、5 月 1 日復帰〉

(2) 有期契約職員 8 名：4 時間×週 5 日 1 名、4 時間×週 4 日 1 名、
4.5 時間×週 4 日 1 名、4.5 時間×週 3 日 1 名、
5.5 時間×週 2 日 1 名、4 時間×週 2 日 1 名
4.5 時間×週 2 日 2 名

事務員 1 名：6 時間×週 3 日

(3) 職員研修：別紙参照

3. 新型コロナウイルス感染症について

<感染状況>

- ・ 職員は 0 名だが、同居の家族で陽性者が 2 名いた。児童は 5 名。
- ・ 年明けから児童の同居の家族での感染者が数家庭あり、児童はなっていないが数日休むケースが多かった。

<対応について>

- ・ 新入所説明会を対面で行う予定だったが、急遽ネットでの配信に変更をしたり、親子交流会を子どものみの行事に変更をして対応してきた。

4. 2021 年度に取り組んだこと

<全体として>

- ・ 外での遊びについては、職員が庭でできる事を提案していきながら実際に遊びながら広げていくようにした。(缶蹴り・どろけい・エスケンなど) また地域の公園にも足を運び、その中でも利用したことが無い子どもも多く、今後公園の利用についても積極的に利用していくきっかけになった。
- ・ 児童が落ち着いて過ごせる空間を作るために、子どもの入退所などの状況に合わせてレイアウトを変更してきた。育成室をグループに合わせ 3 か所に区切っているため、集中して遊べる子も多かった。また自分のグループが居場所としてある事で安心して過ごしている様子の児童もいた。
- ・ 野菜の栽培はコロナの関係もあり、本年度は栽培を行わなかった。施設内にできたみかんの収穫を子ども達と一緒にいたり、昆虫の飼育を行った。昆虫はカブトムシを飼育したのだが、子どもからの提案でカブトムシの亡骸を標本にした。
- ・ 工作は主におやつ空き箱ではあるが材料として用意していたので、自由に制作し

ていた。作った物を放置している子もいたので、週末には持ち帰るように促しなどをしながら、作品の管理を子ども自身が行うように話をしてきた。本年度は手芸については行わなかった。その時期に折り紙が流行り、細かい作品を作っている児童もいた。

- ・ 他の機関とは連携をとりながら育成に取り組んできた。特に配慮が必要な児童のいる学校とは担任とも情報共有しながら家庭へのフォローもしてきた。また次年度の申請時期には市内の保育園・幼稚園との情報交換を行い、次年度の受け入れ準備を行った。
- ・ 育成の中では職員一人一人が子どもの動き、また他の職員の動きを見ながらそれぞれ声を掛け合い動いていた。ただし、時折それぞれが遊びに入り込み過ぎると見られていない場面もあるので、次年度の課題としたい。

<グループ担当制>

- ・ 日々の子どもの情報は打ち合わせでもしてきたが、打ち合わせの時間以外でも頻繁に行っていた。事務作業中や育成中など、職員それぞれが常に共有するような形が自然とできていた。
- ・ グループ内の打ち合わせはグループによって週 1 回のところもあれば、ほぼ毎日やっているところもあった。中にはあまり打ち合わせをとっていないところがあり、職員同士でのコミュニケーションが取れていないところもあった。
- ・ グループの大きな変更はしていないが、年度末には次年度に向けて一部地域の子どものグループ変更を行った。その際は子ども・家庭にも確認をして変更をしている。特に問題なくスムーズに変更はできた。

<保護者との関係>

- ・ 新型コロナウイルスで新入所児の保護者との関係づくりは職員それぞれ努力してきた。子ども同士のトラブルで保護者が溜まっていた感情を出す場面もあった。そういう保護者の気持ちを出せる関係づくりを構築していくために、今後も課題としたい。
- ・ お迎えに来た保護者には様子などを伝えてきたが、連絡帳での日々の様子はなかなか書けていない事もある。トラブルの際は電話で伝えている。また面談も家庭によるが年に 1、2 回行い、情報共有をしてきた。
- ・ 毎月のおたよりでは行事での準備からの様子などを行事の担当が原稿を書くなどしながらよりリアルな様子を伝えていくように努力した。
- ・ 写真の HP での更新が多摩市との関係で一時利用ができなかったが、年度の途中から使用できるようになったので、アルバムを活用し保護者が見られるようにした。またその前は玄関に写真を展示して見られるようにもしてきた。
- ・ 保護者会の資料は毎回見直しをして配布してきた。また保護者会用にスライドも用意し

て伝えるようにした。

- ・ 全国学童保育連絡協議会とは連携こそ取れなかったが、毎月発行されている小冊子を購入し、全国の情報収集をしてきた。
- ・ 感染症対策については保護者会の資料で施設の対応についてお知らせを行った。
- ・ 夕方玄関先や庭の投光器の電気を点けずで、暗い所を歩いていたり、待っている事があるので、点け忘れや消し忘れが無いように度々確認を行った。

<環境面>

- ・ 毎日消毒をしながら、整理整頓をしてきた。その中で遊具などの破損も確認しながら今後も取り組みたい。
- ・ 昨年度整理してから事務室を維持してきたが、片付けが行き届かないところも多々あるので、引き続き意識しながら職員で一致して取り組む必要がある。

<衛生面>

- ・ 子どもは登所時に検温を行ってきた。職員に関しては健康管理表を毎日つけて管理してきた。
- ・ 毎日の消毒は夕方降所指導後に職員で行ってきた。有期契約職員にも契約より15～30分程度長く勤務してもらい作業に入ってもらった事もあった。

<関係機関>

- ・ 学校とは7月末にそれぞれ担任と情報交換を行った。またそれ以外にもトラブルがあればその都度学校とも連絡を取り合い情報共有してきた。
- ・ 各関係機関とも連絡をとり職員間で共有を行った。
- ・ ネットワーク会議に関しては対面だったので、本年度は参加を見送った。青少協はオンラインでの開催もあったので参加をしたが、貝取小学童クラブと同じエリアなので、交互に参加を行ってきた。

<育成計画>

- ・ 計画は月案会議の時に振り返りと次月の計画を立ててきた。総括も行い、その後総括で話した内容を法人内の学童クラブの学習会として文章をまとめて冊子にした。
- ・ 避難訓練は子どもたちを含んで行うのと、職員間で確認をする形で行うのとしてきた。防犯訓練はその都度行い、子ども達が防犯の意識を持てるようにしてきた。
- ・ 子ども達が自主的に行えるように、計画には入れていない行事もいくつか開催した。また企画も子ども達が行い、色々な案が出た。その中でもダンスを発表したいと意見があり、今まで取り組んだ事はなかったが、ダンスをやっていた職員が振り付けなどを子どもたちと話し合いながら練習を行い、発表を2回ほど行った。

- ・ 学童クラブ間の交流はコロナの事もありなかなか行えなかったが、職員が施設を訪問して関わる機会が少しあった。また毎月の学童クラブ常勤会議を通して情報交換を行ってきた。
- ・ エリアの児童館とはエリア会で地域の気になる児童の情報交換を行ったり、行事の際の備品を児童館に借りたり、行事の際はエリアの館長に可能な限り参加をしてもらった。

<職場として>

- ・ 職員がそれぞれ自分で考え行動し、本年度は親子交流会で数年振りの星空映画会を開催した。職員がコロナ禍でも子ども達の夏の思い出にと考えて企画を行ったが、企画の時点ではいろいろと意見はあったが、結果的には大成功に終わった行事である。
- ・ 有給休暇はシフト作成の段階でお互いに確認をしながら調整を行ってきた。
- ・ ほとんどの職員が意思疎通をしながら育成に入っていたが、職員同士意思疎通ができていなく、度々別職員に相談している職員がいた。
- ・ 正職員の研修はコロナ禍というのもあり、あまり多くは参加できていなかった。また有期契約職員の研修参加は以前より消極的で、まずは法人の合研に参加していくように今後も促していく。
- ・ 仕事の分担は分掌を作り、その都度確認をし、どの業務も任せたままにしないようにお互いに声を掛け合うように努力してきた。
- ・ 新型コロナウイルスの件もあり、体調に少しでも異変のあった職員はなるべく休むようにしてきた。また健康診断も 6 名の職員が施設から受け、それ以外の職員は外部での検査結果の提出をしてもらった。
- ・ 就業規則については職員同士都度確認をしながら労働条件確保に努めた。

2021年度 貝取学童クラブ 参加研修

研修名	主催	内容	参加者	時期
アレルギー研修	東京都	食物アレルギーの基礎知識 と緊急時の対応	正職員	6月
中堅層研修	多摩福祉会	中堅職員育成研修	正職員	7月
学童クラブ 担当者 会議	法人内	・人権について ・防災について ・子どもの見立て	正職員	9月～ 2月
法人合同研究集会	多摩福祉会	法人内より各施設から事 例をもとに交流を行う	全職員	11月
全国福祉経営研究 交流会	社会福祉経営全 国会議	コロナ禍から見えて来た 公的保証の問題と課題	施設長	12月
人材育成定着経験 交流会	社会福祉経営全 国会議	人材育成定着経験交流会	施設長	1月
情報セキュリティ研修	多摩市	個人情報取り扱いに ついて	正職員	2月
たま研(法人内研修)	4学童クラブ 正職員	総括内容報告会	正職員	3月

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	<p>新年度が始まり、久々に大人数での育成となった。在籍児たちは3月までの静かな日々から一転し、騒がしい日々となりみんな落ち着かない様子が見られた。1年生たちは活発に様々な遊びに挑戦する姿が見られた。時には上手く遊べずに泣いてしまう子もいたが、職員が間に入り仲を取り持つことで、大きな問題もなくみんな楽しく過ごすことが出来ていた。</p> <p>気候もよくなったため、外遊びを楽しむ子が多くいた。ドッジボールでは上級生たちが率先して1年生にボールを回してあげる優しい姿も見られ、学年が変わったことによる成長を感じた。また歓迎会で行ったドロケイが流行し1～4年生みんなで毎日楽しんでいて、なかなか意見がまとまらず遊びが成立しないこともあったため、職員が遊びの導入部分の支援に入ることにした。今後はその役割を3年生が出来るようにサポートしていきたい。</p>	<p>14日(水) 新入生歓迎会 新入生の歓迎会を3年生主導で行った。おやつにチョコバナナを出したら好評だった。</p> <p>16日(金)、17日(土) 保護者懇談会 今年度も感染症拡大防止の観点から、降所班ごとに2回に分けて保護者懇談会を行った。</p> <p>21日(水) 誕生会 4月生まれの子の誕生会を行った。今年度初だったからか、出席がかなり多かった。</p>	4年生1名退所
5月	<p>前半は真夏のような暑い日が続いたが、後半は一転して雨ばかりの日々で、不安定な天候が続いた。そんな中でも子どもたちははっきりと手洗いうがいと消毒をし、体調管理に努めていたため、体調を崩して休む子は少なかった。</p> <p>晴れた日には外でドッジボールやドロケイを楽しむ子が多くいた。3年生が遊びを頑張ってまとめていたが、人数が多すぎる時はなかなか意見がまとまらず苦戦する姿も見られた。</p> <p>室内では新しく作ったコマを回して遊ぶ子が多くいた。色とりどりのコマが綺麗に回る様子をみんなで楽しんでいて、21日にカブトムシの幼虫の寄付があった。カブトムシを育てる飼育委員を募集したところ、多くの子から応募が寄せられた。5つの虫かごに幼虫を移し替え、グループごとに分かれて飼育していくことになった。成虫になるまで見守っていききたい。</p>	<p>17日(月)～ 工作週間『コマ作り』 梅雨の工作週間としてコマ作りを行った。まっさらな木独楽に子どもたちは各々好きな色や模様を描いて楽しんでいて、</p> <p>19日(水) 誕生会 5月生まれの子の誕生会を行った。今回はロールケーキの上にバナナを乗せてバナナオムレット風にしたところ、子どもたちからは好評だった。</p>	
6月	<p>暖かい日が多かったので外で遊ぶ子が多かった。主にドッジボールやドロケイに人が集まっていた。遊び始める前のチーム決めがなかなかうまくいかなかったり、チーム決めの段階で抜ける子や遊び終わる前に抜ける子が多かったりと、子ども同士でもめる事が何度かあった。みんなで楽しく遊ぶにはどうしたらいいか子どもたちと会議を行い、子どもの中で審判を決めて遊ぶと決まったがなかなか定着できなかった。今後も遊びを見守りつつ、子どもたち自身で遊び方について考えられるように支援していきたい。</p> <p>また、マスクをつけているためか1対1での遊びを行うことが1年生女子に多いことが分かった。気付いた時には職員が間に入り複数で遊べるように支援するようにした。</p>	<p>7日～ 月末まで 個人面談 1年生と4年生と2・3年生の希望者と個人面談を行った。 1年生とは入所してから学童クラブでの様子や友だち関係について伝え、家庭や学校での様子を聞きとるようにした。 4年生とは今後の卒クラブへ向けて学童クラブの利用の仕方について相談するようにした。 コロナ禍の影響が家庭環境に大きな変化がある家庭が多く、意義のある個人面談になった。</p> <p>23日 誕生会 6月生まれの子の誕生会を行った。4・5月を経験したためか誕生会を楽しみにしている子が多くいた。 気温の高い日が続いていたためおやつをアイスパフェにしたところ好評だった。</p>	
7月	<p>日差しが強く、光化学スモッグ等で外遊びが出来ない日や、制限を設けて遊ぶ日が続いた。束の間の曇りの日には学年関係なく沢山の子も活発にドロケイを行っている姿が見られた。</p> <p>育てていたカブトムシの幼虫が何匹か成虫になった。ゼリーをあげたり、触ってみたりと一生懸命カブトムシの世話をするグループもあったが、世話をせずにカブトムシを放置した結果、羽化しないグループもあった。どのように育てていいのか、来年度以降の課題となった。</p> <p>また、外に出られず室内で過ごす日には人狼ゲームが流行し、上の学年が率先して司会を行いゲーム運びをしている姿が見られた。</p> <p>子どもたちの中で「鼻くそ食べたことある？」と質問し特定の子を揶揄う姿が見られ、都度注意をしていたが、中々収まらなかつたため、度々全体に話をし、その後話を聞いてもらうには</p>	<p>14日(水) 誕生会 7月生まれの子のお誕生会を行った。 気温の高い日が続いていたため、果物の入ったゼリーを使ったフルーツポンチを出した。いつものパフェやケーキとは違ったため戸惑っている子もいたが、暑さもあり、サッパリしたフルーツポンチは概ね好評だった。</p> <p>21日(水) 星空映画会 例年行っている親子交流会の代替として、父母会との共催で星空映画会を行った。予定では、在籍児、在籍児の家族の参加で会を行う予定であったが、緊急事態宣言が出たため、在籍児のみの参加で行った。</p>	1年生1名入所 3年生1名退所
8月	<p>今年の夏もかなり暑く、熱中症情報で「危険」となる日がほとんどだった。午前中や夕方に指数計で庭の指数を測り大丈夫なようであれば、子どもたちは水分補給と休息を十分に取らながら日陰で虫取りやモルックを楽しんだ。室内では夏休み限定でプラ板作りを行った。子どもたちはとても楽しんでいて、一日かけて難しい絵に取り組みむ子も多かった。</p> <p>夏休みはお昼寝を行った。昨年同様寝付前にプロジェクターを使って天井に映像を投影した。</p> <p>夏入所が多かったため、先月に比べて子どもの人数がかなり増えた。感染症対策として換気を行いながらの育成となると、密空間のせいで部屋がなかなか冷えず室内でも汗ばむほどだった。食事をとる場所の確保も難しく、机を増やして対応した。</p>	<p>2日(月)～ 13日(金) 工作週間 夏休み工作としてタイダイ染めのトートバッグ作りを行った。みんな思い思いの色で自分だけのオリジナルトートバッグ作りを楽しんでいた。</p> <p>25日(水) 誕生会 8月生まれの子の誕生会を行った。</p> <p>※24日(火)25日(水)に行う予定だった映画会と昼食会は学校の夏休み延長に伴い、中止とした。</p>	1年生1名入所 夏一時利用 8名入所
9月	<p>気温が下がりが外で過ごしやすくなったため外に遊びに行く子が多かった。特に運動会シーズンに入ったこともあり子どもたちでチームを作りリレー戦を行っていることが多かった。その中で3年生が中心になりチーム分けや順番決めを行っている姿が見られた。勝ち負けにこだわらず和気あいあい楽しんでいて、登所自粛のため登所人数が減ったが、いつもと違う子どもたち同士の関わりが増え、子どもたちの関係が広がっていくように感じられた。</p> <p>3年生は10月に予定しているお店屋さんの準備を開始した。チーム内で意欲的に話し合う姿が見られ、本番への期待が見られた。</p>	<p>15日 避難訓練 地震発生対応型の訓練を行った。全体としてはスムーズな避難を行っていたが、特定の児童が過集中のため訓練開始の合図が聞こえないなど課題が見えた。</p> <p>登所自粛を受け22日(水)に予定していた誕生会は延期にした。10月の誕生会と同時に行うことにした。急な変更になったため、メール配信にて在籍児に周知した。</p>	1年生1名、2年生1名退所

10月	<p>外では学校の運動会があった影響からか、ダンスの練習をする姿や、男女学年問わず大人数でのリレーを楽しむ姿がよく見られた。運動会が終わった後も引き続きリレーは続けている子が多く、タイムを競って楽しんでいた。室内では2、3年生が27日に行ったお店屋さんの準備に専念しており、景品作りや装飾品、お店のルール作りを育成時間を利用して一生懸命頑張っていた。</p> <p>1年生の間で「遊びに入れてもらえなかった」「一緒に帰ろうと言っても帰ってもらえなかった」という話が相次いで起きたため、各グループで話をした。</p> <p>また冬時間降所が始まり、育成時間のタイムスケジュールが変わったが、子どもたちは特に戸惑うことなく過ごしている。ただ、授業時間が長いので、学童クラブで過ごす時間の短い3、4年生の退所が数件あった。</p>	<p>10月2日(土)～10/15(金) 面談週間 2、3年生を対象とした面談を行った。昨年に比べて学校での様子が落ち着いた子が多かった。家庭の環境が大きく変わり、保護者自体も戸惑っている家庭も複数見られた。3年生は来年度の申請を考えている家庭が多く、留守番や地域での過ごし方について話をした。</p> <p>10月20日(水) お留守番講座 各学年に分かれ、お留守番や放課後の過ごし方についての話をを行った。お留守番ノートも以前の物に比べ、お金の扱い方や遊べる地域について細かく考えられるように改良をした。3、4年生には卒クラブ後の生活を想像しやすいようディスカッションも交えつつ講座を行った。</p> <p>10月27日(水) お店屋さん 3年生が中心となりお店屋さんを行った。お化け屋敷、スーパーボールすくい、くじ引きと輪投げの店、射的の4店舗を出店し、人手の足りないところは2年生に手伝ってもらい運営を行った。出席も53名と多かったが大きな怪我等のトラブルはなく、無事に行うことが出来た。降所時には「楽しんでもらえて良かった」というお店側の声や「来年自分はこのお店をやってみよう」というお客さんの声などが聞かれ、みんなそれぞれ充実した時間を過ごしていた。</p> <p>10/28(木) 冬時間降所開始 各家庭に連絡帳にプリントを配布してアンケートを取り、どのグループも4:30に降所することとなった。</p>	1年生1名、3年生1名、4年生2名退所
11月	<p>天気が良く外で遊ぶ子が多かった。1、2年生で過ごす時間が多くあったが、2年生が中心になりまとめている姿が見られた。12月のお楽しみ会に向けてダンスの練習をすることで外に出ることが少なかった子もできるようになった。今まで手にしなかったホッピングや竹馬に挑戦し、少しずつ上達する楽しさを味わっている子もいた。</p> <p>先月から続いていた1年生同士の遊び方については、グループで話し合ったためか、みんなでまとまって遊ぶ姿が多くみられるようになり、子ども同士でのトラブルは減ってきた。</p> <p>夏に育てたカブトムシの亡骸を冷凍保存しておき、標本として形に残るようにした。子どもの「この子、標本として残せないかな」という言葉から発生した取り組みだった。カブトムシ飼育を始める際に子どもたちと決めた『命に対して責任を持つ』ということを全うする一つの形としてやり遂げることができた。完成した標本は玄関に飾った。</p>	<p>毎週水曜日 3年生会議 3年生遠足へむけての準備として3年生会議を行った。遠足先でどのように過ごすことが適切か、遠足当日のスケジュールはどうするか等を話し合った。</p> <p>3年生自ら考え発言している姿から、平日頃から子どもたち自身が考え行動していけるように支援してきたことが、より生きていることが実感できた。</p> <p>17日(水)・24日(水) お楽しみ会実行委員会議 12月15日(水)に行う予定である『お楽しみ会』の企画・運営として実行委員を2年生から募ったところ10名の参加があった。どのような企画を行うか話し合いをしたところ、『ダンス』『鬼ごっこ』に決まった。</p> <p>27日(土) 3年生遠足 コロナ対策の為に近場で行ける『よみうりランド』に行った。保護者の協力を得て現地集合解散とした。当日想定していた以上に混んでいたため、事前に3年生会議で決めていた通り行かない部分もあったが、その場その場で子どもたちと話し合い臨機応変に対応することができた。</p>	
12月	<p>寒い中でも子どもたちはよく外で遊んでいた。ドッジボールやドローケイ、砂場で山作りを楽しんでいた。</p> <p>15日に行ったお楽しみ会は、初めて2年生が中心となって計画した行事となった。1～3年生の有志でダンスを披露し、その後みんなで3種類の鬼ごっこを楽しんだ。子どもたちは満足した様子だった。</p> <p>今年度初めて行った昼食会では、3年生にメニューを決めてもらいカレーを食べた。出席人数も多く、みんなで美味しいカレーに舌鼓を打った。</p> <p>大掃除は今年もグループごとに分かれて行った。年々手際が良くなっており、今年は1時間経たずに全ての掃除を終えることが出来た。</p>	<p>お楽しみ会 15日(水) 2年生が中心となり、ダンス披露と鬼ごっこを行った。</p> <p>誕生会 22日(水)</p> <p>昼食会・映画会 24日(金) お昼にカレー、おやつにドーナツを食べ、みんなで映画を観て楽しんだ。</p> <p>大掃除 27日(月)</p>	2年生1名、3年生1名退所
1月	<p>冬休み中は登所的人数も少なく、子どもたちも落ち着いて過ごしていた。</p> <p>また、年末に新しく入ったおもちゃが使えるようになり、子どもたちなりに使い方を試している様子が見られた。中でも室内に入ったバスケットボールのおもちゃと新しい形のホッピングが人気で、数を競いながら遊んでいた。おやつでは正月にちなみお餅を出す機会が多くあった。中には初めて食べる子もおり、食べ方に困惑する姿も見られた。学校が始まってからも特に大きなトラブルはなかったが、ドッジボールに参加する1部3年生男子の言葉遣いが悪く、見かける度都度注意をした。</p>	<p>1月8日(土) 冬時間降所終了</p> <p>1月11日(火) 昼食会(味噌ラーメン・餃子)</p> <p>1月12日(水) 避難訓練</p> <p>1月26日(水) 誕生会</p>	4年生1名退所

2月	<p>新型コロナウイルスが蔓延し、毎日のようにPCR検査を受けた、陽性になった等の連絡が来ていた。また3年生のクラスでは数日間学級閉鎖があり、卒クラブ式の準備を進めることが出来なかった。</p> <p>外では大会のため、ドッジボールの練習に励む子がたくさんいた。普段はやらない女子たちもみんなで励まし合いながら練習に取り組んでいた。</p> <p>1年生たちの中では缶蹴りが流行したが、鬼決めて揉めることが多々あった。職員が都度間に入ってルールを制定した。</p>	<p>防犯教室 9日(水) 「知らない人に声を掛けられたらどうする？」というシチュエーションをロールプレイング形式で子どもたちと共に考えた。</p> <p>ドッジボール大会 9日(水) 自分たちでチームを組み、大会にエントリーするという形で行った。半分ほどの子が参加し、優勝チームには賞状を渡した。</p> <p>誕生日会 16日(水) 2月生まれの子を対象に誕生日会を行った。おやつはチョコバナナサンドを出した。とても好評だった。</p> <p>学年会議 16日(水) 学年ごとに分かれて今年度の振り返り、次年度の目標を決めた。</p>	4年生1名退所
3月	<p>新型コロナウイルスの陽性者も増え、長期で学童クラブを休む子が数名いた。今月は行事も多く予定されていたため、参加出来ず嘆く声が多く聞かれた。学童クラブでは引き続き、子どもたちに手洗いうがいの声掛け、玩具の消毒、黙食の声掛けを行ったが、施設内で感染拡大を食い止めることは難しいと感じた。</p> <p>運動会やドッジボール大会、ダンスの練習などで子どもたちは大忙しだった。みんな合間を見つけては準備を進め、充実した日々を送っていた。</p> <p>職員の家族にも陽性者や濃厚接触者が出たため、新入所説明会を急遽中止にした。説明会で話す予定だった内容は後日動画に纏め、保護者に周知した。</p>	<p>卒クラブ式 5日(土) 例年よりも規模を縮小して行ったが、今年度は保護者と共に行うことが出来た。子どもたちだけではあるが、父母会が用意してくれた昼食をみんなで食べ、互いに成長を認め合うことが出来る時間となった。</p> <p>誕生日会 16日(水)</p> <p>進級お祝い会 25日(金) 実行委員の子どもたちと準備を進め、運動会を行った。当日は晴天に恵まれ、子どもたちはチームの仲間と協力し、全力で楽しんでいた。</p> <p>ドッジボール大会 31日(木) 今回もチームエントリー制で行った。前回は上回る人数が参加し、大盛り上がりの最終日となった。</p>	

2021年度 永山学童クラブ事業報告

1. 児童状況

(1) 定員：70名

(2) 育成年齢：6歳～11歳（小学1年生～4年生）

および、特別支援学級、特別支援学校に通う児童は5、6年生まで対象

(3) 育成時間：学校下校時～19:00、学校休業時8:00～19:00

(4) 学年別状況：(2022年3月31日現在) 在籍数32名

※年度当初は40名在籍していた。途中入所者が1、2年生にそれぞれ2名ずついたが、永山小学童クラブの待機児童5名（要配慮児3名を含む）が永山小学童クラブの退所者がでたことに伴い移動したり、留守番ができるようになった等の理由で退所した児童がいたりした為に在籍数が減った。

1年生：10名 2年生：11名 3年生：6名 4年生：3名 5年生：2名

(5) 在籍児状況(2022年3月31日現在)

* 要配慮児：9名

* モア利用者：月利用申請者4名（うち要配慮児2名）

一時利用 月平均0～1名利用

2. 職員状況

(1) 正職員(2021年4月1日現在 3名)

職種	施設長	正職員
人数	1名	2名

※新規採用、途中入退職者なし

(2) ①有期契約職員(2021年4月1日現在 7名)

勤務時間	6時間×週5日	5時間×週5日	4時間×週5日	4時間×週4日	4時間×週2～3日及び土曜日
人数	1名	1名	2名	1名	2名

②有期契約職員状況

※退職者 2022年2月12日 5時間×週5日の職員1名

※中途採用者 2022年2月21日より1名（1日4時間シフトに定めた日に勤務）

※その他 2021年11月より6時間×週5日勤務の職員が家庭の事情で不定期勤務

(3) 職員研修・資格取得について

(別紙参加研修一覧参照)

- ・今年度も新型コロナウイルス感染予防のため研修はリモートによるものが多くあった。参加可能な研修は受講した。
- ・多摩市の学童担当者会議(学担)全6回の研修について2021年度は新型コロナの感染予防により市全体で一部を除いて実施されなかったため、法人内学童クラブの常勤職員の会議時に「防災について」を、残りは各施設で取り上げて研修をおこなった。施設内でおこなった際には常勤職員だけでなく参加可能な有期契約職員も受講した。
- ・東京都放課後児童支援員認定資格研修を有期契約職員1名が受講予定だったが家庭の事情により受講をキャンセルした。次年度にむけて条件の合う有期契約職員には受講の予定を伝え資格取得をしてもらうよう了解を得ている。
- ・施設長が保育士の資格を取得した。

3. 新型コロナウイルス感染症対策報告

① 施設の感染予防対策

- ・前年度から引き続き、職員、子ども、保護者などの来所者には入室時に手洗い、手指消毒、検温を徹底し、子ども達の触れた場所やおもちゃなどは毎日消毒した。
- ・おやつや弁当を食べる際にはひとつのテーブルに座る子どもの数を2人までとし、飲食時間の前後にはテーブルの消毒をおこなうことも習慣化してきた。
- ・子どもたちは飲食時には黙食ということが徹底されるようになってきた。
- ・多摩市から在籍児童や家族に発熱などいつもと体調が異なる様子が見られる時には利用を控えてもらうよう便りが出されていた。保護者にその点についてよく理解と協力を得られていたことも感染拡大を防ぐことにつながっていたと考えられる。
- ・職員については子どもたちと同様に飲食の際など各自が感染に気をつけて行動していた。また、職員本人や家族などに感染の可能性が考えられる場合などは法人や多摩市のガイドラインに従って自宅待機や検査などを行うようにしていた。
- ・行事の実施については自治体の緊急事態宣言や蔓延防止措置に従い延期や中止とするものもあったが、回数を分けたりスペースを取ったり工夫して感染を防ぎながら実施するように努めた。

② 施設におけるPCR検査受検などの状況

- ・職員の関係者が陽性になり職員を自宅待機としPCR検査を受検した事例があった。結果は陰性であった。多摩市児童青少年課と法人には理事長をはじめ経営会議のメンバーに報告し相談しながら対応した。
- ・子どもたちの感染が広がっているというニュースや実際に永山学童クラブの周辺

施設で感染による閉園や学級閉鎖の情報がある中、在籍児童の家族に感染の疑いで検査を受ける事例もあったがいずれも陰性との検査結果であったり在籍児童の感染の報告もなかったりと施設内で感染が広がるような状況はなかった。

4. 2021年度の課題についての取り組み

- ① グループ制による育成において子どもたちを居住する地域にこだわらずグループに分けてきめ細かい育成に努めたことについて
 - ・ 全体の人数が少ないことで遊びや行事の場面では子どもたちがグループに関係なく全体的に関われる環境にあったためか、グループを地域ごとに分けなくても子どもたちの関係に大きな問題は見られず、むしろ地域を超えて友だち関係を築くことができている。また学年や男女、要配慮児のバランスを考え、さらに子ども同士の関係性も考慮してグループのメンバーやグループ内の座席を考えたことでグループ内における勉強の時間や帰りの会などの活動では子どもたちが落ち着いて過ごすことができている。
 - ・ 職員の配置についても2名の常勤職員が2つのグループのそれぞれどちらかを担当することにしていたが、ひとりが不在の時はもう一人が両方のグループを同時に見たり話をしたりすることが多かった。また、有期契約職員についても勤務日の関係などからどちらかのグループに担当を固定しなかった。在籍数が少ないことに加え、これらのことにより全職員がグループを超えて子どもたちの様子を見ることができ子どもの状況を共有しやすかった。
 - ・ 課題としては、入退所児がいたり子どもの関係を配慮する必要があったりしたことやグループ編成を変えることがしばしばあったことやグループ独自の活動がグループ内の席や進行の順番決めの話し合い程度で終わったために子ども達があつた一つのグループとして何かまとまって活動することがなかった。
 - ② 日常生活や行事を通じて子ども達が主体性を持って行動できるように支援することについて
 - ・ コロナ禍であっても「3新型コロナウイルス感染症対策報告」に記したように工夫して行事などを実施し子ども達が活動できるように極力努めた。実施に当たっては、子ども達の意見を取り入れできる限り子ども達の力で準備や進行をできるようにした。また、それぞれの子どもの得意なことを活かせるように支援した。そうした活動の中で子ども達が同級生同士で教え合ったり上級生と下級生と一緒に関わる中で下級生が様々なことを学んだりする様子がみられ、活動をするごとに子ども達は子ども達自身の力で行事をやり遂げてみんなで達成感を得ている様子がみられた。
- 例として、夏のお楽しみ会について、子ども達から「おみせやさんをしたい」とい

う意見が出され、それぞれがやりたい店を担当して夏休み中だったので簡単な準備で夏祭りのように楽しむことをしてみた。その後10月に本格的な「おみせやさん」をする時には、夏の経験を活かして子ども達がより率先して話し合いや準備をおこない、スムーズに行事を進められ楽しむ様子がうかがえた。

- ・ これまで行事に参加できていなかった子どもについて何をしたいかをじっくり聞き参加できるように考えた。その結果、その子なりの参加の仕方では他児と行事を楽しむことができた。夏の「おみせやさん」の例ではどの店にも参加はしなかったが歌を歌いたいという希望があった子どもに最後の時間に歌を披露できる機会を設けた。その子どもは歌でこの行事に参加できただけでなく、次の秋の「おみせやさん」ではある店に当日加わり受付などの係をすることができていた。
- ・ 日常においても同様に子どもの得意なことを披露する機会を設けたことでその子の自信をさらに深め他児ともより良い関係を築けた事例もあった。
例えば、工作の得意な子どもに日ごろ自由に段ボール工作などをさせるだけでなく、その子どもに折り紙教室を開いてもらったり工作週間で作るものの提案してもらったりしていくうちにその子どもが下級生から工作の得意な「〇〇先生」と慕われるようになり卒クラブ後も子ども同士の良い関係が続くようになった。
- ・ 課題としては、行事の中には子どものやりたいことの実現にあたり子どもだけでは準備ができないことやコロナ禍で実施に工夫を要するものもありそれをどこまでおとなが関わっていくかということがあった。
例えば、先の「おみせやさん」において「お化け屋敷」をしたいという子どもの希望について職員間で密にならないようにつつ規模も子ども達ができる範囲でということを検討して実施することになったが、実際には、部屋のレイアウトやお化け屋敷内の通路などの準備にはおとながかなり関わらないとならなかった。
今後も子どもの主体的な活動をどの程度大人がサポートしていくかについてはその都度子どもと職員とで、また、職員間で充分話し合いながら実施方法を考えていくことが必要と考える。

③ 野菜作りや簡単な調理等「食」に関する活動を通じて卒クラブ後に自立した生活ができるようにすることについて

- ・ 野菜作りは例年通りテラスのプランターを使い子ども達が希望した野菜を育てることをしたが、天候が悪かったためか一部の野菜はあまり収穫できずに終わってしまった。
- ・ 本格的な調理はコロナ禍でできなかったが、感染に気を付けながら熱中症対策の一環として梅ジュースを作ってみたり、秋には屋外でさつま芋やおにぎり、マッシュマロを焼いておやつに食べたり少しでも食に関心を持てる活動をした。焼き芋のときには普段よりも子ども達はよく食べていた。

- ・ 3年生は、遠足の前に遠足の時に食べるおやつを決まった小遣いの範囲の中で考えて買うということをしてみた。また、遠足当日は、残った小遣いで行き先の「子どもの国」の園内でアトラクションを楽しんだりお土産を買ったりした。これらの活動は食だけでなく卒クラブ後のお金の使い方の理解にもつながるきっかけとなった。
- ④ 子ども達とともに適切なコミュニケーションが取れるように考えることについて
- ・ 以前より続けている「気持ちの伝え方講座」を2021年度も実施した。1回目は「スティグマ（誰かに悪いレッテルを貼り差別すること）について」の講座を、2回目は子ども達の様子から「怒った時みんなならどうする？」というアンガーマネジメントについての講座をそれぞれおこなった。
- スティグマについては、コロナ禍に入ってから毎年行っているため何度かこのテーマを聞いている子ども達からはしっかりと差別についての意見が出されていて繰り返すことによって子ども達が理解できていく様子がうかがえた。
- 「怒った時にどうするか」という講座では、実際に子ども達の中で起きたことを職員が演じたものをビデオで見せて、職員からこうの方がよいという話はあまりせず子ども達からどう感じたかやどう対処するかという意見を聞く形で行った。さらに講座の最後に子ども達ひとりひとりに自分が怒った時はどういう場面か、また、そういう時にはどう対処するかを考えてワークシートに書いてもらった。この講座後、特に感情のまま怒りを暴力的な行動で表してしまう子どもには講座の内容をその都度繰り返し振り返ることで少しずつではあるが感情を抑えて行動しようとする様子が見られた。自分のことを客観的にみて怒りの感情のコントロールをして行動できるきっかけを少しでも身に付けられるような講座となった。
- ・ 親子それぞれに受けてもらう予定だった、外部の団体によるCAP（Child Assault Prevention：子どもの権利を基盤にした暴力防止プログラム）は2021年度もコロナの感染状況と実施団体の都合などにより当初の予定を延期して準備していたが結局中止となってしまった。保護者には実施の方向で事前にこのプログラムとはどういうものかを保護者会で説明したり内容を印刷したものを配布していたりしていたので実施できなかったのは残念だった。
- ⑤ 全職員がグループを超え子ども達の様子を共有し共通認識をもって育成にあたることについて
- ・ 職員専用の引継ぎノートの活用が定着し常勤も有期契約職員も休んだ日の出来事や子どもの様子についてノートを読んで互いに情報を共有できるようになった。
 - ・ 月の最後の火曜日を全職員の会議日にし、その日はグループごとの課題や全体の問題を職員間で出し合い確認することと、要配慮児の目標設定やそのほか気にな

る子どもの様子の共有と支援の方法を検討することをしっかりおこなった。そのことで職員間の意見交換をしやすくし共通認識をもって全職員で育成に取り組むことができていった。

- ・ 課題として、毎日の育成に入る前の職員の打ち合わせの時間が日によって子どもの下校時間が早かったり有期契約職員の出勤開始時間が異なったりで一斉には取りづらいことがあった。そのため有期契約職員には個々に勤務開始の時間に常勤がその日の流れを簡単に伝えたり夕方の退勤時間までの短い時間にその日の振り返りをしたりするようにした。毎日の打ち合わせ時間の確保については今後も検討課題となっている。

⑥ 職員の資質向上のための研修計画と研修で得た内容の共有について

(職員の研修と資格取得参照)

- ・ 研修計画を各自立てることについてはまだ不十分であり、計画をしてもコロナ禍で思うように受講したり勉強したりできないことが多かった。次年度は、同様な状況であっても研修に参加したり自らの勉強を深めたりする個々の努力と全体として時間の調整などが必要だと思われる。また、学童クラブ支援員の資質向上研修を 2021 年度は誰も受けられなかったので次年度は受講するよう勤務等の調整をしたい。
- ・ 法人の保育園・学童クラブ職員合同研修において、保育園から学童クラブにつながる子どもの様子をテーマにこぐま保育園の職員と永山学童クラブの職員がともに実践報告をおこなった。これは、保育園と学童クラブ両方を運営する法人だからこそできる研修で互いを理解しながら保育・育成に関わる意味で大変良いものであった。今後も機会があればこのような研修が続けていかれるとよいのではないかと考える。
- ・ 常勤職員が市の研修として受講した「情報セキュリティー研修」をはじめ、常勤職員が学んできた「基礎学担(学童担当者会議)」の内容のうち育成の目標や育成において必要な「気づきの目」と職員の共通認識や余暇支援のポイントと、「学担」の研修内容から人権について特に子どもの権利についてや保健衛生として嘔吐時の対応方法などを取り上げ、常勤職員から有期契約職員に伝える研修を施設内でおこなった。このことは学童クラブの仕事の理解と子どもに対する姿勢や様々な状況における対応についてなどを全職員が共有する機会となった。

⑦ 保護者、学校、地域、専門機関と常に連携をはかり協力しながら子ども達を育ててくことについて

- ・ コロナ禍で地域の各機関の情報交換の会議が中止になったり開催回数も減ったりしたが出席できる時には学童クラブの様子を伝え、また、地域の情報を得て相互に

情報を共有するようにした。

- ・ 保護者から子育てと保護者自身の悩みを相談され、保護者の精神的な支えと卒クラブ後も子育ての支援が必要と思われたため子ども家庭センターにつないだ事例があった。
- ・ 育成において課題がある子どもについて島田療育センターの巡回相談を職員が受けその内容を保護者や学校と共有しその子どもの支援を関係者で協力して行うように努めた。
- ・ 例年実施している夏休みの小学校の各担任との子どもの様子についての情報交換だけでなく、日ごろから担任の先生とは子どもの様子や家庭の状況を共有する機会を多く持ち連携して子ども同士のトラブルなどに対処した。
- ・ 要配慮児で自立下校が難しいと判断される児童の学校から学童クラブへの移動支援について 学校と連携して見守りをおこなった。
- ・ 保護者が困っていることなどに耳を傾け必要に応じて保護者の同意を得て学校や関連機関にも一緒に相談をするなど保護者に寄り添い共に子どもを育てる関係を持つように努めた。

5. 子どもたちの様子

- ・ 2020 年度初めのコロナによる緊急事態宣言下とは異なり 2021 年度は新入所の子ども達をはじめすべての子ども達を普段通りに受け入れることができ、子ども達が落ち着いて学童クラブの生活や友だち関係の構築をスムーズにできていた。
- ・ 3, 4 年生たちは、コロナの感染状況により学童クラブに入所してからこれまで普段のグループ内の班活動や行事ができず集団でのリーダーとしての役割を学ぶ機会が少なかったため、行事や遊びの中で集団を引っ張っていくことが難しいのではないかと思われた。しかし、この1年間で行事などを通じて活躍の場を得ていったことでリーダーとしての自覚を少しずつ持ち行事の中心になって活動し、最終的には卒クラブ遠足や卒クラブのお祝い会でしっかりと自分たちで考え行動することができた。結果、特別支援学級の子どもと留守番のことを保護者が少し心配しているというひと家庭を除いてほとんどが卒クラブして地域で過ごすことができるようになった。
- ・ 特別支援学級の子ども達について 2020 年度永山小学童クラブの待機児童として永山学童クラブに入所していたが年度途中で永山小学童クラブの退所者が出たことにより移動した子どもたちがいたが、同じ子ども達が 2021 年度も同様に待機児童として永山学童クラブに在籍することになった。2021 年度当初の見通しでは 2020 年度のように年度途中で永山小学童クラブの退所者が多く出て移動することはないと推測されたが、予想に反して 2021 年度も途中から永山小学童クラブに移動することとなった。特別支援学級の子ども達にとって何度も学童クラブを変わ

ることは子どもや保護者には落ち着いた環境で過ごせなかったように思われた。また、これらの子ども達に対して同じ法人内の学童クラブ間での移動とはいえ、月ごとの育成目標を立て年間の育成を考えていたことが継続できなかった。2022年度は、多摩市が入所の審査を再考して特別支援学校や学級の子ども達が第一希望の施設に入所できるよう配慮されることになった。

- ・ 継続して永山学童クラブに在籍することを決めた特別支援学級の子どもについて、育成目標として職員との遊びを少しずつ広げ他児との関われるきっかけをつくるようにしたところ、遊びの幅も増え他児を交えて遊ぶことができるようになり家庭でも友だちの名前を覚えて保護者に話すまでになった。
- ・ 昨年度同様、卓球、サッカーや野球、ドロケイなどで子ども達が勝敗にこだわるあまりトラブルが多発した。職員が立ち会って子どもたち同士でどうしたら楽しく遊べるかを話し合い、ルールを決め、トラブルがあるたびに確認することで少しずつ上手に遊べるようになっていった。

6. 家庭との連絡について

- ・ 学童クラブだよりや保護者会でスライドを使って普段の子ども達の様子を保護者に見せ学童クラブの活動の理解を得ることは引き続きおこなったが、多摩市の方から個人情報の扱いについての見解が示されるまでホームページには写真を載せられない期間があった。許可されてからは随時載せるようにした。
- ・ 保護者同士が直接交流する行事については、新型コロナウイルスの感染リスクが高いということで2021年度も父母会の理解を得て中止することとなった。ただし、3年生の卒クラブと進級のお祝いは6組の親子が対象で人数も少ないこともあり対面で行った。
- ・ 保護者には個人面談や必要に応じてお迎えに来られた時や電話などでこどもの様子を伝えたり家庭の状況を聞いたりということはこまめに行い、保護者と一緒に子育てをしていくという関係作りを大切にした。特に子ども同士のトラブルが続いたときには子ども達の様子を伝えるだけでなく、保護者の困っていることにも耳を傾け保護者の了解のもと必要に応じて学校とも連携をとって問題を解決するようしてきた。
- ・ 保護者の会から進級のお祝いとして新しいコマ台とコマと剣玉をいただき子ども達が喜んで遊ぶことができた。

7. そのほかの関係機関、法人他施設との交流について

- ・ 本年度もコロナ禍で多摩永山中学校の職場体験や夏のボランティアの受け入れができなかった。
- ・ 法人内他施設の交流について、2021年度もコロナの感染状況によりこぐま保育園

との子ども同士の交流行事を中止としたことは大変残念であった。しかし、感染状況が少し落ち着いていた期間にほんの数時間であったが職員が法人内の他施設（保育園）に見学に行けたことは保育園の仕事の理解や学童クラブの育成を振り返るよい機会となった。次年度も他施設との交流はできる限りおこないたい。

8. その他 環境整備について

- ・ 子ども達が安心して安全に過ごせるようにおもちゃの破損などの点検や補修をこまめにおこなうようにした。
- ・ 毎週金曜日に子ども達が自ら行うロッカー掃除や年末の大掃除だけでなく、状況に応じて子ども達自身にも作成した工作物の片付けなどをしてもらうように促し職員だけでなく子ども達にも環境整備の意識をもってもらうようにした。
- ・ 2021 年度も隣接する永山第二公園は危険な個所が多く大きな怪我をする可能性が高いということで時間の余裕があるときには小学校の校庭や永山第五公園や永山南公園で遊ぶようにしたところ、事故報告書を書くような大きな怪我がほとんどなかった。
- ・ 市による施設の大規模改修や新設という予定が具体化されない中、施設内各所の必要なところは随時多摩市に相談して修繕をしてもらった。具体的には、台所の換気扇の取り換え、玄関に通じる階段の錆落としと塗装、女子トイレの水漏れや男子トイレの破損（掃除の方が破損）の補修などをおこなった。

2021年度 永山学童クラブ 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
1	職員	中堅層研修	多摩福祉会	ZOOM	7月3日	学童クラブの行事の取り組み	×	×	
2	職員	救命講習	多摩市	愛宕児童館	7月6日	救命救急・AEDの使用	×	×	
3	職員	全国学童保育研究集会	全国学童保育連絡協議会	ZOOM	10月24日	分科会のみ 学童保育の生活作りと食	×	○	
4	施設長	全国福祉経営研究交流会	全国福祉経営研究交流会	ZOOM	12月9,10日	憲法をよどころに誰一人をも取り残さない社会福祉制度を築こう 分科会：社会福祉事業入門講座	×	×	
5	全常勤職員	学童担当者会議	多摩市	ZOOM	12月16日	子ども家庭支援センターについて	×	×	
6	全常勤職員	情報セキュリティ研修	多摩市	ZOOM	2月16日	個人情報の取り扱い、PC等の設定	×	×	
7	施設長	療育的ケア児支援者育成研	東京都	ZOOM	2月27日	医療的ケア児の地域生活を支える支援学童クラブ	×	×	
8	常勤職員	たま研 (法人内学童クラブ常勤研修)	多摩福祉学童クラブ	ZOOM	3月15日	一年間の総括	×	×	
9	常勤職員	学童担当者会議	多摩福祉学童クラブ	ZOOM	11月24日	災害時の対応について	×	×	
集計				#REF!					

園全体の研修他								
NO.	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	対象者	備考
1	法人保育・学童合同研修	多摩福祉会	ZOOM	11月6日	分科会子ども連立体の保育・育成を 各施設の子どもの様子を取りあわせ分科会子ども連立の育ちを支える経験 分科会D乳幼児期から学童へつながる支援	/	全職員	
2	島田巡回相談	多摩市	永山学童クラブ	11月18日	要配慮児の育成について	/	全職員	
3	セキュリティについて	施設内研修	永山学童クラブ	2月16日	市の講座の資料をもとに個人情報の取り扱いなど確認	/	全職員	
4	子どもの人権について	施設内研修	永山学童クラブ	2月25日	子どもの権利条約をもとに日ごろの育成のポイント子どもの意見を尊重するなどを考える	/	全職員	
5	子どもの見立て	施設内研修	永山学童クラブ	3月10日	ABC分析について実際の子どもを取り上げて見立てと育成を考えた	/	全職員	
6	保険衛生	施設内研修	永山学童クラブ	3月10日	保健衛生 嘔吐時の対応	/	全職員	
集計						/	6	

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	<p>新入所児1年生9人、2年生1人、永山小学童クラブの待機児童2年生～6年生10名を迎え、40名でのスタートとなった。</p> <p>前年度から在籍している児童が新入所の子どもの面倒をよく見ていた。4月中頃からは新入所の子どもの生活に慣れた様子が見られた。</p> <p>遊びでは、外ではサッカーや鬼ごっこ、野球、テニスなどで遊んだり、テラスでトランプやウノなどのカードゲームをしたりする様子が見られた。子ども達の間では、卓球が流行り様々な子どもが参加していた。</p>	<p>8日 避難訓練(防災安全教室) 地震が起きた時にどのように身を守るか「ダンゴムシのポーズ」や避難経路や点呼の仕方などをスライドを使いながら学び、実際に身の守る姿勢をやってみた。昨年度も在籍していた子どもは復習、新入所の子どものことをしっかりと覚えてもらう内容だった。</p> <p>13日・23日 地区別保護者会 コロナウイルス感染予防対策で2日間に分け1回目の保護者会をおこなった。</p> <p>14日 新入生歓迎会 新入所歓迎会委員2年生から4年生の有志の子たちで新入生歓迎会委員会を立ち上げ企画をし進行などを務めた。また、プレゼントの缶バッジを作り新入所の子ども達に渡した。外でみんなでドロケイをする予定だったが雨天のために室内で爆弾ゲームやジャンケン列車をした。</p> <p>21日 誕生日会</p>	<p>・2021年度も昨年度に引き続き、コロナウイルスの感染に気を付けての育成をおこなった。消毒、検温、食事やおやつ時のバーテーション使用、黙食の徹底をした。</p> <p>・当月末退所 3年生 1名 永山小学童クラブ待機児童だったが永山小学童クラブに繰り上げ入所となった。</p>
5月	<p>晴れた日には前月と変わらず、永山小学校の校庭に行きそこのびのびとサッカーや鬼ごっこなどをしたり学校の遊具で遊んだりしていた。</p> <p>室内では相変わらず卓球が流行っていて勝負にこだわるあまり友だちに暴言を吐いたりラケットを投げたりする子どもがいたり喧嘩が起きたりした。その都度職員が子ども達とともにとずればよかったかを考えたり指導したりする場面が頻りにみられた。室内の遊びでは折り紙やティッシュペーパーを使って立体的な工作物を作るなど創造性豊かな様子も見られた。さらに卒クラブ生が考案した遊びをさらに工夫して進化させた遊びに変えて楽しむ様子もみられた。</p>	<p>12日 避難訓練・引き渡し訓練 多摩市内全学童クラブで実施 震度6弱の地震の発生を想定して避難する訓練と保護者に引き渡し訓練をおこなった。保護者の迎えまでの間は職員から地震に関する大型絵本を読み聞かせたりクイズをだしたり、東日本大震災の時の話などを聞いたりしながら過ごした。</p> <p>10日～14日 工作週間 キャンドルづくり 要配慮児も職員に手伝ってもらいながら作成した。</p> <p>17日～6月4日 面談週間 5月の入所児を除いた全員対象でおこない、学童クラブの様子を伝え学校や家庭での様子をうかがった。</p> <p>19日 防犯安全教室 不審者対応や鍵の持ち方などをクイズやロールプレイで子ども達に確認した。</p> <p>26日 誕生日会</p>	<p>新入所 1年生 1名 2年生 1名</p> <p>当月末退所 2年生 1名</p>
6月	<p>天候が不安定で雨天の時には室内で段ボールで作った剣や鉄砲で戦いごっこをしたり店を作ってカレー屋ごっこをしたりしていた。晴天時はテラスでホッピングや竹馬をしたり永山小学校の校庭で野球やサッカーを楽しんでいた。相変わらず卓球ではトランプが多かったので職員が間に入って子ども達が話し合いルールや試合のやり方を変えた。</p> <p>子ども達の意見で野菜を選び「げんき農園」と名付けたテラスのプランターを使った菜園に野菜の苗を植え付けた。きゅうりが早くにでき、早速塩布であえておやつの時に食べた。梅ジュース作りにも挑戦した。できた梅ジュースは熱中症対策として飲むことにした。</p>	<p>9日 避難訓練 地震と火災 訓練前にこれまで欠席などで防犯・防災安全講座を受けていない子ども達に内容を伝えた訓練をおこなった。夕方実際に地震が起きた際に子ども達は訓練通りの行動がとれていた。</p> <p>16日 歯科指導 歯科衛生士に来ていただき1、2年生はマスク着用で口が開け放しになることにより細菌が増加することから口の漱ぎ方を学び、3年生以上は食べ物の中の糖分の量を学んだ。実際の歯磨き指導は感染予防のためしなかった。</p> <p>23日 気持ちの伝え方講座 スティグマについて 人を差別することを身近な例を挙げて子ども達と一緒に考え、みな違ってよいこと、助け合うことを学んだ。</p> <p>30日 誕生日会</p>	<p>12日に父母会と共催で地区ごとの保護者の交流を目的に2回にわたってウォークラリーを行う予定だったが「親子交流会」はコロナの感染状況により中止とした。</p> <p>当月末退所 5年生 1名 6年生 1名 永山小学童クラブ待機児童 永山小学童に移動</p>
7月	<p>気温が高く熱中症の危険があったり雨天の日が多く室内で過ごすことが多かった。段ボール工作ビーズアクセサリー作りをしたり卓球やボードゲームなどをするだけでなく、学年や男女を超えて「駄菓子屋ごっこ」や「お化け屋敷ごっこ」をする様子が見られた。</p> <p>テラスでの野菜作りは天候が悪く出来はそれ程できなかったがミニトマトやキュウリピーマンなど収穫できたものは少しずつみんなで食べた。梅ジュースを炭酸などで割っておやつなどで飲んでみた。</p>	<p>14日 誕生日会</p> <p>20日 避難訓練 不審者対応 学童クラブの玄関から不審者が侵入したと想定して職員の声掛けと共に児童館の方向に逃げる訓練をおこなった。</p> <p>26日 昼食会 父母会共催 手作りを想定していたがコロナウイルスの感染予防のためにレトルトの丼ものに変更した。</p> <p>27日 映画会 子どもに事前にアンケートをとった映画を感染に注意しながらみんなでみた。</p>	<p>GAPについて 外部団体により子ども達をあらゆる暴力から身を守るプログラムを実施する予定だったがコロナウイルスの感染状況により9月以降に延期した。 保護者には事前に内容を周知していた。</p> <p>当月末退所 1年生 1名</p>
8月	<p>8月一時入所の子ども他達が加わり新しい交友関係が構築されたり遊びが広がったりしている様子が見られた。</p> <p>猛暑日が続き、日中は、室内で卓球やボードゲーム、サッカー盤などで遊ぶことやカブラや段ボール、ビーズで工作物を作ることが多かった。おやつ後の気温が下がったところで永山第二公園で虫捕りをしたり、永山小学校の校庭で遊具で遊んだりサッカーをしたりして元気いっぱい遊ぶ様子が見られた。</p>	<p>24日・25日 夏のお楽しみ会 子ども達から「おみせやさんがしたい」という意見が多かったので、やりたい店を聞き夏休みなので簡単に準備が出来るようにしておこなった。コロナウイルスの感染拡大防止の観点から当初一日で実施する予定を変更し、二日に分けて実施した。最後に4年生が歌を歌いたいとのことだったので感染対策と他児との間隔を充分に開けて歌を披露し3年生がそれに合わせてダンスをした。</p> <p>30日 誕生日会</p>	<p>昼食会を小学校の夏休みが延長されたため一度延期したがコロナ感染拡大の状況により中止した。</p> <p>夏休み一時入所 4年生 8名 5年生 2名</p> <p>当月末退所 3年生 1名 (永山小学童クラブの待機児童) その他3、4年生 各1名</p>

9月	<p>9月になって気温が下がり外遊びの出来る日が増え、永山第五公園や永山小学校の校庭で遊ぶことが増えた。サッカーや野球に加えて鬼ごっこやドロケイを男女学年関係なく大人数でしていた。ドロケイでは子ども同士で捕まったり捕まっていないかや挟み撃ちしたくないなどの揉め事が多く、子ども同士で話し合いをしてルール作りをした結果、その後はトラブルが減って遊ぶことができた。</p> <p>室内ではブロックやLAQなどで作ったものでごっこ遊びをしたり工作の得意な上級生が下級生に教えながら遊んだりする様子が見られた。</p>	<p>22日 誕生日会</p> <p>29日 防災訓練 緊急事態宣言が出されたため当初1日の実施予定を延期し児童館と合同で行わず、学童クラブのみでおこなった。 子ども19名 職員9名参加</p>	<p>緊急事態宣言が発令され市から学童クラブの利用の自粛をお願いしたため予定していたお留守番講座を10月に延期した。CAPも中止した。</p> <p>新入所 1年生 1名 当月未退所 5年生 1名 永山小学学童クラブ待機児童</p>
10月	<p>学年隔てなく遊ぶ様子が見られるようになったが、冬時間降所が始まり3年生以上が火曜日と木曜日に遅い時間に下校するのを受けて、少しでも外遊びの時間を確保するためにおやつ時間を遅く設定した。また、すぐに外遊びが出来るように隣接する第二公園で遊ぶことにしたが怪我防止のため走り回る遊びは控えるようにした。</p> <p>11月に実施するおみせやさんの店を子ども達が決め準備に取り掛かる様子が見られた。</p> <p>学校や登所途中での子ども同士のトラブルを引きずって来る子どもが多く、気持ちを聞いたり話し合いの場を設けて解決したりすることがあった。学校とも情報を共有して対応した。</p>	<p>6日 お留守番講座・避難訓練(災害時・不審者対応についての確認) 事前に家庭でお留守番ノートを記入してきてもらったことをもとに留守番の仕方、鍵の持ち方、遊びの約束などを振り返って確認をした。内容は1、2年生と3年生以上と分けて学年に合わせて内容とした。</p> <p>13日 気持ちの伝え方講座 怒った時にどうするかというアンガーマネジメントについての講座をおこなった。日ごろの子ども達の様子をロールプレイで見せ怒った時にどうしたらよいかを子ども達に考えてもらうようにした。また、それぞれの子どもに自分が怒った時にどうするかをワークシートに書いてもらった。</p> <p>22日 3年生保護者交流会 事前に留守番などの質問を確認してから対面で行ったが6世帯中2世帯のみの参加だった。遠足や卒クラブ式のことを確認し参加しなかった家庭には報告書を渡し意見を確認した。</p> <p>27日 誕生日会</p>	
11月	<p>これまでの玩具に加えて新しく購入したカードゲームをしたり上級生から教えてもらいながら工作をしたり、子ども達が各々やりたい遊びを学年や男女関係なく楽しむ様子が見られたり、おみせやさんの準備を3年生が中心になって積極的に取り組んでいたりする様子が見られた。</p> <p>外遊びは10月に引き続き、第二公園で遊ぶことが多かったが怪我の予防のために走る遊びは避け、サッカーもバスをしあう形でしたり、ハンモックやフリスビーなどを楽しんだりした。そのためか大きな怪我は昨年度までに比べてかなり減った。時間のある時には永山小学校の校庭などで思い切り体を動かして鬼ごっこやサッカーをするようにした。</p> <p>おみせやさん後は12月のお楽しみ会の準備に取り掛かっていた。</p>	<p>10日 焼き芋パーティー 児童館前で職員が焼き芋やおにぎりを焼き、子ども達は熾火でマシュマロを炙っておやつに食べた。いつもと異なるおやつだったからか子ども達はよく食べた。</p> <p>12日 避難訓練(不審者) 紙芝居を使ってどんなところに危険があるかを子ども達と確認しながら不審者があった時の対応を学んだ。</p> <p>17日 おみせやさん サッカーバトル、ヨーヨーとスーパーボールすくい、お化け屋敷、折り紙とアクセサリー屋、駄菓子屋、ピアノ演奏の6つの店を子どもたちがそれぞれ考えて準備しておこなった。ピアノ演奏はおやつの際に演奏を披露してもらいおやつを食べながら聞く形にした。お化け屋敷は3年生が頑張っていたが職員が準備にかなり関わることが必要な部分があった。</p> <p>24日 誕生日会</p>	
12月	<p>室内の工作に編み物が加わり夢中になって編んでいる子ども達が見られた。また、以前にもまして学年や男女の関係なく遊ぶ様子がみられ要配慮児が鬼ごっこに加わって他児と一緒に遊ぶ様子が見られた。</p> <p>お楽しみ会の準備を子ども達が主体的に取り組んでいた。おみせやさんや同様に子ども達が学年や男女関係なく劇やクイズ、手品などを準備したり宝探しゲームを企画したりして当日楽しい時間を過ごした。</p> <p>3年生はお楽しみ会と並行して「子どもの国」への卒クラブ遠足の準備をすすめ、おやつのお買い物したりグループごとに行動計画を立てたりした。遠足当日は晴天に恵まれ事故もなく楽しむことができていた。</p>	<p>6日～10日 工作週間 工作の得意な子どもに提案してもらって紙コップで門松を作成することにしたが、工程の難しいところがあり希望者のみ職員やその子どもに教わりながら作成した。欠席も多くコツがいる工作で全員作成はできずだった。</p> <p>8日 3年生遠足のおやつのお買い物</p> <p>11日 3年生卒クラブ遠足「子どもの国」</p> <p>15日 避難訓練 火災 煙を吸わないように避難する訓練をおこなった。</p> <p>21日 誕生日会</p> <p>22日 お楽しみ会 子ども達それぞれが考えた出し物を披露したり宝探しをしてサンタからプレゼントをもらったりして楽しい時間を過ごした。</p> <p>27日 大掃除・映画会 子ども達と職員で新年を迎える準備として大掃除をおこない、その後映画会をおこなった。</p>	<p>当月未退所 2年生 1名</p>
1月	<p>12月のお楽しみ会にサンタからのプレゼントとしてもらった卓球のラケットやすみっぐらしの家やプラレール、レゴ、ボードゲームで遊んでいた。ルールの方分からないものは職員に聞き、覚えて子どもが他の子どもに教えている様子が見られた。</p> <p>剣玉やコマ検定の表を新しくしたところ検定に挑戦する子どもが多くなった。</p> <p>雪の降った際は永山小学校の校庭に行き雪遊びを楽しんだ。</p>	<p>14日 避難訓練 地震 降所途中で地震が発生したことを想定して子ども達には事前に伝えずに帰宅班ごとにおこなった。子ども達はランドセルで頭部をまもったり危険なところを確認したりして安全なところに避難出来ていた。</p> <p>17・18日 3～5年生児童館見学 卒クラブに向けて児童館で過ごして利用の方法になれることをした。最初行き渋っていた子どもも楽しかった様子で後日友だちを誘って児童館で遊んでいた。</p> <p>26日誕生日会</p>	<p>1月下旬に新型コロナウイルスの感染が拡大したため接触を控える必要があり永山小学校の校庭(1)のをしばらく見合わせた。</p> <p>当月未退所 4年生 1名</p>

2月	<p>寒い日が多かったが子ども達は外で鬼ごっこやテニス、野球、サッカーをしていた。室内ではレゴ、編み物、ボードゲームに加えてコマや剣玉をする子ども達が見られた。また、「人狼」というカードゲームが人気で1年生も加わって遊んでいた。席替えによりあまり接していなかった子ども同士が会話する機会が増えた。また、ピアノの得意な子が友だちに教えたり要配慮の子どもと他児などがキャッチボールを一緒にしたり子どもの関係が広がっている様子が見られた。</p> <p>進級お祝い会にむけてそれぞれの子どもが来年度の目標を決めたり今年度出来るようになったことを披露する練習をしたりした。3年生は進級と卒クラブのお祝い会にむけて賞状の受け取り方やハンドベルの練習をしていた。</p>	<p>14日 避難訓練 地震 室内と公園で遊んでいる際に地震が起きたことを想定して訓練をおこなった。 廊下にいる子どもが台所に逃げ込んでしまったり外にいた子の一部が指示に従えなかったりして注意した。</p>	<p>新型コロナウイルス蔓延防止措置がだされたため 8日に予定していた1・2年生のプチ遠足を中止 19日に予定していた3年生の進級お祝い会を3月12日に延期した。</p> <p>当月末退所 2年生 1名</p>
3月	<p>父母会から進級のお祝いの記念品として学童クラブにいただいたコマ台とコマと剣玉で遊ぶ様子が見られた。</p> <p>2月から引き続き卒クラブや進級に向けてそれぞれの学年で準備をしていた。殊に3年生は全員揃ってのハンドベルの演奏の練習がほとんどできなかったが本番では練習の成果がみられた。</p> <p>3年生を除く学年の進級のお祝い会ではそれぞれの子どもが次年度の目標とこれまでできたことを披露した。中には緊張のあまり前に立つことができなかつたり上手く発表出来なかつたりした子どもがいたが子ども達同士で励まし合って発表している姿が見られた。</p>	<p>7日 避難訓練（地震） 実際に鳴る警報音を使って訓練をした。子ども達は事前に知らせていなかったが職員の指示に従い避難出来ていた。</p> <p>9日 3年生以外の進級お祝い会</p> <p>12日 3年生の進級・卒クラブお祝い会 6人の3年生の保護者と職員でお祝い会をおこなった。</p> <p>16日 誕生日会</p> <p>23日 交通安全教室 交通公園の方に来ていただき自転車の乗り方などを教えていただいた。</p> <p>24日 父母会主催の昼食会 事前にアンケートをとったメニューの弁当を外注して食べた。</p>	<p>施設の周囲の施設で感染情報が増えていたためなるべく接触を防ぐために永山小学校の校庭の利用は控えるようにした。</p>

2021年度 貝取小学童クラブ事業報告

1. 児童状況

- (1) 定員：80名
- (2) 育成年齢：6歳～11歳（小学1年生～4年生）
 〈8月一時入所は6年生まで可〉
 また特別支援学校、特別支援学級に通う児童は6年生まで通年入所可
- (3) 育成時間：学校下校時～19:00、学校休業時 8:00～19:00
- (4) 学年別状況（2021年4月1日在籍児数）※途中入所4名、途中退所14名、夏入所1名

学年	人数
1年生	24名
2年生	24名
3年生	17名
4年生	4名
5年生	1名
計	70名

- (5) 在籍児童状況
- * 要配慮児：26名
 - * アレルギー児：2名
 - * モアサービス利用者：5名(途中3名増)

2. 職員状況

- (1) 正職員（2021年4月1日現在）

職種	施設長	支援員
人数	1名	4名

- (2) 正職員状況
- * 新規採用者 なし
 - * 異動者 なし

- (3) 有期契約職員（11名）

契約 時間	6H× 週5日	5.5H× 週5日	5H× 週4日	4.5H× 週5日	4.5H× 週4日	4H× 週4日	5H× 週3日	4H× 週4日	4H×週 3日	6H× 週2日
人数	1名	1名	1名	1名	1名	1名	2名	1名	1名	1名

(4) 職員研修：別紙参照

新型コロナウイルス感染症の流行により、研修の多くが中止、あるいはリモート開催となり参加率が低かった。

3. 新型コロナウイルス感染症対策報告

- ・ 小学校の学年閉鎖があったが該当クラスの児童の受け入れはなかった。
- ・ 児童の感染者は計6名、職員の感染者は1名だった。

4. 2021年度に取り組んだこと

(1) グループ活動について

地域別にグループを構成したが、特別支援学級の児童は地域外から通ってくるケースもあるため、所属をどのグループにするか検討が必要だった。子ども同士の相性を主体にグループを作れば大人が管理しやすいグループ構成になるが、管理するのではなく子どもたちが個性を発揮し生き生きと自分を表現できるグループ作りをめざした。そのために職員は何をすべきか、子どもたちとどのように関わっていくか、職員自身が自分と向き合い、グループの子どもたちともしっかり向き合うことができた1年だったといえる。

特別支援学級の児童が多いグループや学年に偏りがあるグループなどができたが、それぞれグループの個性とし、大人が意図的に子どもたちを組み合わせるということを極力しないように心掛けた。皆一斉に同じ事をするのではなく一人ひとりのペースも大事にする、ということをお互いに理解しあえるグループ作りができた。

今年度のスタート時には有期契約職員をそれぞれ担当グループで固定することを試みた。職員が安定的に配置できていればよかったのだが、後半は配慮児の人数に対し、職員数が足りない状況となったため、日によって配慮児担当を見直して変えていかざるを得なかった。有期契約職員もグループの固定メンバーとすることにより、力を発揮し正職員を補うことができるようになるので活気が出て来ると思う。今年度は実現できなかったが次年度への課題とし、実現したい。

(2) 月1回の全員会議について

月1回有期契約職員を含む全員で月案会議を行った。主に児童の情報の共有を行ったが、配慮児の対応で悩む声が多く聞かれた。子どもたちが一人ひとり違うように職員もみな考え方や働き方が違うので大人も子どもも同じにすることばかりを求めすぎないように留意した。意見交換をしながらお互いに子どもへの対応を学びあう時間となった。

(3) 子どもたちの健康管理について

子どもたちは自分自身でマスクを着用し、外遊びの時は外すなど自分で管理していたが、マスクのかけ方がうまくできない子もいた。鼻や口が出てしまっていたりマスクをなめて濡らしてしまったりするので替えのマスクを持っていない子には学童クラブで用意した子ども用マスクを渡すことも多かった。

おやつの中にはおしゃべりをしないよう注意したが、中には守れない子もいて感染のリスクを考え、職員がしばしば口うるさく注意することとなってしまった。本来楽しいはずのおやつにこれでよいのかと常に葛藤していた1年だった。

(4) 行事について

コロナ禍での開所であり、そして2年目も感染症対策が必要だったため、簡易的に行事を行うことが多く、綿密に計画を立てて遂行するという事ができていないこともあった。失敗するたびに事前準備やしっかりした計画を立てることの大切さを確認し合ってきた。行事の組み立てもよく考えられ、何より子どもたちを中心に進められた行事が多かったので、皆で意欲的に取り組み充実して過ごすことができたようだ。

(5) 室内整備

各グループで徐々に個性が出てきて、机の並べ方を変えたり、ロッカーの位置を変えたりそれぞれ過ごしやすい空間を作るようよく努力していた。

子どもたちが目で見て分かるように日直の順番を掲示したり、自分のグループの子たちの顔が分かるように一人ひとりの写真を掲示して子どもたちがスムーズに過ごせるようにしていたグループもあった。職員は自分のグループを運営していくという意識がなかなか持てない時期もあったが、グループ制の意義を皆で確認しあうことで少しずつ担当グループを大事にする気持ちが芽生えてきたようだ。

(6) 職員のスキルアップ

1年間を通して、職員が自主的に行動し、一人ひとりが確実に力を付けてきた。職員間の話合いも多く、時間がない中でもよくがんばってきたと思う。

特に企画力ではどの職員もよい力を発揮し、「例年通り」ではなく、より子どもたちが楽しめるものを作っていきたいという意欲が感じられた。

一つ一つの事柄に丁寧に取り組む姿勢がよくみられた。

(7) アレルギー児の対応について

アレルギー児については保護者と面談をし、初めて出す食品に関しては必ず保護者に確認して提供してきた。出来る限り他児と同じおやつが食べられるよう、アレルギー食品を含まないおやつに統一した。職員もよく努力をし、アレルギー対応の物に限られている中でも子どもたちが満足できる物を探し、飽きないよう配慮してきた。

その成果があり、アレルギー対応の食品でも皆が満足できる楽しいおやつにすることができた。アレルギーの会議を5回ほど行った。それ以外に日々保護者と連絡を取り合った結果を職員間で共有した。

アレルギー対応マニュアルも年度末にはなってしまったが完成することができた。まだまだ見直しが必要な部分もあると思うがひとまず形ができたのは一つの成果だった。

5. 地域・学校・専門機関との連携について

小学校とは事柄に応じて校長、副校長、各担任、養護教諭と連絡を取り合った。学校からもよく連絡を受け問題には速やかに対応することができた。

青少協会議はリモート会議で行われた。1年を通じて直接メンバーと顔を合わすことはなかった。受託してから2年の間に実際に対面で会議が行われたのは3回ほどだったため、学童クラブを運営していく上では欠かすことができない地域との繋がりを密にすることができなかったことは残念だった。

子ども家庭支援センター、発達支援室とは必要に応じて連絡を取り合った。学校との連携を含め家庭と関係機関を繋ぐ役割も担ってきた。

6. 保護者との関係について

コロナ禍で職員と保護者が顔を合わせる機会が少ないため、職員の顔と名前を玄関に掲示し、迎えに来る保護者や家族にもどんな職員がいるかわかるようにした。

保護者とは連絡を密にし、行き違いがないよう努めてきた。小さなやり取りを大切にし、気になることがあった際にはすぐに連絡をしてきた。できるだけグループの担当者が連絡を取るようにしたが、ケースによってはその事案に詳しい他の職員が連絡するなど柔軟に対応してきた。できるだけ保護者の要望には応えてきたが、常に子どもたちにとってどうかという事を基本に対応するよう心がけた。開所から2年経ち、保護者との関係も良好に保つことができてきた。

新型コロナウイルス感染症対策が続いたため、保護者と対面であうことはお迎えの際と、面談時のみとなった。全員が一堂に会する場を作ることができなかったのは残念だった。今年度も父母会の立ち上げは叶わなかった。

2021年度 貝取小学童クラブ 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアバス該当	自主研修対象	備考
1	正職員	日本学童保育学会 第11回研究大会	日本学童保育学会	オンライン	6月	学童保育についての研究発表	×	○	
2	正職員	指導員学校	全国学童保育連絡協議会	オンライン	6月	子どもの権利について学	×	○	
3	正職員	アレルギー研修	東京都	オンライン	6月	食物アレルギーの基礎知識と緊急時の対応	×	×	
4	正職員	中堅層研修	多摩福祉会	オンライン	7月	中堅職員育成研修	×	×	
5	施設長が推薦する 正職員	学童クラブ担当者 中級研修	多摩市	オンライン	7月	中堅職員育成研修	×	×	
6	正職員	学童クラブ 担当者会議	多摩市	貝取小学童 クラブ	9月～2月	・人権・防災 ・子どもの見立て	×	×	
7	正職員	たま研（法人内研修）	4学童クラブ 正職員	各学童クラブ	学期に1回	事例・法令についての学習	×	×	
8	施設長	全国福祉経営 研究交流会	社会福祉経営 全国会議	神戸	12月	コロナ禍から見えてきた 公的保障の問題と課題	×	×	
9	正職員	心理講演会	島田療育センター	オンライン	2月	読み書きにつまずきがある子ども たちに家庭や学校でできること	×	×	
10	正職員	情報セキュリティ研修	多摩市	オンライン	2月	個人情報の取扱い・ インターネットの危険等	×	×	
11	正職員	医療的ケア児の受入れ	東京都 家庭支援課	オンライン	2月	医療的ケア児の受入れの心構え として	×	×	
12	正職員	保護者・関係者向け 研修	島田療育センター	オンライン	2月	小児期発症神経難病における生 活支援の現状と課題	×	×	
13	正職員	全国学童保育研究会	建交労全国学童保育部会	オンライン	2月	学童保育所における 基準について	×	×	
14	正職員	三多摩フォーラム	三多摩学童保育 連絡協議会	オンライン	2月	学童保育についての全体会およ び分科会形式の合研	×	×	

有期職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアバス該当	自主研修対象	備考
1	有期契約職員	アレルギー管理者向け研修	東京都福祉財団	オンライン	12月	アレルギー児の対応について	/	×	

学童クラブ全体の研修他									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアバス該当	対象者	備考
1	/	全国学童保育 合同研究集会	全国学童保育 連絡協議会	オンライン	10月	学童保育についての全体会およ び分科会形式の合研	/	全職員	
2	/	法人合同研究集会	多摩福祉会	オンライン	11月	法人内すべての施設の合同 研究集会	/	全職員	

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	<p>1年生24名、2年生24名、3年生17名、4年生4名、5年生1名の70名でスタートした。出席率が平均60名越えと高めた。</p> <p>1年生に上級生の子たちが生活の流れなどを進んで教えてあげていた。また、遊びの場でも上級生が積極的に「遊ぼうよ」と声をかけていた。1年生は学童クラブに慣れるのが早く、笑顔で遊んでいる姿がたくさん見られた。</p> <p>外遊びではサッカー、鬼ごっこ、ドッチボールが流行り、男女学年関係なくよく遊んでいた。</p> <p>新型コロナウイルス感染対策として、春休み中の勉強時間やお弁当の時間にはできるだけ間隔をあけて座らせ、手洗い、消毒の徹底、マスク着用の声掛けを行った。しかし4月の後半は初夏のような暑さになり、外遊びの際は熱中症防止のためマスクを外すように子どもたちに促した。</p>	<p>5日(金) 避難訓練</p> <p>14日(水) 新入生歓迎会</p> <p>21日(水) 誕生日会</p>	
5月	<p>別々の保育園や幼稚園から来た子どもたち同士でも一緒に鬼ごっこやブロック遊びをしていたこともあり、1年生同士の関係が深まったようだった。</p> <p>上級生たちは宿題の量も増え、おやつの間際まで宿題をしている子が多かった。職員に「おやつを食べ終わったらすぐに宿題をしてもいいかい」といった交渉をする等、子どもたちなりに工夫しながら、宿題を頑張っていた。</p> <p>グラウンドでは男の子を中心に流行していた生き残りドッチボールに女の子たちも参加することが増え、男女学年関係なく一緒に遊んでいた。1年生がドッチボールに参加した際に思う通りに投げられず、遊びが成立しなくても、上級生が怒るのではなく投げ方を教えたり、頑張ってるなどの声をかけたりと温かい雰囲気の中で楽しそうに遊ぶ姿があった。</p>	<p>・12日(水) 避難訓練(引き渡し訓練)</p> <p>・19日(水) 誕生会</p> <p>・10日～14日 マスクカバー工作</p>	
6月	<p>6月になって気温も上がる日が続き、こまめに水分補給するよう声をかけた。</p> <p>外遊びでは、サッカー、生きのりドッジ、鬼ごっこなどをすることが多かった。また虫捕りや、草花、小枝などを用いてごっこ遊びを楽しむ姿もみられた。</p> <p>室内のおもちゃの見直しをした。新しいものを購入したところ、子どもたちが分散して遊ぶことができるようになった。</p> <p>宿題は広げるものの、周りが騒がしくて集中できなかったり、学習の理解ができていなかったりする子には、大人が1対1について声かけ、見守りをしていたが、昨年からのコロナの影響によるものか、計算などでつまづいている子が多くみられた。家庭からも学童クラブで宿題の声かけをしてほしいという要望があった。</p>	<p>・3日(木) 野菜の苗植え</p> <p>・9日(水) 防犯教室</p> <p>・15日(水)～30日(水) 個人面談</p> <p>・16日(水) お誕生会</p> <p>・23日(水) 歯科指導</p>	1名退所
7月	<p>熱中症指数が嚴重警戒だった時には日陰のみで外遊びをした。おにごっこなど走る遊びは禁止にし、虫捕りやボール遊びなど走らない遊びをしていた。虫かごにたくさんのセミをとってくる子が多かった。</p> <p>熱中症対策のため、外遊びの時にはマスクを外すように声をかけ、塩タブレットや経口補水液を準備した。少しでも体感温度が下がるように玄関のそばにミストシャワーを取り付けた。子どもたちは嬉しそうにミストを浴び、虹が見えることに興奮する姿も見られた。</p> <p>お昼ご飯やおやつの間ではどうしても子どもたち同士でしゃべってしまうことが多く、感染対策のため食事中は私語厳禁と伝えた。また、全員が同一方向を向くように座った。</p>	<p>14日(水) 交通安全教室</p> <p>20日(火) 昼食会</p> <p>21日(水) 遊び方講座</p> <p>29日(月)～30日(金) 夏の工作(カバン染め)</p> <p>カバンに好きな色を2色選り自分たちで染めた。</p>	
8月	<p>当初の予定では24日までだった夏休みが新型コロナウイルス感染拡大を受け、31日まで延長となった。</p> <p>夏休みに入った当初は出席が50名を超える日もあり、一日を通し密になる日が多かった。人数が減ったお盆の時期でも出席が1/3を下回ることが無く1か月を通して出席率が高めだった。昼食時やおやつ時にマスクを外すので何度か学校のプレイルームを借りてお弁当を食べた。マスクを外す際はなるべく距離を取るよう座る場所に配慮した。</p> <p>8月初旬から日差しが強く、暑い日が続いたことで日中は外遊びへは行くことができず、おやつ後に虫捕りや散歩など日陰でできる遊びが中心になった。水遊びを今年は行わず、子どもたちも残念そうにしていた。</p> <p>LaQやブロックなどで大きな作品をじっくりと作ったり、職員がこびと図鑑の本を持って来たことで、こびと探しがブームになり、木陰でこびと探しをするなど、子どもたちは一日を通してのんびりと過ごしていた。</p>	<p>8月1日～31日 夏休み工作週間(染めバッグ作り)</p> <p>8月31日(火) 誕生会</p>	3名入所 6名退所 上記の内入所1名
9月	<p>新学期が一週間遅れで始まり、緊急事態宣言が延長され小学校の授業が午前授業となった。自宅学習時間分の宿題が出た。宿題が増えたことで保護者から学童クラブでの宿題時間を伸ばしてほしいと要望があった。勉強時間を毎日約1時間として対応した。</p> <p>9月中旬まで小学校の午前授業が続いたため、遊びの時間をたっぷり確保することができた。</p> <p>ブロックや工作の作品をじっくり作り上げる子が多かった。</p> <p>外遊びではサッカーのルールをめぐり、トラブルが発生することが続いたため、子どもたちと一緒にルールを確認してからサッカーを始めるようにした。</p>	<p>9月15日(水) 避難訓練</p> <p>9月22日(水) 誕生会</p>	入所1名
10月	<p>上旬は運動会練習の疲れが出るのか、イライラしている子がいた。一人で静かに読書などで過ごす子もいた。外遊びでは、鬼ごっこやサッカー、鉄棒、雲梯、ごっこ遊びなどをしていった。</p> <p>3年生は、初めてのお店屋さんになくわくしながら数回集まって準備を行った。みんなで頑張ってる準備をしてお店屋さんは大成功となった。</p> <p>10月25日(月)から冬時間降降が始まった。「ほうかごあんしんノート」を使って、「おるすばん講座」を行った。「ほうかごあんしんノート」は、10月はじめに各自に配布し、保護者の方と考える記入をしてきてもらった。講座が終わった後は各自持ち帰って、いざという時、家庭で見えるところにおいて活用するよう話をした。</p>	<p>10月13日(水) 誕生会</p> <p>10月20日(水) お留守番講座</p> <p>10月25日(月)</p> <p>10月27日(水)</p>	

11月	<p>外遊びでは電車ごっこやサッカー、鬼ごっこ、などで遊んでいた。また、学校で「ドッチボール大会」が行われるため、校庭のサッカーゴールがなくなり、今までサッカーで遊んでいた子たちは野球やドッチボールをして遊ぶようになった。サッカーで多かった採め事も少なくなり、楽しそうに遊ぶことが出来ていた。</p> <p>室内遊びでは11月上旬から始めた「カロム大会」に向けてカロムの練習をする子どもたちの姿がよく見られた。どこを打つといいのかなど、うまい子が周りに教えてくれたりとそれぞれが上手になるために一生懸命練習していた。「カロム大会」の試合に負けても、「来年はもっと勝ち上がる！」とさらに練習を重ねる子もいた。</p> <p>不審者情報が多かったためパトロールを強化した。帰りの会でも気を付けるように声掛けを行った。</p>	<p>11月8日(月)～19日(金) 冬工作(クリスマスリース)</p> <p>11月13日(土) 3年生遠足</p> <p>11月17日(水) 誕生会</p> <p>11月19日(金) 避難訓練</p> <p>11月24日(水)カロム講習</p>	2名退所
12月	<p>学校での影響か学童クラブでドッチボールをして遊ぶ子が多かった。今までルールを理解していなかった子もこの機会を通してルールを把握したようで、ドッチボールで遊ぶようになった。</p> <p>月末には気温も下がり、霜柱を探したり、グラウンド脇の池に氷が張っている様子を観察したりとこの季節特有の楽しみを子どもたちも味わった。</p> <p>学童クラブ内外で骨折などの怪我をする子が多く、室内で走らない等のルールを改めて子どもたちへ伝えた。実際に怪我のため配慮が必要な子を見て子どもたちも普段より気を使っていたが、怪我をしている子の方が走ったり、急に横になつたりしていたため個別的に職員をつけ配慮した。</p>	<p>15日(水) 誕生会</p> <p>17日(金) 防犯訓練</p> <p>22日(水) お楽しみ会</p> <p>23日(木) 昼食会</p> <p>27日(月) 大掃除</p>	1名退所
1月	<p>冬休み中は校庭の池に氷が張る様子を観察したり、落ち葉や枯れ木を集めて遊ぶ様子が見られた。寒さが厳しくなり風が強い日が多かったが、毎日元気に鬼ごっこやボール遊びで走り回っていた。新学期が始まると縄跳びや羽根つきを楽しむ子が増え、二重跳びの回数を競う姿や羽根つきの回数を数えラリーを楽しむ様子が見られた。</p> <p>室内では新しい「すごろく」が人気で日々違ったメンバーで色々な「すごろく」を楽しむ姿があった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症のオミクロン株の流行により小学校でも感染対策として日常生活や遊び時間のルールの見直しが周知されたことを受け、学童クラブでも外遊びでは距離をとった遊び方を提案し、おやつを食べる時には学年別にするなどの対応を行った。</p>	<p>21日(金) 避難</p> <p>19日(水)誕生会</p>	1名退所
2月	<p>新型コロナウイルス感染症に罹患する児童が増え、小学校では2年生・5年生が学年閉鎖になった。学童クラブでの受け入れは小学校に準ずる対応をした。またパーテーションを使って仕切り、学年を超えて不要な接触をしないように配慮した。ジャグや学童クラブのコップの使用を控え、水筒を持参するよう協力を呼びかけた。おやつの際は学年ごとに座った。学年閉鎖期間の出席児童は一時40名弱となったが、下旬にはまた出席児童が増えた。</p> <p>室内ではくずし将棋やカーリング、カロムなどが盛り上がり、室外では自作の紙飛行機をとばして楽しんだり、だるまさんが転んだなどで遊ぶ姿が見られた。</p> <p>校庭は霜で使えなくなっている部分があったため、範囲を決めて遊んだ。</p> <p>2年生が次年度のリーダーになるという意識をもって行動する準備として、帰りの会や降所グループのまとめ役を3年生から引継いだ。自分たちで順番に司会などの役割を担うことで新年度への希望や意欲を持てるようグループ内での雰囲気づくりとともに自覚を促した。</p>	<p>3日(木)節分</p> <p>16日(水)誕生会</p> <p>15日(火)～18日(金) 防犯教室</p>	3名退所 ※内1名入院のため
3月	<p>欠席する子が増えた。人数が少なくなったのでのんびり楽しそうに遊ぶ子どもたちの姿が見られた。部屋の中ではカロムや折り紙が流行り、来年度の新入生のために1年生がメダルづくりを頑張っていた。外遊びでは鬼ごっこをする子が多く、男女学年問わず仲よく遊んでいた。また、桜の花が満開になり、散っていく花びらを頑張って掴もうと春らしい遊びをしている子もたくさんいた。</p> <p>下旬になり、学年会議を行い子どもたちに進級する意識が出てきた。2年生は各グループでの日直などを慣れないながらも頑張っていた。</p> <p>22日に新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置が解除されたため、学年ごとに食べていたおやつは各グループごとに戻した。</p>	<p>9日(水) 防災訓練</p> <p>16日(水)誕生会</p> <p>23日(水)進級を祝う会</p> <p>24日(木) 昼食会・王様ドッチボール大会</p>	